鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書(122)

―― 農業開発総合センター建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅴ ――

農業開発総合センター遺跡群Ⅴ

SU WA WAKI
諏訪脇遺跡

SOU EN BORI
宗円堀遺跡

KAN BARU
神 原 遺 跡

KASITA NASI
頭 無 遺 跡

KASITA NASI SAKO DA
頭無迫田遺跡

2008年 3 月

鹿児島県立埋蔵文化財センター

遺跡遠景（空中写真）

①諏訪脇遺跡　出土土器（市来式）
②諏訪脇遺跡　出土埋設土器

宗円堀遺跡　土坑内出土遺物

①頭無遺跡　溝状遺構（空中写真）
②宗円掘・神原・頭無迫田遺跡　旧石器

序　　文

この報告書は，鹿児島県農業開発総合センター建設に伴って，平成11年度から平成15年度にかけて実施した南さつま市金峰町（旧日置郡金峰町）に所在する諏訪脇遺跡，宗円堀遺跡，神原遺跡，頭無遺跡及び頭無迫田遺跡の発掘調査の記録です。

諏訪脇遺跡では，縄文時代早期・晩期，弥生時代，古墳時代，古代，中世。宗円堀遺跡では，旧石器時代，縄文時代早期・晩期，中世。神原遺跡では，旧石器時代，縄文時代草創期・早期・晩期，古代。頭無遺跡では，縄文時代早期・晩期。頭無迫田遺跡では，旧石器時代，縄文時代早期・晩期，中世の遺構・遺物がそれぞれ発見されました。

旧石器時代では，宗円堀遺跡でナイフ形石器の製作跡と考えられるブロックが検出されたのをはじめ，神原遺跡，頭無迫田遺跡でそれぞれブロックや礫群，落とし穴が発見されています。

縄文時代早期では，前平式土器・吉田式土器・石坂式土器・押型文土器等の各型式土器が出土していますが，石坂式土器の出土量が多い点が注目されます。
縄文時代晩期では，諏訪脇遺跡で埋設土器が２基検出され，１間×１間の掘立柱建物跡や柱穴列が検出されています。

弥生時代・古墳時代の遺構・遺物は極端に少なく，諏訪脇遺跡で弥生時代前期の土器片が数点出土したのみです。

古代では，神原遺跡から頭無遺跡へかけての大溝が検出され，溝内から須恵器・土師器が出土しています。この溝は北側と南側に谷がせまっている野首状の地形に南北に掘られているもので，用途を考える手がかりになりそうです。

中世は，諏訪脇遺跡，宗円堀遺跡等で溝が検出されているほか，諏訪脇遺跡では，竪穴遺構も検出されています。

本報告書が，県民の皆様はじめ多くの方々に活用され，埋蔵文化財に対する関心とご理解をいただくとともに，文化財の普及・啓発の一助となれば幸いです。

最後に，調査に当たりご協力いただいた県農政部，南さつま市の教育委員会及び発掘調査に従事された地域の方々に厚く御礼申しあげます。

平成20年３月

鹿児島県立埋蔵文化財センター
所　長　　宮 原 景 信

報 告 書 抄 録

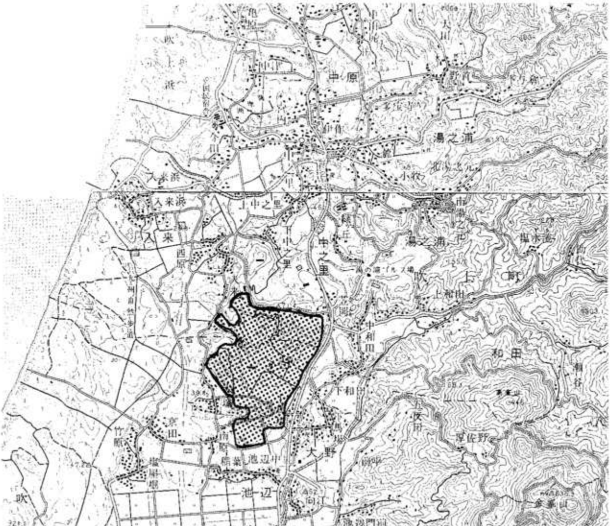
ふりがな	のうぎょうかいはつそうごうせんたーいせきぐん　すわわきいせき　そうえんぼりいせき　かんばるいせき　かしたなしいせき　かしたなしさこだいせき
書名	農業開発総合センター遺跡群Ⅴ（諏訪脇遺跡・宗円堀遺跡・神原遺跡・頭無遺跡・頭無迫田遺跡）
副書名	農業開発総合センター建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	Ⅴ
シリーズ名	鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書
シリーズ番号	１２２
編著者名	中村耕治・佐藤義明・関　明恵・吉岡康弘・石原田高広・新中なるみ・福薗慶明
編集機関	鹿児島県立埋蔵文化財センター
所在地	〒899-4318　鹿児島県霧島市国分上野原縄文の森２番１号　TEL０９９５－４８－５８１１
発行年月日	２００８年３月３１日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積㎡	調査起因
すわわき 諏訪脇遺跡	かごしまけん 鹿児島県 みなみさつまし 南さつま市 きんぽうちょう 金峰町	462209	35−68	31°28′ 37″	130° 20′45″	2000年度 2001年度 2002年度 2003年度	66,160	農業開発総合センター建設
そうえんぼり 宗円堀遺跡		462209	35−83	31°28′ 31″	130° 20′38″	2000年度 2001年度 2002年度	28,000	
かんばる 神原遺跡		462209	35−91	31°28′ 35″	130° 20′21″	2001年度 2002年度	13,050	
かしたなし 頭無遺跡		462209	35−90	31°28′ 28″	130° 20′27″	2003年度	3,190	
かしたなしさこだ 頭無迫田遺跡		462209	35−131	31°28′ 26″	130° 20′37″	1999年度 2000年度 2003年度	12,079	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な出土遺物	特記事項
諏訪脇遺跡	集落	縄文時代 （早期） （後期） （晩期） 弥生時代 中世	 集石遺構 掘立柱建物跡・土坑 柱穴列・埋設土器 方形土坑 竪穴状遺構・掘立柱建物跡・溝状遺構	 押型文 指宿式・市来式 上加世田式・入佐式・管玉 玦状耳飾 高橋式 青磁・白磁・土師器・須恵器	
宗円堀遺跡	集落	旧石器時代 縄文時代 （早期） （後期） （晩期） 中世	ブロック・礫群 集石遺構 柱穴列 溝状遺構	ナイフ形石器・三稜尖頭器 細石核・細石刃 前平式・石坂式・押型文 中原式 市来式 上加世田式・入佐式・玉類 青磁・白磁・土師器・須恵器	
神原遺跡	集落	旧石器時代 縄文時代 （草創期） （早期） （晩期） 古代	礫群 集石遺構 集石遺構 掘立柱建物跡・柱穴列・土坑 溝状遺構	ナイフ形石器・細石刃 スクレイパー・剥片 石坂式 入佐式 土師器・須恵器	
頭無遺跡	散布地	縄文時代 （早期） （晩期） 古代	 溝状遺構	 前平式・石坂式・平栫式 上加世田式	
頭無迫田遺跡	集落	旧石器時代 縄文時代 （早期） （晩期） 中世	落とし穴・ブロック 集積遺構 集石遺構 柱穴列 掘立柱建物跡	ナイフ形石器・台形石器 前平式・吉田式・石坂式・押型文・塞ノ神式 入佐式 青磁・土師器・須恵器	

要約

諏訪脇遺跡では，縄文時代早期と晩期の遺構・遺物が多く，早期の集石遺構，晩期の掘立柱建物跡（１間×１間），柱穴列が検出され，遺物も玦状耳飾りや管玉等が出土している。また，古代・中世では，溝状遺構・掘立柱建物跡，竪穴状遺構等の遺構が検出されている。宗円堀遺跡では，旧石器時代の石器製作に関わるブロックや礫群が検出されている。晩期では，土坑が検出され，上加世田式土器と管玉が出土している。神原遺跡では，旧石器時代の礫群，縄文時代草創期の集石遺構，晩期の柱穴列等が検出されている。また，古代のＶ字溝が頭無遺跡へかけて延びている。溝中からは須恵器・土師器が出土している。頭無迫田遺跡では，旧石器時代の集積遺構（チャート礫）と落とし穴，ブロックが検出され，縄文時代早期では集石遺構が10基検出されている。



農業センター遺跡群　位置図（1/50,000）

例　　言

1　本書は，鹿児島県農業開発総合センター建設に伴う諏訪脇遺跡，宗円堀遺跡，神原遺跡，頭無遺跡，頭無迫田遺跡の発掘調査報告書である。

2　本遺跡は，鹿児島県南さつま市金峰町（旧日置郡金峰町）に所在する。

3　発掘調査及び報告書作成は，鹿児島県農政部農業開発総合センター整備事務局から鹿児島県教育委員会が依頼を受け，鹿児島県立埋蔵文化財センターが担当した。

4　発掘調査は，諏訪脇遺跡を平成12・13・14・15年度に，宗円堀遺跡を平成12・13・14年度に，神原遺跡を平成13・14年度に，頭無遺跡を平成15年度に，頭無迫田遺跡を平成11・12・15年度に実施した。

　整理作業・報告書作成は平成18・19年度に実施した。

5　遺物番号は，各遺跡毎に通し番号とし，本文・挿図・表・図版の番号は一致する。

6　挿図の縮尺は，基本的に土器は３分の１，大型石器は３分の１，小型石器は原寸とするが，遺物によっては２分の１，４分の１，６分の１としたものがある。

　また，各挿図毎に縮尺を示している。

7　本書で用いたレベル数値は，農業開発総合センター整備事務局が提示した工事計画図面に基づく海抜絶対高である。

8　発掘調査における図面の作成，写真の撮影は調査担当者が行ったが，一部は株式会社埋蔵文化財サポートシステムに委託した。空中写真撮影は，有限会社ふじたに委託した。

9　遺構実測図のトレースは，整理担当者が行った。

10　土器の実測・トレースは，整理作業員の協力を得て整理担当者が行った。

11　石器の実測・トレースは，整理作業員の協力を得て整理担当者が行ったが，一部は国際航業株式会社，株式会社パスコ，株式会社九州文化財研究所，株式会社埋蔵文化財サポートシステム，大成エンジニアリング株式会社に委託し，監修は整理担当者が行なった。

12　遺構内から出土した炭化物の放射性炭素年代測定，樹種同定，火山灰の分析，埋設土器のリン・カルシウムの分析等は，株式会社古環境研究所とパリノサーベイ株式会社に委託した。

13　遺物の写真撮影は，吉岡康弘が行った。

14　本書の執筆・編集は，中村耕治・佐藤義明・関明恵・吉岡康弘・石原田高広・新中なるみ・福薗慶明が担当し，執筆分担は以下のとおりである。

第Ⅰ章	発掘調査の経過	中村耕治
第Ⅱ章	遺跡の位置と環境	佐藤義明
第Ⅲ章	層位	中村耕治
第Ⅳ章	諏訪脇遺跡の発掘調査成果	佐藤義明・吉岡康弘・石原田高広
第Ⅴ章	宗円堀遺跡の発掘調査成果	関　明恵・川元禎久・新中なるみ・福薗慶明
第Ⅵ章	神原遺跡の発掘調査成果	福薗慶明・中村耕治
第Ⅶ章	頭無遺跡の発掘調査成果	遠矢勝幸・新中なるみ
第Ⅷ章	頭無迫田遺跡の発掘調査成果	中村耕治・鶴田靜彦・佐藤義明

15　遺物は，鹿児島県立埋蔵文化財センターで保管し，展示活用する予定である。なお，各遺跡の遺物注記の略号は次のとおりである。諏訪脇遺跡（ノセワキ），宗円堀遺跡（ノセソウ）神原遺跡（ノセカン），頭無遺跡（ノセカシ），頭無迫田遺跡（ノセカサコ）。

凡　　例

：煤付着範囲　　：石皿作業面

：丹塗り範囲　　：黒色範囲

目　次

序文
報告書抄録
例言
凡例
第Ⅰ章　調査の経過 …… 1
第1節　調査に至るまでの経過 …… 1
第2節　調査の組織 …… 1
第3節　調査の経過 …… 1
第Ⅱ章　遺跡の位置と環境 …… 2
第1節　遺跡の位置 …… 2
第2節　周辺遺跡 …… 2
第Ⅲ章　層位 …… 4
第Ⅳ章　諏訪脇遺跡の発掘調査成果 …… 5
第1節　調査の経過と層位 …… 5
第2節　発掘調査の方法及び概要 …… 6
第3節　縄文時代の調査 …… 10
1　縄文時代早期の調査 …… 10
（1）遺構 …… 10
（2）遺物 …… 14
2　縄文時代前期・中期・後期の調査 …… 27
（1）遺物 …… 27
3　縄文時代晩期の調査 …… 29
（1）遺構 …… 29
（2）遺物 …… 44
第4節　弥生時代・古墳時代の調査 …… 67
（1）遺構 …… 67
（2）遺物 …… 68
第5節　古代・中世の調査 …… 69
（1）遺構 …… 70
（2）遺物 …… 94
第6節　小結 …… 97
第Ⅴ章　宗円堀遺跡の発掘調査 …… 99
第1節　調査の経過 …… 99
第2節　遺跡の層序 …… 105
第3節　発掘調査の方法及び概要 …… 105
第4節　旧石器時代の調査 …… 105
1　遺構 …… 105
2　遺物 …… 109
第5節　縄文時代の調査成果 …… 123
1　縄文時代早期 …… 123
（1）遺構 …… 123
（2）遺物 …… 125
2　縄文時代中期・後期 …… 160
（1）遺物 …… 160
3　縄文時代晩期 …… 160
（1）遺構 …… 160
（2）遺物 …… 166
第6節　小結 …… 169
第Ⅵ章　神原遺跡の発掘調査成果 …… 171
第1節　調査の経過と層位 …… 171
第2節　遺跡の層序 …… 179
第3節　発掘調査の方法及び概要 …… 179
第4節　旧石器時代の調査 …… 182
1　遺構 …… 182
2　遺物 …… 185
第5節　縄文時代の調査 …… 192
1　縄文時代草創期 …… 192
2　縄文時代早期 …… 196
（1）遺物 …… 196
3　縄文時代中期・後期 …… 202
4　縄文時代晩期 …… 202
（1）遺構 …… 202
（2）遺物 …… 204
第6節　古墳時代の調査 …… 209
第7節　古代・中世の調査 …… 209
1　遺構 …… 209
2　遺物 …… 218
第8節　小結 …… 219
第Ⅶ章　頭無遺跡の発掘調査成果 …… 221
第1節　調査の経過 …… 221
第2節　遺跡の層序 …… 224
第3節　調査の方法及び概要 …… 224
第4節　縄文時代の調査 …… 224
1　縄文時代早期 …… 224
（1）遺構 …… 224
（2）遺物 …… 227
2　縄文時代晩期 …… 230
（1）遺物 …… 230
第5節　古墳時代の調査 …… 233
1　遺物 …… 233
第6節　古代の調査 …… 233
1　遺構 …… 233
第7節　小結 …… 233

第Ⅷ章　頭無迫田遺跡の発掘調査成果 …………………… 235
第１節　調査の経過 ………………………………………… 235
第２節　発掘調査の方法及び概要 ………………………… 239
第３節　遺跡の層序 ………………………………………… 239
第４節　旧石器時代の調査成果 …………………………… 240
１　遺構 ……………………………………………………… 240
２　遺物 ……………………………………………………… 241
第５節　縄文時代の調査 …………………………………… 254
１　縄文時代早期の調査成果 ……………………………… 254
（１）遺構 …………………………………………………… 254
（２）遺物 …………………………………………………… 260
２　縄文時代後期の調査成果 ……………………………… 298
３　縄文時代晩期の調査成果 ……………………………… 298
（１）遺構 …………………………………………………… 298
（２）遺物 …………………………………………………… 298
第６節　中・近世の調査成果 ……………………………… 302
（１）遺構 …………………………………………………… 302
（２）遺物 …………………………………………………… 302
第７節　小結 ………………………………………………… 302
写真図版 ……………………………………………………… 303
あとがき

挿　図　目　次

第１図　周辺遺跡地図 ……………………………………… 3
第２図　模式柱状図 ………………………………………… 4

諏　訪　脇　遺　跡

第１図　諏訪脇遺跡位置図 ………………………………… 6
第２図　地形図及びグリッド配置図 ……………………… 7
第３図　土層断面図１ ……………………………………… 8
第４図　土層断面図２ ……………………………………… 9
第５図　縄文時代早期遺構配置図 ………………………… 10
第６図　縄文時代早期集石遺構１ ………………………… 11
第７図　縄文時代早期集石遺構２ ………………………… 12
第８図　縄文時代早期遺物出土状況図 …………………… 13
第９図　Ⅰ・Ⅱ類土器１ …………………………………… 15
第10図　Ⅱ類土器２ ………………………………………… 16
第11図　Ⅱ類土器３ ………………………………………… 17
第12図　Ⅱ類土器４～Ⅶ類土器 …………………………… 18
第13図　石鏃分類図 ………………………………………… 21
第14図　縄文時代早期石器１ ……………………………… 22
第15図　縄文時代早期石器２ ……………………………… 23
第16図　縄文時代早期石器３ ……………………………… 24
第17図　縄文時代早期石器４ ……………………………… 25
第18図　縄文時代早期石器５ ……………………………… 26
第19図　Ⅷ～Ⅺ類土器 ……………………………………… 27
第20図　縄文時代晩期遺構配置図 ………………………… 28
第21図　縄文時代晩期土坑配置図 ………………………… 29
第22図　縄文時代晩期土坑１及び土坑内遺物１ ………… 30
第23図　縄文時代晩期土坑内遺物２ ……………………… 31
第24図　縄文時代晩期土坑２ ……………………………… 32
第25図　縄文時代晩期埋設土器１ ………………………… 33
第26図　縄文時代晩期埋設土器２ ………………………… 34
第27図　縄文時代晩期掘立柱建物跡 ……………………… 35
第28図　縄文時代晩期柱穴列１ …………………………… 37
第29図　縄文時代晩期柱穴列２ …………………………… 38
第30図　縄文時代晩期柱穴列３ …………………………… 39
第31図　縄文時代晩期遺物出土状況図 …………………… 43
第32図　Ⅻ・ⅫⅠa類土器１ ………………………………… 45
第33図　ⅩⅢa類土器２ ……………………………………… 46
第34図　ⅩⅢb類土器１ ……………………………………… 47
第35図　ⅩⅢb類土器２ ……………………………………… 48
第36図　ⅩⅢb類土器３，Ⅻ・ⅩⅢ類土器１ ………………… 49
第37図　Ⅻ・ⅩⅢ類土器２ …………………………………… 50
第38図　Ⅻ・ⅩⅢ類土器３ …………………………………… 51
第39図　Ⅻ・ⅩⅢ類土器４ …………………………………… 52
第40図　ⅩⅢ類土器１ ………………………………………… 55
第41図　ⅩⅢ類土器２ ………………………………………… 56
第42図　ⅩⅢ類土器３ ………………………………………… 57
第43図　縄文時代晩期石器１ ……………………………… 59
第44図　縄文時代晩期石器２ ……………………………… 60
第45図　縄文時代晩期石器３ ……………………………… 61
第46図　縄文時代晩期石器４ ……………………………… 62
第47図　縄文時代晩期石器５ ……………………………… 63
第48図　縄文時代晩期石器６ ……………………………… 64
第49図　縄文時代晩期石器７ ……………………………… 65
第50図　縄文時代晩期石器８（垂飾品） ………………… 66
第51図　弥生・古墳時代遺構配置図及び遺物出土状況図 … 67
第52図　弥生時代竪穴状遺構 ……………………………… 67
第53図　弥生・古墳時代の遺物 …………………………… 68
第54図　古代・中世遺構配置図及び遺物出土状況図 …… 69
第55図　古代・中世掘立柱建物跡１ ……………………… 71
第56図　古代・中世掘立柱建物跡２ ……………………… 72
第57図　古代・中世掘立柱建物跡３ ……………………… 73
第58図　古代・中世掘立柱建物跡４ ……………………… 74

第59図　古代・中世掘立柱建物跡 5 …… 75
第60図　古代・中世掘立柱建物跡 6 …… 76
第61図　古代・中世溝状遺構 1 …… 79
第62図　古代・中世溝状遺構 2 …… 81
第63図　古代・中世溝状遺構 3 …… 82
第64図　古代・中世竪穴状遺構 …… 83
第65図　古代・中世溝状遺構内出土遺物 1 …… 84
第66図　古代・中世溝状遺構内出土遺物 2 …… 86
第67図　古代・中世溝状遺構内出土遺物 3（鉄滓） …… 87
第68図　古代・中世溝状遺構内出土遺物 4（鉄滓） …… 88
第69図　古代・中世溝状遺構 4 …… 89
第70図　古代・中世溝状遺構 5 …… 90
第71図　古代・中世溝状遺構 6 …… 91
第72図　古代・中世溝状遺構 7 …… 92
第73図　古代・中世溝状遺構 8 …… 93
第74図　古代・中世遺物 1（須恵器） …… 95
第75図　古代・中世遺物 2（土師器・白磁） …… 96

宗　円　堀　遺　跡

第 1 図　宗円堀遺跡位置図 …… 99
第 2 図　地形図及びグリッド配置図 …… 100
第 3 図　土層断面図（1） …… 101
第 4 図　東側調査区（O−10区〜P−11区）遺物出土状況図 …… 102
第 5 図　旧石器時代遺物出土状況図・遺構配置図 …… 103
第 6 図　石材毎の分布図 …… 104
第 7 図　礫群 1 …… 105
第 8 図　礫群 2 …… 106
第 9 図　礫群 3 …… 107
第10図　礫群 4 …… 108
第11図　礫群 5 …… 109
第12図　礫群 6 …… 110
第13図　旧石器 1 …… 111
第14図　旧石器 2 …… 112
第15図　旧石器 3 …… 113
第16図　旧石器 4 …… 114
第17図　旧石器 5 …… 115
第18図　旧石器 6 …… 116
第19図　旧石器 7 …… 117
第20図　旧石器 8 …… 118
第21図　旧石器 9 …… 119
第22図　旧石器10 …… 120
第23図　旧石器11 …… 121
第24図　旧石器12 …… 122
第25図　縄文時代早期集石遺構 …… 123
第26図　縄文時代早期遺物出土状況図・遺構配置図 …… 124
第27図　Ⅰ〜Ⅴ類土器 …… 125
第28図　Ⅵa 類土器 1 …… 126
第29図　Ⅵa 類土器 2 …… 127
第30図　Ⅵa 類土器 3 …… 128
第31図　Ⅵa 類土器 4 …… 129
第32図　Ⅵb 類土器 1 …… 130
第33図　Ⅵb 類土器 2 …… 131
第34図　Ⅵb 類土器 3 …… 132
第35図　Ⅵ類土器 1 …… 133
第36図　Ⅵ類土器 2 …… 134
第37図　Ⅵ類土器 3 …… 135
第38図　Ⅵ類土器 4 …… 136
第39図　Ⅶ類土器 1 …… 137
第40図　Ⅶ類土器 2 …… 138
第41図　Ⅶ類土器 3 …… 139
第42図　Ⅷ・Ⅸ・Ⅹ・Ⅺ・Ⅻ類土器 …… 140
第43図　縄文時代早期石器 1 …… 144
第44図　縄文時代早期石器 2 …… 145
第45図　縄文時代早期石器 3 …… 146
第46図　縄文時代早期石器 4 …… 147
第47図　縄文時代早期石器 5 …… 148
第48図　縄文時代早期石器 6 …… 149
第49図　縄文時代早期石器 7 …… 150
第50図　縄文時代早期石器 8 …… 151
第51図　縄文時代早期石器 9 …… 152
第52図　縄文時代早期石器10 …… 153
第53図　縄文時代早期石器11 …… 154
第54図　縄文時代早期石器12 …… 155
第55図　縄文時代早期石器13 …… 156
第56図　縄文時代早期石器14 …… 157
第57図　XIII・XIV・XV類土器 …… 160
第58図　土坑 …… 161
第59図　縄文時代晩期遺構配置図 …… 162
第60図　土坑内出土遺物 1 …… 162
第61図　土坑内出土遺物 2 …… 163
第62図　土坑内出土遺物 3 …… 164
第63図　柱穴列 …… 165
第64図　XVI・XVII類土器 …… 166
第65図　縄文時代晩期石器 …… 168

神　原　遺　跡

第１図　神原遺跡位置図 ……171
第２図　地形図及びグリッド配置図 ……172
第３図　土層断面図（１）……173
第４図　土層断面図（２）……174
第５図　旧石器時代遺構配置図及び遺物出土状況 ……175
第６図　旧石器時代石材別分布図 ……176
第７図　旧石器時代石器別分布図 ……177
第８図　旧石器時代礫群１ ……178
第９図　旧石器時代礫群２ ……179
第10図　旧石器１ ……180
第11図　旧石器２ ……181
第12図　旧石器３ ……182
第13図　旧石器４ ……183
第14図　旧石器５ ……184
第15図　旧石器６ ……185
第16図　旧石器７ ……186
第17図　旧石器８ ……187
第18図　旧石器９ ……188
第19図　旧石器10 ……189
第20図　縄文時代草創期遺構配置図 ……191
第21図　縄文時代草創期集石遺構１ ……192
第22図　縄文時代草創期集石遺構２ ……193
第23図　縄文時代早期遺物出土状況図 ……194
第23図　Ⅰ類・Ⅱ類土器 ……195
第25図　Ⅲ類・Ⅳ類土器 ……196
第26図　縄文時代早期石器１ ……197
第27図　縄文時代早期石器２ ……198
第28図　縄文時代早期石器３ ……199
第29図　縄文時代早期石器４ ……200
第30図　縄文時代早期石器５ ……201
第31図　Ⅴ類・Ⅵ類・Ⅶ類土器 ……202
第32図　縄文時代晩期遺構配置図 ……203
第33図　縄文時代晩期土坑及び土坑内遺物 ……204
第34図　縄文時代掘立柱建物跡 ……205
第35図　縄文時代晩期柱穴列 ……206
第36図　縄文時代晩期土器 ……207
第37図　縄文時代晩期石器 ……208
第38図　古墳時代土器 ……209
第39図　古代溝状遺構１ ……210
第40図　古代溝状遺構２ ……211
第41図　古代溝状遺構３（断面図）……212
第42図　古代溝状遺構内遺物出土状況図１ ……213
第43図　古代溝状遺構内遺物出土状況図２ ……214
第44図　古代溝状遺溝内出土遺物１ ……215
第45図　古代溝状遺溝内出土遺物２ ……216
第46図　古道及び古道内出土遺物 ……217
第47図　古代・中世遺物 ……218

頭　無　遺　跡

第１図　頭無遺跡位置図 ……221
第２図　地形図及びグリッド配置図 ……222
第３図　土層断面図 ……223
第４図　縄文時代早期１～６号集石遺構 ……225
第５図　縄文時代早期７・８号集石遺構 ……226
第６図　集石遺構内遺物 ……227
第７図　縄文時代早期土器 ……228
第８図　縄文時代早期石器 ……229
第９図　縄文時代晩期土器 ……230
第10図　縄文時代晩期石器１ ……231
第11図　縄文時代晩期石器２ ……232
第12図　古墳時代土器 ……233

頭無迫田遺跡

第１図　頭無迫田遺跡位置図 ……………………235
第２図　頭無迫田遺跡地形図グリッド配置図 ………… 236
第３図　土層断面図１ ………………………………… 237
第４図　土層断面図２ ………………………………… 238
第５図　旧石器時代遺物出土状況 …………………… 239
第６図　落とし穴 ……………………………………… 240
第７図　チャート集積遺構 …………………………… 240
第８図　旧石器１ ……………………………………… 241
第９図　旧石器２ ……………………………………… 242
第10図　旧石器３ ……………………………………… 243
第11図　旧石器４ ……………………………………… 244
第12図　旧石器５ ……………………………………… 245
第13図　旧石器６ ……………………………………… 246
第14図　旧石器７ ……………………………………… 247
第15図　旧石器８ ……………………………………… 248
第16図　旧石器９ ……………………………………… 249
第17図　旧石器10 ……………………………………… 250
第18図　旧石器11 ……………………………………… 251
第19図　旧石器12 ……………………………………… 252
第20図　旧石器13 ……………………………………… 253
第21図　縄文時代早期集石遺構配置図・１号集石遺構 … 254
第22図　２号・３号集石遺構 ………………………… 255
第23図　４号・５号・６号集石遺構 ………………… 256
第24図　７号・８号集石遺構 ………………………… 257
第25図　９号・10号集石遺構 ………………………… 258
第26図　縄文時代早期遺物出土状況 ………………… 259
第27図　Ⅰ類土器 ……………………………………… 260
第28図　Ⅱ類土器１ …………………………………… 261
第29図　Ⅱ類土器２ …………………………………… 262
第30図　Ⅱ類土器３ …………………………………… 263
第31図　Ⅱ類土器４ …………………………………… 264
第32図　Ⅲ類土器１ …………………………………… 266
第33図　Ⅲ類土器２ …………………………………… 267
第34図　Ⅲ類土器３ …………………………………… 268
第35図　Ⅲ類土器４ …………………………………… 269
第36図　Ⅳ類土器 ……………………………………… 270
第37図　Ⅴ類土器１ …………………………………… 273
第38図　Ⅴ類土器２ …………………………………… 274
第39図　Ⅴ類土器３ …………………………………… 275
第40図　Ⅴ類土器４ …………………………………… 276
第41図　Ⅴ類土器５ …………………………………… 277
第42図　Ⅴ類土器６ …………………………………… 278
第43図　Ⅴ類土器７ …………………………………… 279
第44図　Ⅴ類土器８ …………………………………… 280
第45図　Ⅴ類土器９ …………………………………… 281
第46図　Ⅴ類土器10 …………………………………… 282
第47図　Ⅴ類土器11 …………………………………… 283
第48図　Ⅴ類土器12 …………………………………… 284
第49図　Ⅵ・Ⅶ・Ⅷ・Ⅸ・Ⅹ・Ⅺ類土器 ……………… 287
第50図　縄文早期石器１ ……………………………… 288
第51図　縄文早期石器２ ……………………………… 289
第52図　縄文早期石器３ ……………………………… 290
第53図　縄文早期石器４ ……………………………… 291
第54図　縄文早期石器５ ……………………………… 292
第55図　縄文早期石器６ ……………………………… 293
第56図　縄文早期石器７ ……………………………… 294
第57図　縄文早期石器８ ……………………………… 295
第58図　縄文早期石器９ ……………………………… 296
第59図　縄文早期石器10 ……………………………… 297
第60図　Ⅻ類土器 ……………………………………… 298
第61図　縄文時代晩期柱穴列 ………………………… 298
第62図　ⅩⅢ類土器 …………………………………… 299
第63図　縄文晩期石器１ ……………………………… 300
第64図　縄文晩期石器２ ……………………………… 301
第65図　中・近世の遺物 ……………………………… 302

図 版 目 次

巻頭カラー１　遺跡遠景（空中写真）
巻頭カラー２　①諏訪脇遺跡出土土器（市来式）
②諏訪脇遺跡出土埋設土器
巻頭カラー３　宗円堀遺跡土坑内出土遺物
巻頭カラー４　①頭無遺跡溝状遺構（空中写真）
②宗円堀，神原，頭無迫田遺跡旧石器
図版１－諏訪脇遺跡遠景及び土層・集石遺構 ……303
図版２－諏訪脇遺跡埋設土器 …… 304
図版３－諏訪脇遺跡遺構検出状況・遺物出土状況 …… 305
図版４－①諏訪脇遺跡弥生時代竪穴状遺構 …… 306
図版４－②～⑦諏訪脇遺跡古代・中世遺構 ……306
図版５－①～④諏訪脇遺跡古代・中世溝状遺構 …… 307
図版５－⑤・⑥諏訪脇遺跡掘立柱建物跡 …… 307
図版６－諏訪脇遺跡掘立柱建物跡 …… 308
図版７－諏訪脇遺跡縄文時代早期土器 …… 309
図版８－①諏訪脇遺跡縄文時代早期石器 …… 310
図版８－②諏訪脇遺跡縄文時代中期・後期土器 …… 310
図版９－諏訪脇遺跡縄文時代晩期土器１ …… 311
図版10－諏訪脇遺跡縄文時代晩期土器２ …… 312
図版11－諏訪脇遺跡縄文時代晩期石器 …… 313
図版12－諏訪脇遺跡弥生・古墳時代・古代・中世遺物 … 314
図版13－①宗円堀遺跡土層断面 …… 315
図版13－②宗円堀遺跡遠景 …… 315
図版13－③・④・⑤・⑥宗円堀遺跡旧石器出土状況 … 315
図版13－⑦宗円堀遺跡作業風景 …… 315
図版13－⑧宗円堀遺跡土層断面 …… 315
図版14－宗円堀遺跡旧石器遺物出土状況 …… 316
図版15－宗円堀遺跡旧石器礫群・縄文晩期柱穴列 …… 317
図版16－宗円堀遺跡縄文晩期土坑・調査終了状況 …… 318
図版17－宗円堀遺跡旧石器時代石器１ …… 319
図版18－宗円堀遺跡旧石器時代石器２ …… 320
図版19－宗円堀遺跡縄文時代早期土器１ …… 321
図版20－宗円堀遺跡縄文時代早期土器２ …… 322
図版21－宗円堀遺跡縄文時代早期石器１ …… 323
図版22－宗円堀遺跡縄文時代早期石器２・３ …… 324
図版23－①宗円堀遺跡縄文時代中期・後期土器 …… 325
図版23－②宗円堀遺跡縄文時代晩期土坑内土器１ …… 325
図版24－宗円堀遺跡縄文時代晩期土坑内土器２ …… 326
図版25－神原遺跡遠景及び旧石器時代礫群 ……327
図版26－①神原遺跡旧石器遺物集中区 …… 328
図版26－②・③神原遺跡草創期集石遺構 …… 328
図版26－④～⑧神原遺跡縄文時代晩期遺構 ……328
図版27－①～④神原遺跡縄文時代晩期遺構 ……329
図版27－⑤・⑥神原遺跡古代溝状遺構 …… 329
図版28－神原遺跡古代溝状遺構及び古道 …… 330
図版29－神原遺跡旧石器時代石器 …… 331
図版30－神原遺跡縄文時代早期土器 …… 332
図版31－神原遺跡縄文時代中期・後期・晩期土器 …… 333
図版32－神原遺跡溝状遺構内出土遺物 …… 334
図版33－①頭無遺跡調査風景 …… 335
図版33－②頭無遺跡古代溝状遺構 …… 335
図版33－③～⑦頭無遺跡縄文時代早期集石遺構 …… 336
図版34－①頭無遺跡縄文時代土器 …… 336
図版34－②頭無遺跡縄文時代石器 …… 336
図版35－①頭無迫田遺跡近景 …… 337
図版35－②頭無迫田遺跡旧石器時代ブロック検出状況 … 337
図版35－③頭無迫田遺跡旧石器時代チャート集積遺構 … 337
図版35－④頭無迫田遺跡旧石器時代落とし穴半裁状況 … 337
図版36－①頭無迫田遺跡縄文時代早期遺物出土状況 … 338
図版36－②頭無迫田遺跡旧石器時代（ナイフ）出土状況… 338
図版36－③～⑤頭無迫田遺跡縄文時代早期集石遺構 … 338
図版37－①・②頭無迫田遺跡縄文時代早期集石遺構 … 339
図版37－③頭無迫田遺跡縄文時代早期土器出土状況 … 339
図版37－④頭無迫田遺跡縄文時代晩期土器出土状況 ……339
図版37－⑤・⑥頭無迫田遺跡縄文時代晩期１号・２号柱穴列 …339
図版38－頭無迫田遺跡旧石器時代石器 …… 340
図版39－頭無迫田遺跡縄文時代早期土器１ ……341
図版40－頭無迫田遺跡縄文時代早期土器２ ……342
図版41－頭無迫田遺跡縄文時代早期土器３ ……343
図版42－頭無迫田遺跡縄文時代早期土器４ ……344
図版43－頭無迫田遺跡縄文時代早期土器５ ……345
図版44－頭無迫田遺跡縄文時代早期土器６ ……346
図版45－頭無迫田遺跡縄文時代早期石器 ……347
図版46－頭無迫田遺跡縄文時代晩期土器・石器 ……348

第Ⅰ章　調査の経過

第１節　調査に至るまでの経過

県農政部農業開発総合センター整備事務局（以下農開総センター整備事務局）は，「鹿児島県総合基本計画」（平成６年）に基づく戦略プロジェクト「食の創造拠点鹿児島の形成」の一環として，鹿児島県農業開発総合センター建設事業を日置市吹上町（大字入来・中之里・湯之浦・和田）南さつま市金峰町（大字大野・代表地番南さつま市金峰町大野諏訪前2935－1番地）内において計画した。このため農開総センター整備事務局は，本事業に先立って，対象地内における埋蔵文化財の有無について県教育庁文化課（平成８年から文化財課以下文化財課）に照会を行った。これを受けた文化財課は，平成６年11月に分布調査を実施した。その結果，事業区域内の対象面積1,347,900㎡に10遺跡が存在することが判明した。

分布調査の結果を受けて，県農政部・文化財課・県立埋蔵文化財センター（以下埋文センター）の三者で協議した結果，対象地内の遺跡の範囲と性格を把握するために当該地域において確認調査を実施することとし，調査は埋文センターが担当した。

確認調査は，平成８・９年度に実施した。確認調査の結果，24遺跡（約10,000㎡）が存在することが明らかになり，建築物予定地及び圃場整備により削平される部分等について記録保存のための本調査を平成15年度まで実施した。

報告書作成のための整理作業は平成15年度からはじめて，平成16年度に日置市（旧日置郡吹上町）に所在する７遺跡の報告書を刊行した。平成17年度に南さつま市（旧日置郡金峰町）に所在する４遺跡について報告書を刊行した。平成18年度は南さつま市金峰町における諏訪牟田遺跡・諏訪前遺跡・南原内堀遺跡・加治屋堀遺跡の４遺跡の報告書を刊行した。平成19年度は，南さつま市金峰町の諏訪脇遺跡・宗円堀遺跡・神原遺跡・頭無遺跡・頭無迫田遺跡の５遺跡について報告書を刊行することにした。

平成18年度からは，事業主体者が農開総センター整備事務局から，経営技術課技術管理課に移管された。

第２節　調査の組織

平成19年度

事業主体者	鹿児島県経営技術課技術管理係		
整理主体者	鹿児島県教育委員会		
整理責任者	鹿児島県立埋蔵文化財センター		
		所長	宮原　景信
整理企画者	〃	次長兼総務課長	平山　章
	〃	次長兼南の縄文調査室長	新東　晃一
	〃	調査第一課長	池畑　耕一
	〃	主任文化財主事兼調査第一課第二調査係長	中村　耕治
整理担当者	〃	第二調査係長	中村　耕治
	〃	文化財主事	佐藤　義明
	〃	文化財主事	関　明恵
	〃	文化財主事	吉岡　康弘
	〃	文化財主事	石原田高広
	〃	文化財主事	新中なるみ
	〃	文化財主事	福薗　慶明
事務担当者	〃	総務係長	寄井田正秀
	〃	主事	田之畑美幸

整理指導　鹿児島大学法文学部准教授　本田　道輝

報告書作成検討委員会　平成19年12月17日（月）
　宮原所長他11名

報告書作成指導委員会　平成19年12月11日（火）
　新東次長他１名

企画担当　井ノ上秀文・黒川忠広・横手浩二郎

第３節　調査の経過

諏訪脇遺跡・宗円掘遺跡・神原遺跡・頭無遺跡・頭無迫田遺跡は，平成６年度の分布調査により確認されたもので，平成８・９年度の確認調査で旧石器時代から中世までの遺物が出土することが判明した。本調査は，平成10年度から平成15年度まで，農業大学校用地及び耕種試験場用地の中で建築物予定地，幹線道路，研究畑等で削平される範囲，深さについて実施した。詳細については各遺跡の概要で記す。

第Ⅱ章　遺跡の位置と環境

第１節　遺跡の位置

農業開発総合センター建設予定地は南さつま市金峰町大野と日置市吹上町和田・中之里・入来に計画され，敷地面積180ヘクタールと広範囲に及ぶものである。

南さつま市は，平成17年度に加世田市・笠沙町・大浦町・金峰町の１市３町が合併してできたもので，人口約4,2000人の市となったものである。

南さつま市金峰町は，西側は東シナ海に面し，中央に金峰山がそびえ，東から西へ山地・シラス台地・低地・海岸砂丘へと続く地勢を示す。また，万之瀬川の支流堀川・鏡川・岩元川・長谷川が山地や台地を縫うように西流している。これらの河川に開析された谷が発達し，谷に面した台地上に多くの遺跡が存在する。代表的な遺跡としては，縄文時代の阿多貝塚・弥生時代の高橋貝塚・松木薗遺跡，古墳時代の中津野遺跡が知られているが，近年万之瀬川の河川改修に伴う調査で，持躰松遺跡・芝原遺跡など古代から中世の重要な遺跡も発見されている。

第２節　周辺遺跡

金峰町側は主に耕種試験場関連の計画地であるが，大字は大野で大野原と呼ばれている広大な台地である。遺跡は，ほぼ全域に渡って存在し，旧石器時代・縄文時代・弥生時代・古墳時代・古代・中世・近世と各時代の遺構・遺物が出土している。金峰町は，古くより発掘調査が行われ，県内外で著名な遺跡が多い。以下に代表的な遺跡を挙げる。

【小中原遺跡】旧石器時代・縄文時代早期・古代の遺構・遺物が多く出土した遺跡である。現在残っている阿多という地名と同じ「阿多」という文字が刻まれた土師器が出土したことでも注目された遺跡である。

【阿多貝塚】縄文時代前期を中心とした遺跡で，人骨の出土した上焼田遺跡と共に貝塚を形成する希少な遺跡である。

【上水流遺跡】縄文時代前期～晩期の夥しい遺物が出土している。その中には，南島との交流を窺わせる遺物(南島系の土器)も見られる。古墳時代になると遺構数も増加し内容も豊富になる。

【下原遺跡】縄文時代から弥生時代への移行期に当たる遺跡で，籾痕の認められる土器片が出土し，早くから稲作が行われていたことが窺えるものである。

【高橋貝塚】下原遺跡に後続するものであるが，弥生時代前期の土器（高橋式）と共に籾痕のある土器片・柱状抉入石器・ノミ形石器・磨製石鏃・磨製石剣・石鎌・石庖丁等が出土しており，稲作農耕がいち早く伝わってきたことを物語る遺跡である。また，南海産のゴホウラ貝が出土することから，南島との関わりも考えられる。

【下小路遺跡】県内では数少ない合口甕棺が発見され，弥生時代中期に北部九州との交流があったことが知られる。

【下堀遺跡】弥生時代中期の集落が確認され，大隅半島から西海岸に分布する間仕切りをもつ竪穴住居跡が当地方にも存在することが知られた。また，中九州や北部九州系の土器が多く出土している点も注目されている。

【松木薗遺跡】弥生時代後期の大溝（幅４～５ｍ・深さ３ｍのＶ字状）が発見され環状集落の可能性を想定させられる。また，溝中より一括出土した多量の土器は，それまで希薄だった弥生時代後期の土器編年に欠かせないものである。

【中津野遺跡】弥生時代から古墳時代への移行期にあたる土器群が出土している。

【持躰松遺跡・芝原遺跡・渡畑遺跡】万之瀬川改修工事に伴う近年の調査から古代・中世の遺構・遺物が数多く発見されている。特に中世の中国製陶磁器が大量に出土しており，南島・中国との交流が大きく取り沙汰されている。平成16・17年度の調査では，縄文時代後期の足形土製品が渡畑遺跡と芝原遺跡から出土し接合している。

【荒平古窯跡群】県内でも数少ない古代須恵器窯で生産遺跡の研究上欠かせないものである。

【白樫野遺跡】石組を伴った墓壙が発見され，中から土師器の蔵骨器と四隅に「山」と墨書された土師器坏と鍛冶滓･鞴の羽口２点が出土している。

南薩地域は，鹿児島県内でも遺跡の多い地域で，考古学の調査がいち早く行われている。特に金峰町・吹上町は前述のような鹿児島県を代表するような遺跡が目白押しである。農業開発総合センター建設の予定地も広大な台地の中に大小の開析谷が入り込み遺跡の立地条件としてふさわしい地域をなしている。そのため，旧石器時代から近世まで幅広い時代の遺跡が24か所も存在する。各遺跡についてはそれぞれで詳述することにする。

遺跡地名表（金峰町）

番号	遺跡名	所在地	時　代	番号	遺跡名	所在地	時　代
1	塚山	大　野	古墳	22	寺下	大　野	中世
2	大塚	〃	古墳	23	京田	〃	縄文・古墳・中世
3	尾ヶ原	〃	縄文早～晩期・弥生・古墳	24	京田原	〃	古墳
4	諏訪牟田	〃	縄文・古墳・古代・中世	25	鎮守尾	〃	古墳・中世
5	諏訪前	〃	縄文早期・晩期	26	南原A	〃	縄文中期・後期
6	馬塚松	〃	縄文晩期・中世・近世	27	砂漠	池　辺	古墳
7	諏訪脇	〃	縄文早期・晩期・中世	28	小堀	〃	古墳・古代
8	大門口	〃	縄文早期・晩期	29	萩ノ上	〃	古墳
9	宗円堀	〃	旧石器・縄文早期・中世	30	地頭堀	〃	古墳・古代
10	荒田	〃	旧石器・縄文早期	31	塩屋堀	〃	古墳
11	秋場	〃	旧石器	32	玄同堀	〃	古墳・中世
12	桜谷	〃	旧石器・縄文早期・弥生	33	主水堀	〃	弥生・古墳
13	神原	〃	旧石器・縄文早期・古代	34	秋葉下	〃	古墳
14	頭無	〃	縄文早期・古代	35	島田	〃	古墳
15	市堀	〃	縄文早期・中世	36	宮園	〃	古墳・古代
16	頭無迫田	〃	旧石器・縄文早期・中世	37	牟礼ヶ城跡	〃	中世
17	加冶屋堀	〃	縄文	38	小城田	〃	縄文
18	中尾	〃	旧石器・縄文草創期・早期	39	本寺	〃	古墳
19	南原内堀	〃	縄文後期・晩期	40	前平	〃	縄文・古墳
20	南原外堀	〃	古墳・古代	41	宮の前	〃	縄文・古代
21	原口	〃	古墳・古代				

第１図　周辺遺跡位置

第Ⅲ章　層位

第２図　模式柱状図

農業開発総合センター予定地は，旧日置郡金峰町と吹上町にまたがる南北２km，東西1.5kmの広大な範囲に及ぶ。地形も標高86ｍから13ｍと高低差があり，山・台地・沖積地・開析谷と変化に富んでいる。そのために，それぞれの地点で層位が異なっている。第２図は，台地部分の標準的な地層の模式図である。

また，以下の各層の説明も標準的なものである。

本遺跡もほぼ同様であり，これにならうこととする。

【Ｉ層　灰黒色土】

現在の耕作土。白色の小軽石を含むことによってⅡ層との区別が可能である。地点によっては，ａ・ｂ・ｃの３層に細分できる。Ｉｃ層は黒色に近い色調であるが，３㎜大の白色軽石が混在している。中世末から近世初めの層である。Ｉ層の平均的な厚さは20㎝程度であるが，圃場整備により削平されたり，盛り土されたりしており一定ではない。

【Ⅱ層　黒色土】

弥生時代・古墳時代・奈良時代～鎌倉時代の遺物包含層である。圃場整備により削平されている部分が多いが，谷の部分などを中心に良好残存している。層厚10～30㎝。

【Ⅲ層　黄橙色火山灰土】

鬼界カルデラ起源のアカホヤ火山灰（BP6400年）とその腐植土である。上位（Ⅲａ層）はⅡ層との漸位層であり，やや黒色を帯びている。縄文時代晩期及び弥生時代前期の遺物包含層である。中位（Ⅲｂ層）は縄文時代前期から後期の遺物包含層である。下位（Ⅲｃ層）はアカホヤ火山灰の一次堆積と考えられるが残存状況は悪く，Ⅳ層との境目が明瞭ではない。層厚30～40㎝。

【Ⅳ層　黄褐色土】

Ⅲ層と類似するが，より褐色味を帯び粘質である。縄文時代早期の遺物包含層で層厚20～30㎝。

【Ⅴ層　黒褐色土】

硬質でよくしまる。２～３㎝大の黄橙色のパミスが混入する。縄文時代早期の遺物包含層で層厚30㎝。

【Ⅵ層　暗黄橙色火山灰土】

桜島起源の薩摩火山灰（BP11,500年）である。非常に薄くブロック状に堆積している。層厚は厚い所で15㎝程度堆積している。

【Ⅶ層　明茶褐色土】

粘質土であるが，火山灰の混入によるザラついた感触をもつ。縄文時代草創期の遺物包含層である。層厚10㎝。

【Ⅷ層　茶褐色粘質土】

いわゆるチョコ層である。粘質が強く含水率が高い。旧石器時代から縄文時代草創期の遺物包含層である。層厚10㎝。

【Ⅸ層　暗茶褐色粘質土】

Ⅷ層とほとんど同じ土質であるが，Ⅷ層に比べてやや褐色味を帯び，シルト質化している。旧石器時代の遺物包含層である。層厚30㎝。

【Ⅹ層　黄橙色シルト質（シラス質）】

シラスの腐植したもので，５㎝大の黄色軽石を含む。上位は旧石器時代（ナイフ形石器文化）の遺物包含層である。層厚80㎝。

【Ⅺ層　白色シラス】

姶良カルデラ起源のシラス（BP24,500年）である。近辺の露頭では，十数ｍの堆積が見られる。

各遺跡の大半が標準土層のとおりであるが，宗円掘遺跡の丘陵部分については，上位の層の堆積が薄く，基盤である岩盤までが浅いため層位的にとらえられなかった部分もある。また，諏訪脇遺跡・頭無迫田遺跡などでは上層部が削平されている範囲も見られた。詳細については各遺跡の調査成果の項で記述することとする。

諏　訪　脇　遺　跡

第Ⅳ章　諏訪脇遺跡の発掘調査成果

第１節　調査の経過と層位

諏訪脇遺跡の本調査は，平成12年７月に行った農開総センター事務局との現地協議の結果に基づいて調査区域と調査深度を設定し，国土座標に沿って一辺20ｍの調査区画（グリッド）を設け，平成12～15年度に実施した。

１　平成12年度日誌抄

９月　調査開始。グリッド設定の準備・杭打ち。表土剥ぎ(ユンボ)。確認トレンチ掘り下げ。

10月　Ａ－１・２区，Ｂ－２・３区，Ｃ－１～４区，Ｄ－３・４区，Ｆ－５・６区Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ層上面までの掘り下げ。Ｈ－５・６区　先行トレンチ（シラス上面までの下層確認)。柱穴列・土坑・掘立柱建物跡，検出，写真撮影，実測。

11月　Ａ－１・２区，Ｂ－２・３区Ⅳ層掘り下げＣ－２・３区Ⅳ～Ⅴ層上面掘り下げ。土坑検出，写真撮影，遺物取り上げ。土坑内遺物出土状況写真撮影，実測。

12月　Ｂ－２・３区，Ｃ－２・３区Ⅴ層掘り下げ。集石検出。Ｂ－２区土層断面図実測。拡張部分表土剥ぎ（ユンボ)。

１月　拡張部分Ⅲ層上面まで掘り下げ。コンタ図作成。グリッド杭打ち。Ｂ－２区集石写真撮影。Ａ－１・２区，Ｂ－１・２区Ⅳ層掘り下げ。Ｂ・Ｃ－い区，Ｃ－え区，Ｄ－う～え区，Ｄ・Ｅ－お区下層確認トレンチ掘り下げ。幹道トレンチ北壁土層断面実測終了。

２月　道路部分トレンチ１西壁断面実測。土坑，集石，実測。Ｂ－３区土坑周辺部掘り下げ。

平成13年度日誌抄

２月　Ⅲ層遺物取り上げ。遺構精査・半裁。

平成14年度日誌抄

10月　表土剥ぎ。Ⅲ層精査。遺構検出。配置図作成。Ｂ－４・６区トレンチ掘り下げ。Ⅲ層掘り下げ。遺物取り上げ。

11月　Ｄ－６区溝状遺構写真撮影。Ａ・Ｂ－３・４区Ⅲ層掘り下げ。遺物取り上げ。遺構検出。溝状遺構検出写真撮影。埋土掘り下げ。

12月　竪穴状遺構断面写真撮影。溝状遺構土層断面図作成。掘立柱建物跡埋土掘り下げ。トレンチ掘り下げ。Ⅲ層遺物取り上げ。

１月　Ｊ－５・４，Ｉ－２・３，Ｈ－２Ⅱ層掘り下げ。遺物取り上げ（Ⅱ～Ⅳ層）Ｋ・Ｌ－18～20区Ⅳ層掘り下げ

２月　Ｋ－20区Ⅲ層上加世田式土器出土。Ｊ・Ｋ－18～20区Ⅲ層掘り下げ。旧石器出土。空中写真撮影。集石実測。Ｊ・Ｋ－18･19区，Ｌ－19区Ⅷ層掘り下げ。Ｇ・Ｈ－１・２区，Ｉ－２・３区Ⅱ～Ⅳ層掘り下げ。遺物取り上げ。精査。写真撮影。礫群検出。実測。

３月　Ｍ・Ｎ－７・８区，Ｎ－３・４区，Ｎ～Ｐ－１～３区溝状遺構完掘，写真撮影。コンタ図。Ｃ－１・２・あ，Ｄ－１・あ，Ｅ－１・あ区Ⅲ層遺物取り上げ。Ｅ・Ｆ－１・あ，Ｄ・Ｅ－い・う，Ｈ・Ｉ－う・え区ⅡⅢ層掘り下げ。

平成15年度日誌抄

５月　Ｄ・Ｅ・Ｆ－１・あ・い区Ⅲ層掘り下げ。遺物取り上げ。遺構実測。埋設土器写真撮影。竪穴状遺構実測。

２　層序

諏訪脇遺跡は大野原台地の北側に位置しており，その層序は，農業開発総合センター遺跡群における標準的な層序と同様である。昭和40年代に圃場整備が行われているため，現在はほぼ平坦な地形である。

古代～中世は，Ⅱ層に当たり，溝状遺構・掘立柱建物跡・竪穴状遺構・鉄滓・陶磁器類等が検出された。弥生時代もⅡ～Ⅲａ層に相当し，方形土坑・壺型土器等が検出された。縄文時代晩期は，Ⅲａ層に当たり，掘立柱建物跡・柱穴列・土坑・埋設土器・石器が検出された。縄文時代後期～中期は，Ⅲｂ層に相当し僅かではあるが土器が出土した。縄文時代早期はⅣ～Ⅴ層に当たり，集石遺構・土器・石器が検出された。

第２節　発掘調査の方法及び概要

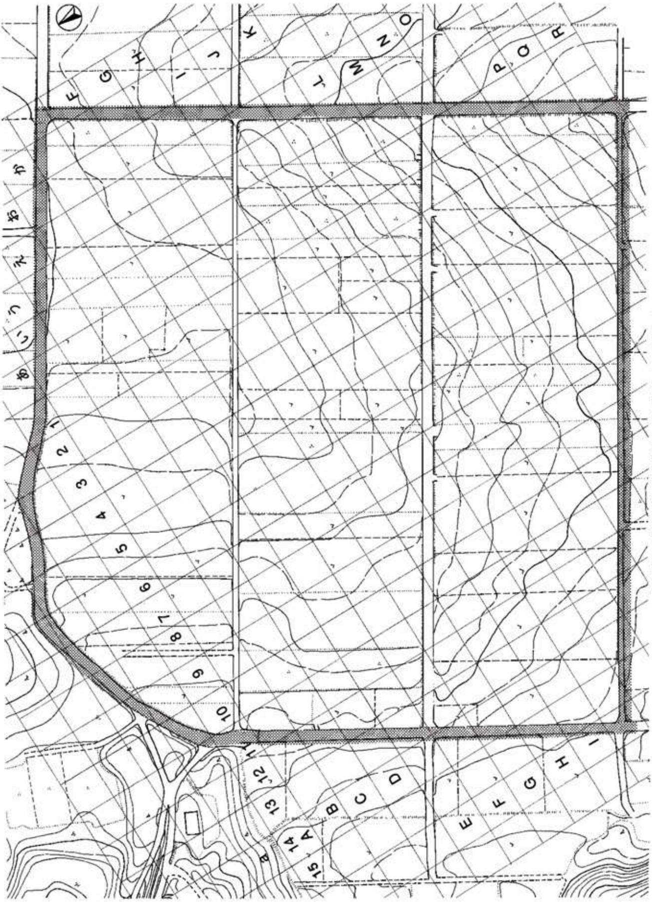
諏訪脇遺跡は，農業開発総合センターの研究畑並びに展示施設予定地部分で，南南西方向に緩やかに傾斜した台地の中程に立地し，台地先端部の宗円堀遺跡と隣接している。また，北側は諏訪牟田遺跡，東側は大門口遺跡，西側は馬塚松遺跡とも，それぞれ隣接している。

調査前の現状は，畑地として利用されていた。調査のためのグリッドは20ｍ×20ｍで設定し，調査面積は約48,300㎡である。調査方法は表土を重機で掘り下げ，その後，人力での掘削を行った。縄文時代早期・後期・晩期，弥生時代，古代，中世の遺構・遺物が検出・出土した。

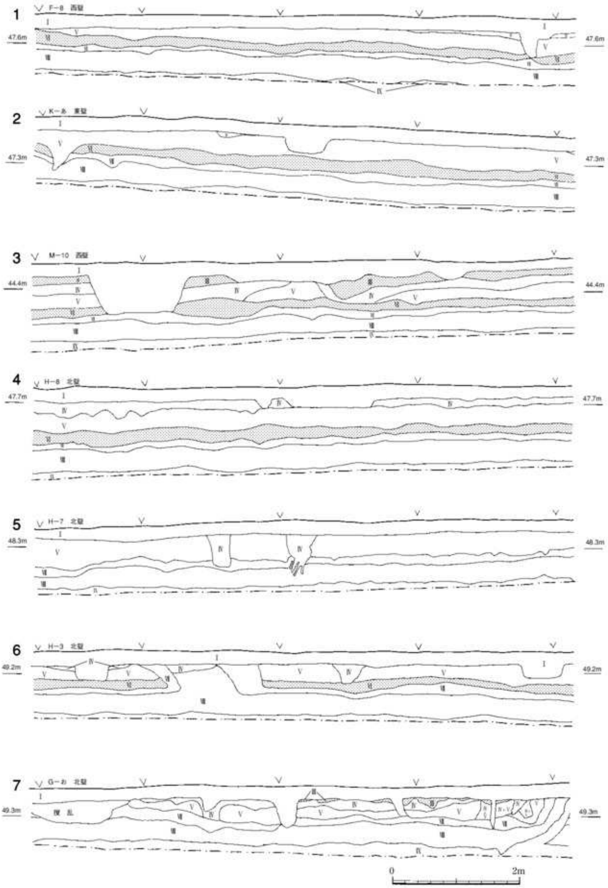
表土剥ぎを行ったところ，一部分はⅤ～Ⅹ層が露出していた。Ⅲ層にもトレンチャーや芋穴が入ったところがあるなど畑作利用でかなり錯乱や削平を受けていた。しかし，Ⅱ層から下位の層が残っている場所を中心に縄文時代早期から中世のものと思われる遺物が出土し，縄文時代晩期以降のピットや溝状遺構を多く検出した。

縄文時代早期は，押型文土器が数点出土した。縄文時代晩期は，遺構・遺物ともに数多く検出・出土した。弥生時代前期は，壺型土器が若干出土した。古代～中世は，神社前で竪穴状遺構１基と溝状遺構が切り合う形で検出され，埋土内から鉄滓が出土した。

第１図　諏訪脇遺跡位置図（１／25,000）

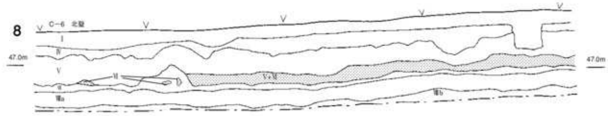


第2図　諏訪脇遺跡地形図（1グリッド：20m)

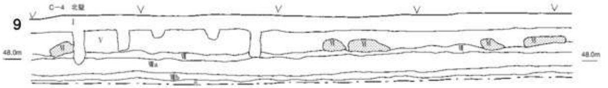

1
F−8 西壁
47.6m
2
K−あ 東壁
47.3m
3
M−10 西壁
44.4m
4
H−8 北壁
47.7m
5
H−7 北壁
48.3m
6
H−3 北壁
49.2m
7
G−お 北壁
49.3m
攪乱
0
2m

第3図　土層断面図1

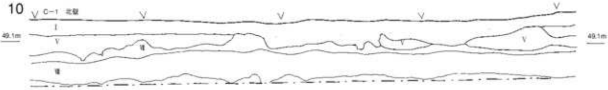
8



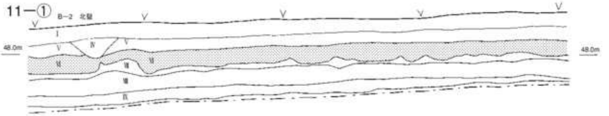
9



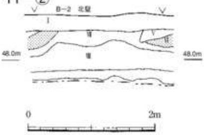
10



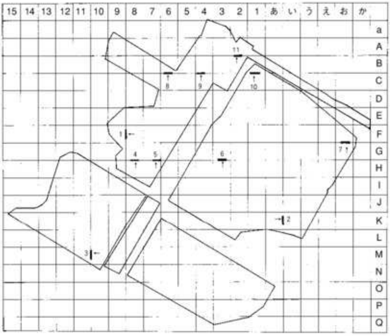
11−①



11−②



Ⅰ層　灰黒色土（現耕作土）
Ⅱ層　黒色土（旧耕作土）
Ⅲ層　黄橙色火山灰土（アカホヤ火山灰）
Ⅳ層　黄褐色土
Ⅴ層　黒褐色土
Ⅵ層　暗黄褐色火山灰（薩摩火山灰）
Ⅶ層　明茶褐色粘質土
Ⅷ層　暗茶褐色粘質土（チョコ層）
Ⅸ層　黄橙色シルト層



第４図　土層断面図２

第３節　縄文時代の調査

縄文時代は，早期及び晩期の遺物出土量が際だっている。早期では集石遺構４基が検出され，土器が多く出土している。晩期では，土坑，埋設土器，掘立柱建物跡，柱穴列等の遺構が多く検出され，土器・石器も多く出土している。土器は上加世田式土器，入佐式土器が主体である。中後期の土器も出土しているが，量は少なく遺構も検出されなかった。

1　縄文時代早期の調査

縄文時代早期では，集石遺構が４基検出されたのみで遺構は少なかった。

土器はⅠ類からⅦ類まで分類されるものが出土している。しかしながら大半はⅡ類土器である。石器は，石鏃・異形石器・打製石斧・礫器・磨石・敲石・石皿等が出土した。

(1) 遺構（第５～７図）

遺構は，集石遺構が４基ともA・B－２区において検出された。

①１号集石遺構（第６図）

A－２区において検出されたもので，15センチを超える礫と10㎝以下の角礫数十個で構成されている。礫の密集度合いは低い。堀り込みは確認されていない。図化できなかったが，集石内及び周辺より，押型文土器片やチャート，黒曜石の剥片が数点出土している。

②２号集石遺構（第７図）

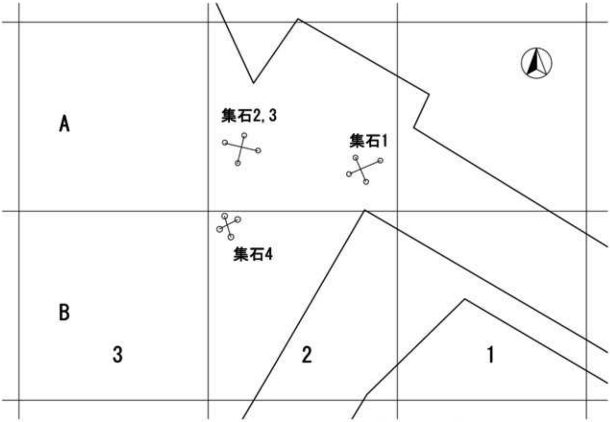
A－２区で検出された。礫数約200個，平均重量約190gである。約50㎝の台石状の礫が1個と10㎝以下の礫から構成される。4基中最も礫の密度が高い。掘り込みは確認されていない。

③３号集石遺構（第７図）

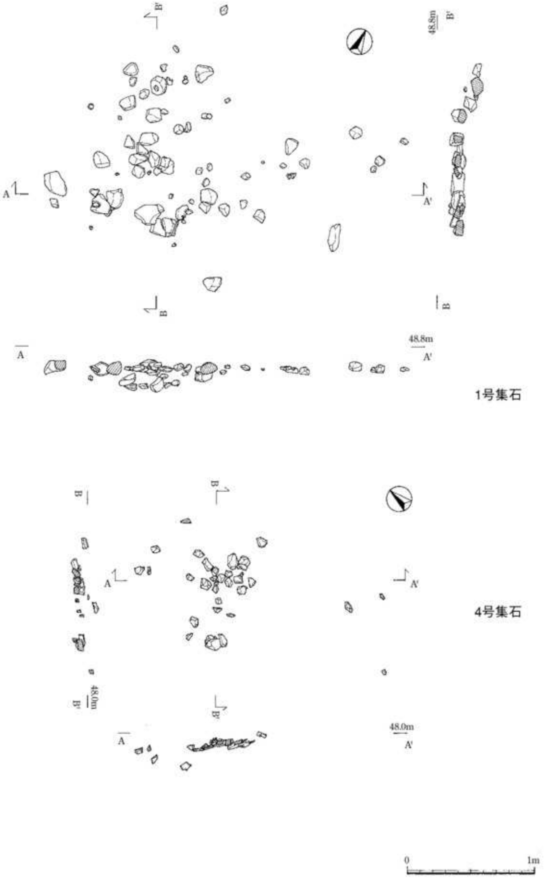
A－２区で検出された。礫数約33個，平均重量約89gである。残存する礫も少量でまとまりに欠ける。掘り込みは確認されていない。

④４号集石遺構（第６図）

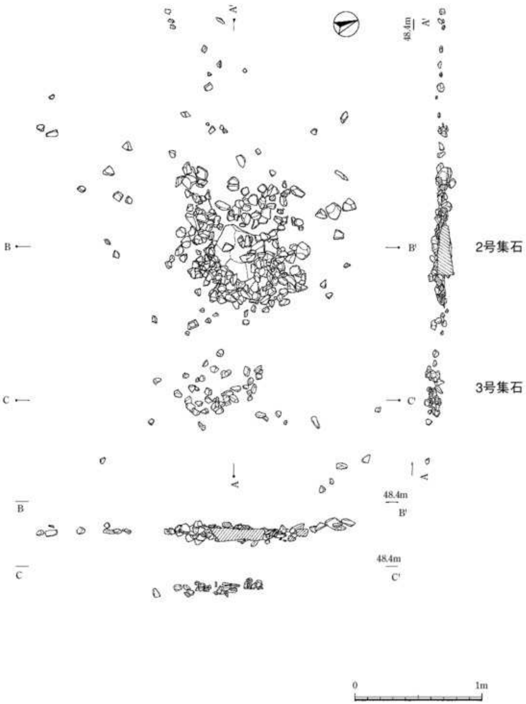
B－２区で検出された。礫数35個，平均重量185g。掘り込みは見られないが範囲全体に炭が点在する。礫は少量だが密集している。



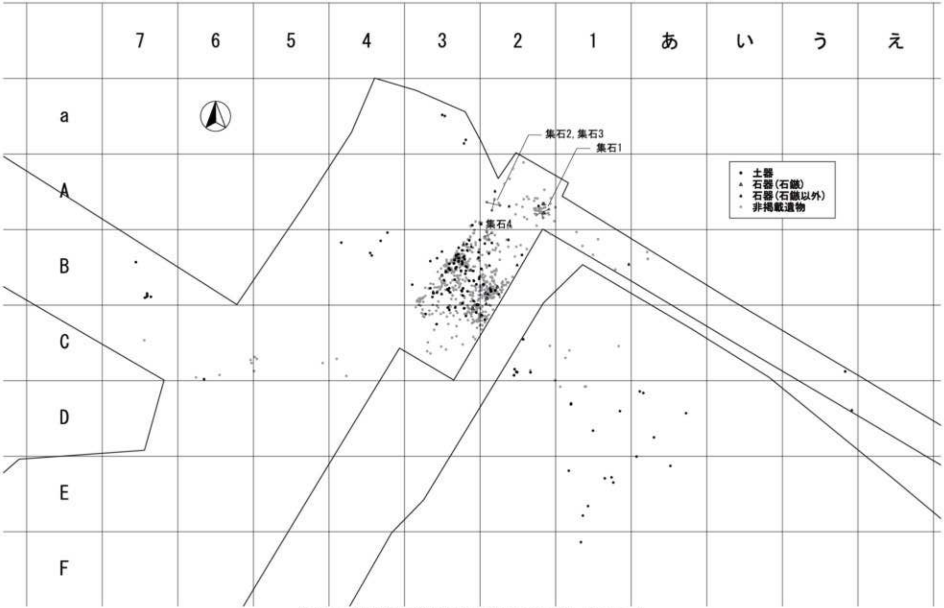
第５図　縄文時代早期遺構配置図（１グリッド：20m）



第６図　縄文時代早期　集石１



第７図　縄文時代早期　集石２



第8図　縄文時代早期遺物出土状況図（1グリッド：20m）

（2）遺物

①土器（第9～12図）

土器はⅠ類～Ⅶ類に分類される。

Ⅰ類土器（第9図）

1～5の5点である。1は，口縁部が内湾し，口縁部内面が肥厚している深鉢型土器である。胴部には短い綾杉状の貝殻条痕が施される。内面調整は丁寧なナデ整形である。2～5は胴部である。内面調整はミガキである。2～4は，貝殻条痕文が見られる。5は斜位の貝殻条痕が施される。

Ⅱ類土器（第9～11図）

Ⅱ類土器は器面に山形・楕円の押型文を施文するものである。

6～64は山形の押型文土器である。6～18は口縁部である。6～17の口縁部は外反もしくは直行するものである。18はふくらんだ胴部から口縁部にかけてすぼまり外反するものである。19～45は胴部である。縦方向の施文が多い。46は底部である。47～64は山形の押型文を施文した後にナデで調整したものである。47～51は口縁部である。47～50は口縁部内面に山形の施文を施してある。口縁部は緩やかに外反するものである。51は口縁部内面をヘラケズリによる調整がなされている。52～64は胴部である。65は外面はナデで調整され，口縁部内面に山形の押型文が施されている。66は外面はナデで調整され，口唇部に山形の押型文が施文されている。

67～110は楕円の押型文土器である。67～75は口縁部である。67～68は緩やかに外反する。69～75は短めの口縁部が外反するものである。76～94は胴部である。95～110は楕円の押型文を施文した後にナデで調整したものである。95～98は口縁部である。楕円の押型文が外面，口唇部，口縁部の内面に施されている。95は短めの口縁部が急に外反している。96は長めの口縁部が外反している。97は短めの口縁が緩やかに外反している。98の口縁部は直行しており，107と同一個体と思われる。99～110は胴部である。内面はヘラケズリかナデで調整されている。111は山形の押型文と楕円の押型文が施されている。

Ⅲ類土器（第12図）

Ⅲ類土器は撚糸文が施されるものである。

112，113は胴部である。「く」の字状に屈曲している。縦位の撚り糸による施文が見られる。113は綾杉状の撚り糸による文様が施されている。114は斜め方向の撚り糸による文様が施されている。器壁は薄く内面にも撚糸文が見られる。115，116は撚糸文が斜位に施されている。

Ⅳ類土器（第12図）

Ⅳ類土器は2点だけの出土で縄文が施されるものである。117，118の2点は同一個体と考えられるものである。

Ⅴ類土器（第12図）

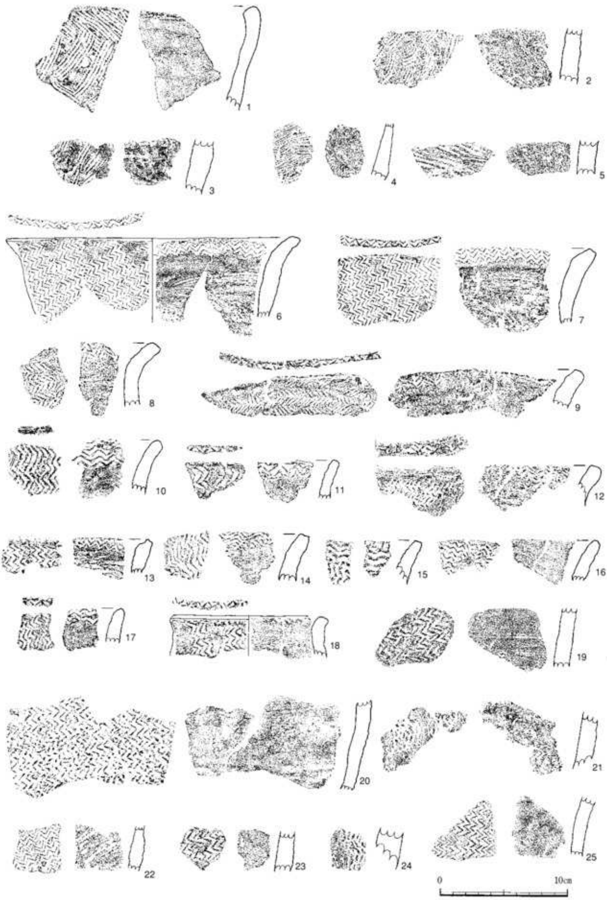
Ⅴ類土器は2点だけの出土である。119は2本の沈線が施され，沈線の上部に棒状の施文具による刺突文が施されている。120は「く」の字状に屈曲した器形をもつ。貼り付け突帯の下部に斜めの沈線が施されている。

Ⅵ類土器（第12図）

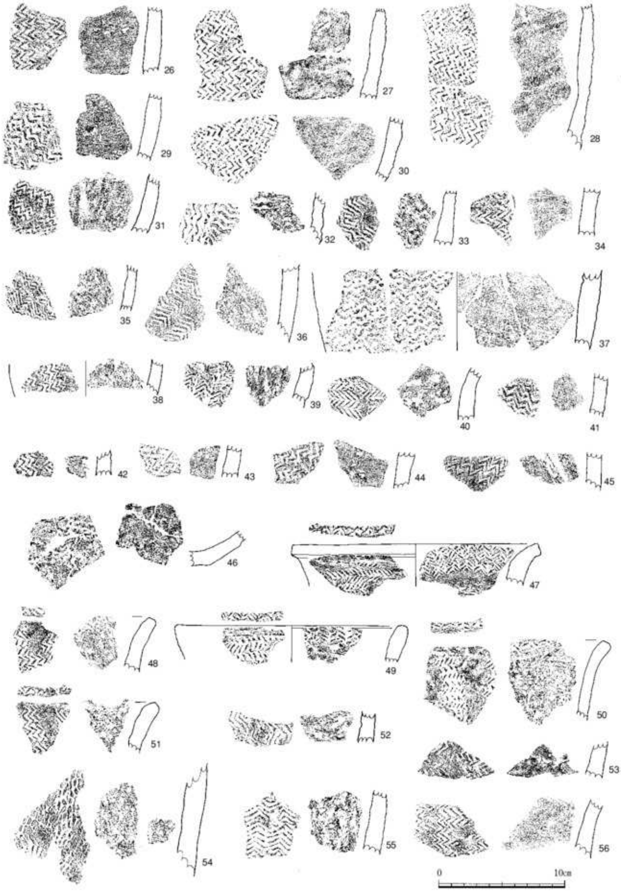
Ⅵ類土器は1点だけの出土である。121は胴部である。結節縄文の原体の結節部分を用い縦方向に施文したものである。

Ⅶ類土器（第12図）

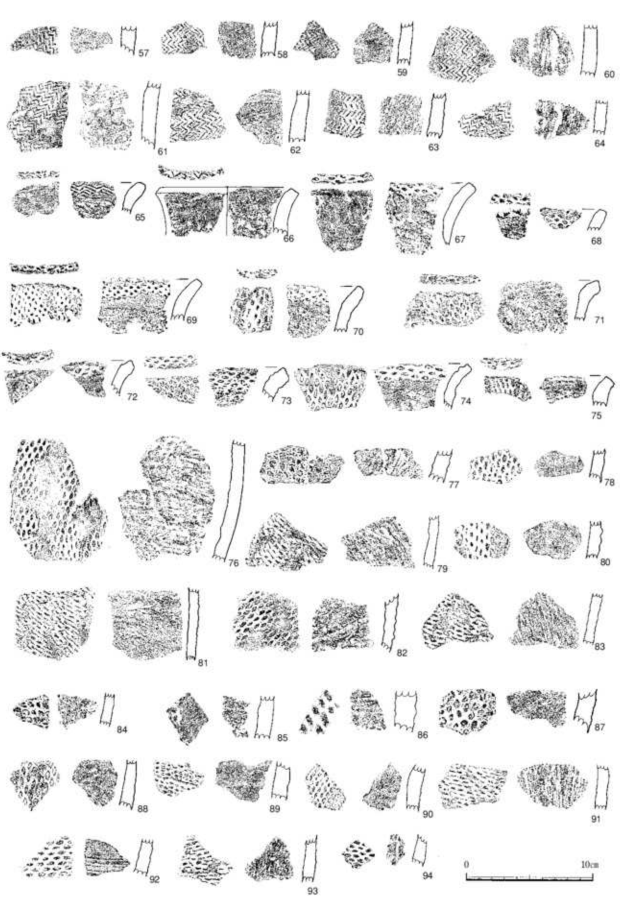
早期の土器の特徴を持つものの，細分化が不可能なものを一括してⅦ類として扱った。122は円筒で口縁は直行する。外面調整は貝殻条痕文が施されている。口唇部は内側に傾斜する。123は底部である。底面が磨かれているものである。



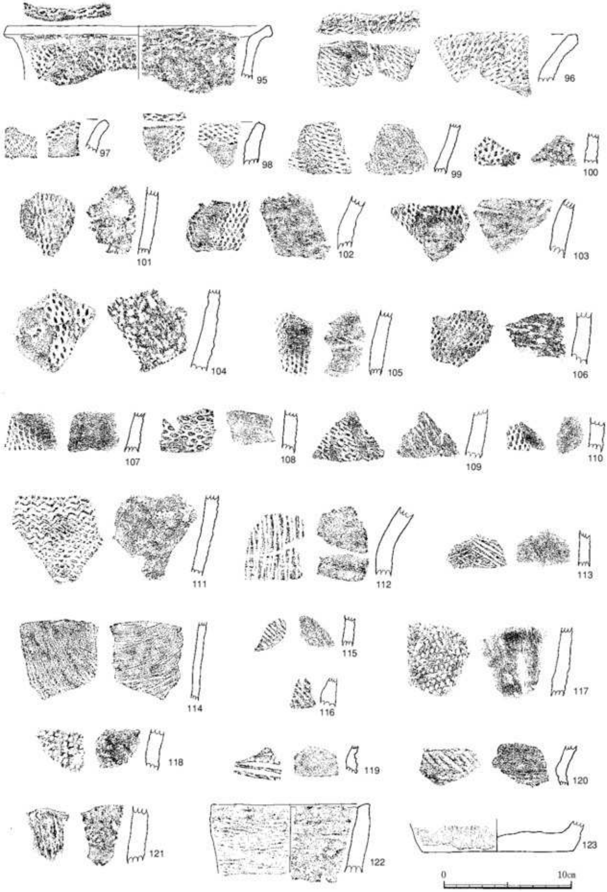
第9図　Ⅰ・Ⅱ類土器（1）


26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
0
10cm

第10図　Ⅱ類土器（2）


57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
0
10cm

第11図　Ⅱ類土器（3）



第12図　Ⅱ類土器（4）～Ⅶ類土器

縄文時代早期土器観察表 1

挿図番号	番号	出土区	層位	部位	色調 内	色調 外	胎土 石英	胎土 長石	胎土 角閃石	胎土 その他	焼成	外面	内面	類	備考
第9図	1	C−1	Ⅲ	口縁部	橙	褐	○	○			良	綾杉状貝殻条痕文	ナデ	Ⅰ	
	2	D−1	Ⅲ	胴部	にぶい黄褐	明褐	○	○			良	貝殻条痕文	ナデ	Ⅰ	
	3	C−2	Ⅲ	胴部	黒褐	にぶい赤褐	○	○			良	条痕	ナデ	Ⅰ	
	4	B−3	Ⅳ	胴部	にぶい黄褐	明褐	○	○			良	羽状文	ナデ	Ⅰ	
	5	−	−	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○			良	貝殻条痕文	ケズリ	Ⅰ	
	6	B−3	Ⅳ	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄褐	○	○			良	山形押型文	山形押型文,ヘラケズリ	Ⅱ	
	7	B−2	Ⅳ	口縁部	にぶい黄橙	褐灰	○	○			良	山形押型文	ヘラケズリ	Ⅱ	
	8	C−2	Ⅴ	口縁部	にぶい褐	にぶい赤褐	○	○			良	山形押型文	山形押型文,ナデ	Ⅱ	
	9	B−3	Ⅴ	口縁部	にぶい黄褐	黒褐	○	○			良	山形押型文	山形押型文,ナデ	Ⅱ	
	10	a−3	Ⅲ	口縁部	暗灰黄	黄褐	○	○			良	山形押型文	山形押型文,ナデ	Ⅱ	
	11	B−5	Ⅳ	口縁部	にぶい橙	にぶい橙	○	○			良	山形押型文	山形押型文,ナデ	Ⅱ	
	12	B−3	Ⅳ	口縁部	にぶい褐	灰黄褐	○	○			良	山形押型文	山形押型文,ナデ	Ⅱ	
	13	B−3	Ⅲ	口縁部	黒褐	橙	○	○			良	山形押型文	山形押型文,ナデ	Ⅱ	
	14	a−3	Ⅲ	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○			良	山形押型文	山形押型文,ナデ	Ⅱ	
	15	D−1	Ⅲ	口縁部	橙	橙	○	○			良	山形押型文	山形押型文,ナデ	Ⅱ	
	16	B−3	Ⅲ	口縁部	明黄褐	浅黄	○	○			良	山形押型文	ナデ	Ⅱ	
	17	B−3	Ⅳ	口縁部	灰黄褐	にぶい黄褐	○	○			良	山形押型文	山形押型文,ナデ	Ⅱ	
	18	B−3	Ⅳ	口縁部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○			良	山形押型文	ナデ	Ⅱ	
	19	B−3	Ⅳ	胴部	灰褐	にぶい褐	○	○			良	山形押型文	ナデ	Ⅱ	
	20	a−3	Ⅴ	胴部	にぶい黄褐	灰黄褐	○	○			良	山形押型文	ナデ	Ⅱ	
	21	C−2	Ⅴ	胴部	にぶい黄褐	褐	○	○			良	山形押型文	ヘラケズリ	Ⅱ	
	22	B−3	Ⅳ	胴部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○			良	山形押型文	ヘラケズリ	Ⅱ	
	23	A−3	Ⅲ	胴部	橙	にぶい橙	○	○			良	山形押型文	ナデ	Ⅱ	
	24	E−あ	Ⅲ	胴部	にぶい褐	橙	○	○			良	山形押型文	ヘラケズリ	Ⅱ	
	25	C−3	Ⅴ	胴部	にぶい黄褐	明褐	○	○			良	山形押型文	ナデ	Ⅱ	
第10図	26	B−3	Ⅳ	胴部	にぶい黄	橙	○	○			良	山形押型文	ナデ	Ⅱ	
	27	a−3	Ⅱ	胴部	明黄褐	にぶい黄橙	○	○			良	山形押型文	ナデ	Ⅱ	
	28	−	Ⅲ	胴部	灰黄褐	橙	○	○			良	山形押型文	ナデ	Ⅱ	
	29	B−3	Ⅳ	胴部	にぶい黄褐	明褐	○	○			良	山形押型文	ナデ	Ⅱ	
	30	−	−	胴部	にぶい黄橙	橙	○	○			良	山形押型文	ナデ	Ⅱ	
	31	C−2	Ⅴ	胴部	にぶい黄褐	にぶい赤褐	○	○			良	山形押型文	ヘラケズリ	Ⅱ	
	32	D−1	Ⅲ	胴部	橙	橙	○	○			良	山形押型文	ヘラケズリ	Ⅱ	
	33	B−3	Ⅳ	胴部	にぶい橙	橙	○	○			良	山形押型文	ヘラケズリ	Ⅱ	
	34	C−2	Ⅴ	胴部	にぶい褐	にぶい褐	○	○			良	山形押型文	ナデ	Ⅱ	
	35	E−1	Ⅲ	胴部	暗オリーブ褐	にぶい赤褐	○	○			良	山形押型文	ヘラケズリ	Ⅱ	
	36	B−3	Ⅴ	胴部	にぶい黄褐	明黄褐	○	○			良	山形押型文	ヘラケズリ	Ⅱ	
	37	B−3	Ⅳ	胴部	にぶい橙	橙	○	○			良	山形押型文	ナデ	Ⅱ	
	38	B−3	Ⅳ	胴部	にぶい黄褐	橙	○	○			良	山形押型文	ヘラケズリ	Ⅱ	
	39	B−4	Ⅲ	胴部	にぶい黄褐	橙	○	○			良	山形押型文	ヘラケズリ	Ⅱ	
	40	B−3	Ⅳ	胴部	明赤褐	明褐	○	○			良	山形押型文	ヘラケズリ	Ⅱ	
	41	B−4	Ⅲ	胴部	にぶい黄	にぶい黄	○	○			良	山形押型文	ナデ	Ⅱ	
	42	B−3	Ⅳ	胴部	にぶい黄褐	橙	○	○			良	山形押型文	ヘラケズリ	Ⅱ	
	43	B−3	Ⅳ	胴部	にぶい褐	橙	○	○			良	山形押型文	ナデ	Ⅱ	
	44	−	−	胴部	にぶい黄橙	灰黄褐	○	○			良	山形押型文	ナデ	Ⅱ	
	45	B−3	Ⅳ	胴部	にぶい橙	橙	○	○			良	山形押型文	ナデ	Ⅱ	
	46	B−3	Ⅳ	底部	褐	明黄褐	○	○			良	山形押型文	ナデ	Ⅱ	
	47	B−3	Ⅳ	口縁部	橙	灰黄褐	○	○			良	山形押型文,ナデ	ナデ	Ⅱ	口唇部(山形押型文)
	48	−	Ⅳ	口縁部	浅黄橙	橙	○	○			良	山形押型文,ナデ	山形押型文,ヘラケズリ	Ⅱ	口唇部(山形押型文)
	49	B−3	Ⅳ	口縁部	にぶい褐	灰褐	○	○			良	山形押型文,ナデ	山形押型文,ナデ	Ⅱ	口唇部(山形押型文)
	50	B−3	Ⅳ	口縁部	にぶい黄褐	灰黄褐	○	○			良	山形押型文,ナデ	ヘラケズリ	Ⅱ	口唇部(山形押型文)
	51	B−3	Ⅳ	口縁部	にぶい褐	にぶい黄褐	○	○			良	山形押型文,ナデ	ヘラケズリ	Ⅱ	口唇部(山形押型文)
	52	B−3	Ⅳ	胴部	にぶい黄褐	橙	○	○			良	山形押型文,ナデ	ヘラケズリ	Ⅱ	
	53	B−3	Ⅳ	胴部	にぶい黄橙	褐灰	○	○			良	山形押型文,ナデ	ナデ	Ⅱ	
	54	D−あ	Ⅲ	胴部	オリーブ褐	橙	○	○			良	山形押型文,ナデ	ヘラケズリ	Ⅱ	
	55	B−3	Ⅳ	胴部	にぶい橙	橙	○	○			良	山形押型文,ナデ	ヘラケズリ	Ⅱ	
	56	B−3	Ⅳ	胴部	橙	にぶい橙	○	○			良	山形押型文,ナデ	ナデ	Ⅱ	
第11図	57	B−3	Ⅳ	胴部	浅黄橙	橙	○	○			良	山形押型文,ナデ	ナデ	Ⅱ	
	58	B−3	Ⅳ	胴部	にぶい黄褐	橙	○	○			良	山形押型文,ナデ	ナデ	Ⅱ	
	59	B−3	Ⅳ	胴部	にぶい黄褐	にぶい橙	○	○			良	山形押型文,ナデ	ナデ	Ⅱ	
	60	B−3	Ⅳ	胴部	にぶい黄橙	橙	○	○			良	山形押型文,ナデ	ヘラケズリ	Ⅱ	
	61	B−3	Ⅳ	胴部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○			良	山形押型文,ナデ	ヘラケズリ	Ⅱ	
	62	B−3	Ⅳ	胴部	にぶい橙	橙	○	○			良	山形押型文,ナデ	ナデ	Ⅱ	
	63	B−3	Ⅳ	胴部	灰黄褐	橙	○	○			良	山形押型文,ナデ	ナデ	Ⅱ	
	64	B−3	Ⅳ	胴部	黒褐	橙	○	○			良	山形押型文,ナデ	ヘラケズリ,ミガキ	Ⅱ	
	65	C−3	Ⅳ	口縁部	灰黄褐	橙	○	○			良	ナデ	山形押型文	Ⅱ	口唇部(山形押型文)
	66	B−3	Ⅴ	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○			良	無文	ヘラケズリ	Ⅱ	口唇部(山形押型文)
	67	B−2	Ⅳ	口縁部	にぶい褐	にぶい黄褐	○	○			良	楕円押型文	楕円押型文,ナデ	Ⅱ	口唇部(押型文)
	68	B−2	Ⅳ	口縁部	灰褐	灰黄褐	○	○			良	楕円押型文	ナデ	Ⅱ	口唇部(押型文)
	69	B−3	Ⅴ	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄褐	○	○			良	楕円押型文	楕円押型文,ナデ	Ⅱ	口唇部(押型文)

縄文時代早期土器観察表 2

挿図番号	番号	出土区	層位	部位	色調 内	色調 外	胎土 石英	胎土 長石	胎土 角閃石	胎土 その他	焼成	外面	内面	類	備考
第11図	70	B−2	Ⅴ	口縁部	橙	にぶい黄橙	○	○			良	楕円押型文	楕円押型文,ナデ	Ⅰ	口唇部(押型文)
	71	B−2	Ⅳ	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○			良	楕円押型文	ナデ	Ⅰ	口唇部(押型文)
	72	B−3	Ⅳ	口縁部	にぶい赤褐	にぶい褐	○	○			良	楕円押型文	楕円押型文,ナデ	Ⅰ	口唇部(押型文)
	73	B−4	Ⅲ	口縁部	褐	赤褐	○	○		金雲母	良	楕円押型文	楕円押型文,ナデ	Ⅰ	口唇部(押型文)
	74	C−3	Ⅴ	口縁部	灰黄褐	にぶい黄褐	○	○			良	楕円押型文	楕円押型文,ナデ	Ⅰ	
	75	B−3	Ⅳ	口縁部	にぶい黄褐	にぶい褐	○	○		金雲母	良	楕円押型文	楕円押型文,ナデ	Ⅰ	口唇部(押型文)
	76	D−1	Ⅴ	胴部	にぶい褐	褐	○	○			良	楕円押型文	ヘラケズリ	Ⅰ	
	77	C−6	Ⅳ	胴部	灰黄褐	橙	○	○			良	楕円押型文	ナデ	Ⅰ	
	78	B−3	Ⅴ	胴部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○			良	楕円押型文	ナデ	Ⅰ	
	79	B−3	Ⅳ	胴部	灰黄褐	橙	○	○			良	楕円押型文	ヘラケズリ	Ⅰ	
	80	B−3	Ⅳ	胴部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○			良	楕円押型文	ナデ	Ⅰ	
	81	B−3	Ⅲ	胴部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○			良	楕円押型文	ヘラケズリ	Ⅰ	
	82	D−1	Ⅴ	胴部	橙	にぶい褐	○	○			良	楕円押型文	ヘラケズリ	Ⅰ	
	83	B−3	Ⅳ	胴部	にぶい黄褐	にぶい褐	○	○			良	楕円押型文	ヘラケズリ	Ⅰ	
	84	F−1	Ⅲ	胴部	浅黄	浅黄	○	○			良	楕円押型文	ナデ	Ⅰ	
	85	−	−	胴部	にぶい赤褐	橙	○	○			良	楕円押型文	ナデ	Ⅰ	
	86	B−4	Ⅲ	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○			良	楕円押型文	ナデ	Ⅰ	
	87	−	−	胴部	褐灰	明黄褐	○	○			良	楕円押型文	ナデ	Ⅰ	
	88	B−3	Ⅳ	胴部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○			良	楕円押型文	ナデ	Ⅰ	
	89	−	−	胴部	灰黄褐	にぶい褐	○	○			良	楕円押型文	ナデ	Ⅰ	
	90	B−7	Ⅳ	胴部	灰オリーブ	にぶい黄	○	○			良	楕円押型文	ナデ	Ⅰ	
	91	−	−	胴部	にぶい黄橙	橙	○	○			良	楕円押型文	ヘラケズリ	Ⅰ	
	92	B−3	Ⅲ	胴部	浅黄	にぶい黄	○	○			良	楕円押型文	ナデ	Ⅰ	
	93	C−2	Ⅲ	胴部	にぶい黄	橙	○	○			良	楕円押型文	ナデ	Ⅰ	
	94	B−3	Ⅳ	胴部	にぶい褐	灰褐	○	○			良	楕円押型文	ナデ	Ⅰ	
第12図	95	B−2	Ⅳ	口縁部	橙	にぶい黄橙	○	○			良	楕円押型文,ナデ	楕円押型文,ヘラケズリ後ナデ	Ⅰ	口唇部(押型文)
	96	B−3	Ⅲ·Ⅳ	口縁部	橙	褐灰	○	○			良	楕円押型文,ナデ	楕円押型文,ナデ	Ⅰ	
	97	C−3	Ⅴ	口縁部	灰黄褐	灰黄褐	○	○			良	楕円押型文,ナデ	楕円押型文,ナデ	Ⅰ	
	98	B−7	Ⅳ	口縁部	にぶい黄	にぶい黄	○	○			良	楕円押型文,ナデ	楕円押型文,ナデ	Ⅰ	口唇部(押型文)
	99	B−4	Ⅲ	胴部	黒褐	にぶい橙	○	○			良	楕円押型文,ナデ	ヘラケズリ	Ⅰ	
	100	B−3	Ⅳ	胴部	灰黄褐	にぶい黄橙	○	○			良	楕円押型文,ナデ	ナデ	Ⅰ	
	101	C−2	Ⅴ	胴部	黒褐	暗褐	○	○		金雲母	良	楕円押型文,ナデ	ヘラケズリ	Ⅰ	
	102	B−7	Ⅳ	胴部	灰オリーブ	明黄褐	○	○			良	楕円押型文,ナデ	ナデ	Ⅰ	
	103	B−7	Ⅳ	胴部	黄灰	浅黄	○	○			良	楕円押型文,ナデ	ナデ	Ⅰ	
	104	D−1	Ⅲ	胴部	褐	明赤褐	○	○			良	楕円押型文,ナデ	ヘラケズリ	Ⅰ	
	105	B−7	Ⅳ	胴部	灰	暗灰黄	○	○			良	楕円押型文,ナデ	ナデ	Ⅰ	
	106	B−3	Ⅳ	胴部	にぶい褐	橙	○	○			良	楕円押型文,ナデ	ヘラケズリ	Ⅰ	
	107	B−7	Ⅳ	胴部	灰黄	灰黄	○	○			良	楕円押型文,ナデ	ナデ	Ⅰ	98と同一個体
	108	C−3	Ⅴ	胴部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○			良	楕円押型文,ナデ	ナデ	Ⅰ	
	109	A−3	Ⅴ	胴部	にぶい褐	橙	○	○			良	楕円押型文,ナデ	ヘラケズリ	Ⅰ	
	110	B−7	Ⅳ	胴部	黄灰	黄灰	○	○			良	楕円押型文,ナデ	ナデ	Ⅰ	
	111	C−2	Ⅲ	胴部	黄灰	黄褐	○	○			良	楕円押型文,山形押型文	ナデ	Ⅰ	
	112	C−3	Ⅳ	胴部	黄褐	にぶい黄	○	○			良	撚糸文	ナデ	Ⅲ	
	113	C−3	Ⅳ	胴部	黄褐	暗灰黄	○	○			良	撚糸文	ナデ	Ⅲ	
	114	E−あ	Ⅲ	胴部	黄橙	橙	○	○			良	撚糸文	条痕,ナデ	Ⅲ	
	115	B−3	Ⅳ	胴部	にぶい黄褐	にぶい褐	○	○			良	撚糸文	ナデ	Ⅲ	
	116	B−3	Ⅳ	胴部	褐灰	灰黄褐	○	○			良	撚糸文	ナデ	Ⅲ	
	117	C−2	Ⅴ	胴部	黒褐	橙	○	○			良	撚糸文	ヘラケズリ	Ⅳ	
	118	D−2	Ⅲ	胴部	暗オリーブ褐	橙	○	○			良	撚糸文	ヘラケズリ	Ⅳ	縄目模様
	119	N−2	Ⅲ上	胴部	明黄褐	明黄褐	○	○			良	沈線,刺突文	ナデ	Ⅴ	
	120	E−あ	Ⅲ	胴部	明黄褐	明黄褐	○	○			良	沈線	ナデ	Ⅴ	
	121	C−2	Ⅲ	胴部	浅黄	浅黄橙	○	○			良	撚糸文	ナデ	Ⅵ	
	122	C−2	Ⅳ	口縁部	橙	明赤褐	○	○			良	条痕	ナデ	Ⅶ	
	123	−	−	底部	赤褐	赤褐	○	○			良	ミガキ	ナデ	Ⅶ	

縄文時代中・後期土器観察表

挿図番号	番号	出土区	層位	部位	色調 内	色調 外	胎土 石英	胎土 長石	胎土 角閃石	胎土 その他	焼成	外面	内面	類	備考
第19図	161	N−3	Ⅲ	胴部	赤褐	暗赤褐	○	○			良	凹線文	ナデ	Ⅷ	
	162	N−3	−	口縁部	橙	橙	○	○			良	凹線文	ヘラケズリ後ナデ	Ⅸ	
	163	A−2	Ⅲ·Ⅳ	胴部	灰黄褐	赤褐	○	○	○		良	沈線文,ナデ	ヘラケズリ	Ⅹ	
	164	A−2·3	Ⅰ·Ⅲ	完形	褐	にぶい赤褐	○	○	○		良	凹線文,条痕,貝殻刺突文	条痕,ナデ	Ⅺ	

②石器（第14～18図　124～160）

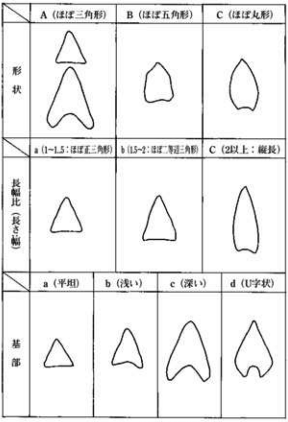
縄文時代早期の石器は，石鏃・異形石器・打製石斧・礫器・磨石・敲石・石皿等が出土した。

石鏃（第14図　124～138）

石鏃15点は，B－2・3区を中心に出土している。素材は，黒曜石7点，安山岩2点，チャート2点，凝灰岩1点，玉髄1点，頁岩2点である。その内，黒曜石は，肉眼観察によると西北九州系（腰岳）3点，上牛鼻産3点，三船産1点である。また，頁岩と安山岩の素材判定材料の一つに帯磁率計も用いた。

形態は，下記の石鏃分類表をもとに分類した。Aaa 1点，Aab 5点，Aac 1点，Abb 5点，Bbb 1点，Bcb 1点，Cba 1点である。

石鏃は打製で，ほとんどのものが入念な交互剥離により調整されている。欠損していると思われるものは，8点である。その内，基端の片方のみ欠損しているものは7点である。玉髄製の137は，大久保型石鏃と考えられ，近隣の宗円堀遺跡でも1点出土している。



第13図　石鏃分類図

異形石器（第14図　139・140）

2点ともホルンフェルス製の石鏃状の異形石器である。全体的に剥離調整が見られ，139は片面だけ，140は両面に剥離調整が施されている。類似した形態の異形石器は，接する諏訪牟田遺跡で1点出土している。他の農業センター遺跡群内の遺跡で出土した異形石器と違う点は，頭部に入念な剥離が施され，刃部を形成している所である。また，器面に磨耗した部分や脚の両端が外開きになる等トロトロ石器の特徴が見られないので，その石器の範疇に入るとは考えにくい。石鏃の未製品か特殊な狩猟具として使用した可能性も考えられるが，用途不明である。熊本県の瀬田裏遺跡では，本遺跡の異形石器と同じ形態の石器が出土しているが，押型文土器とその異形石器が共伴している点が共通する。関連性があるか今後の検討課題である。

打製石斧（第15図　141～143）

141はホルンフェルス製の短冊形の打製石斧である。裏面は自然面が残されており，刃部にはていねいな縦位の研磨が行われている。142は粘板岩製の短冊形の打製石斧である。全面をていねいな剥離調整を行っている。143は，頁岩製のやや大型の打製石斧の未製品と思われる。自然面を多く残し，剥離調整により刃部を作り出している。

礫器（第15図　144・145）

144・145とも頁岩製の礫器である。自然面を多く残し，粗い剥離により刃部を作り出している。

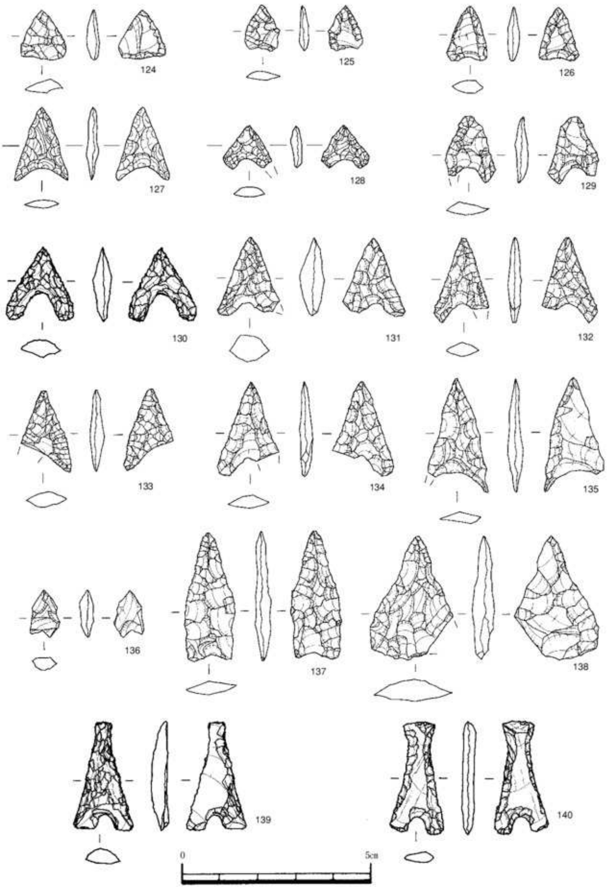
磨石・敲石（第16・17図　146～156）

146～149は，砂岩製の円礫を用いた磨石だけの機能を持つものである。149は，欠損品である。

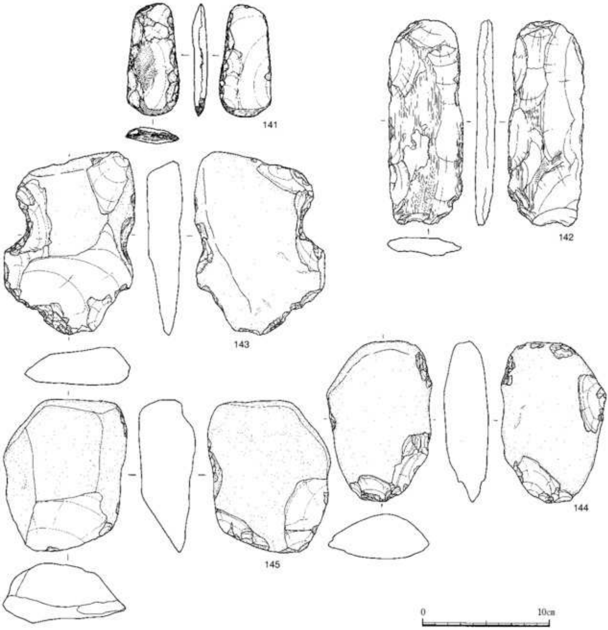
150～156は，円礫を用いた磨石・敲石の機能をあわせ持つものである。152は頁岩製で，それ以外は砂岩製である。154～156は，欠損品である。

石皿（第18図　157～160）

4点とも砂岩製の石皿である。157は，両面に作業面を有するものである。158は，表面にのみ作業面を有するものである。159は，表面に作業面を有し，敲打痕や木の実などの食材を潰したと思われる黒褐色の痕跡も見られる。160は，表面と側縁部に作業面を有するものである。



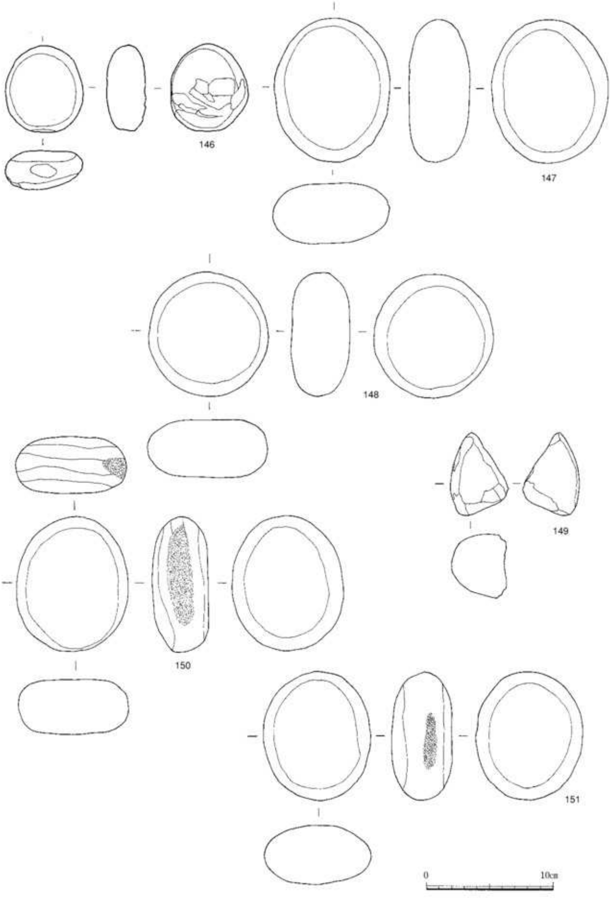
第14図　縄文時代早期　石器１



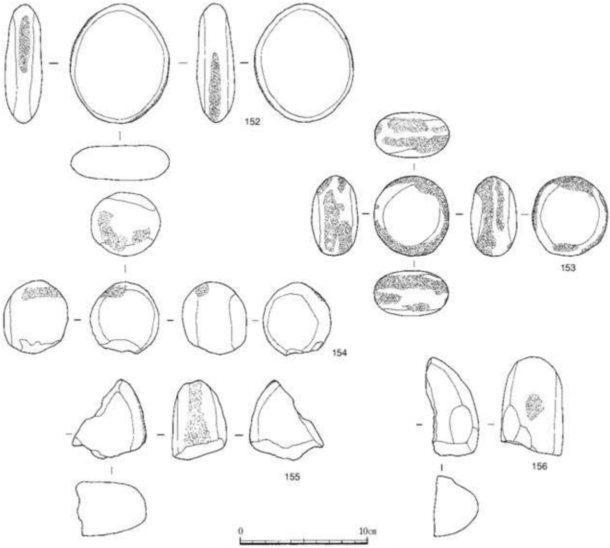
第15図　縄文時代早期　石器２

縄文時代早期石器（石鏃）観察表

挿図番号	遺物番号	器種	出土区	層	石材	長さ(残存) cm	幅(残存) cm	厚さ cm	重さ g	長幅比	形状	長幅比	基部	備考 (欠損部)
第14図	124	石鏃	D－お	V	チャート	1.35	1.30	0.30	0.44	1.04	A	a	a	なし
	125	石鏃	A－2	V	黒曜石(腰岳)	1.35	0.90	0.30	0.23	1.50	A	a	b	なし
	126	石鏃	D－お	V	黒曜石(上牛鼻)	1.40	1.05	0.30	0.39	1.33	A	a	b	なし
	127	石鏃	C－2	Ⅳ	頁岩	1.85	1.30	0.40	0.60	1.42	A	a	b	なし
	128	石鏃	C－3	Ⅳ	黒曜石(三船)	1.10	1.25	0.30	0.29	0.88	A	a	b	基端の片方
	129	石鏃	B－3	Ⅳ	黒曜石(腰岳)	1.35	1.30	0.35	0.56	1.04	A	a	b	基端の片方
	130	石鏃	－	Ⅳ	頁岩	2.00	1.80	0.50	0.90	1.11	A	a	c	なし
	131	石鏃	C－2	Ⅳ	黒曜石(上牛鼻)	2.10	1.55	0.75	1.29	1.35	A	b	b	基端の片方
	132	石鏃	A－2	Ⅳ	凝灰岩	2.25	1.40	0.40	0.73	1.61	A	b	b	基端の片方
	133	石鏃	B－3	Ⅳ	黒曜石(腰岳)	2.15	1.30	0.40	0.57	1.65	A	b	b	基端の片方
	134	石鏃	B－2	Ⅳ	安山岩	2.50	1.50	0.35	0.78	1.67	A	b	b	基端の片方
	135	石鏃	B－2	Ⅳ	安山岩	3.00	1.60	0.40	1.06	1.88	A	b	b	基端の片方
	136	石鏃	B－2	Ⅳ	黒曜石(上牛鼻)	1.30	0.70	0.35	0.31	1.86	B	b	b	なし
	137	石鏃	B－3	Ⅳ	玉髄	3.40	1.35	0.40	1.75	2.52	B	c	b	なし,大久保型
	138	石鏃	B－3	Ⅳ	チャート	3.25	2.10	0.60	3.32	1.55	C	b	a	基端の片方



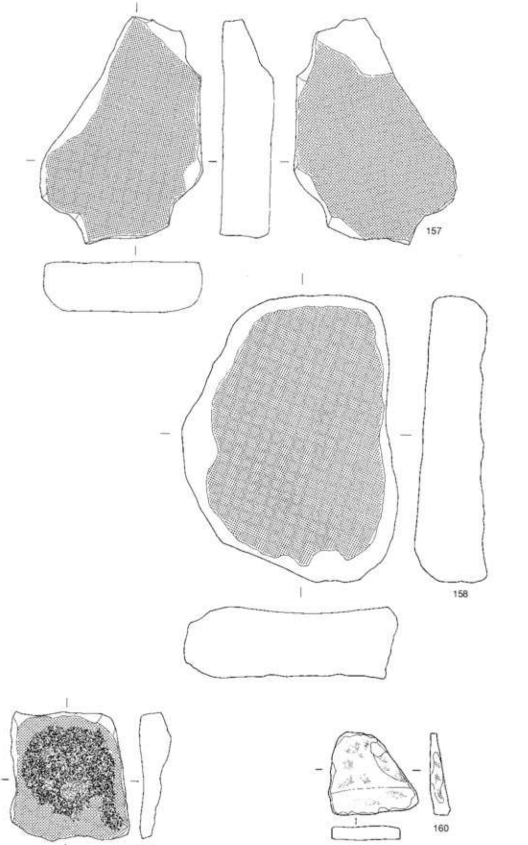
第16図　縄文時代早期　石器 3



第17図　縄文時代早期　石器 4

縄文時代早期石器観察表

挿図番号	遺物番号	器種	出土区	層	石材	長さ(残存) cm	幅(残存) cm	厚さ cm	重さ g	備考
第14図	139	異形石器	B－3	Ⅳ	ホルンフェルス	2.90	1.60	0.50	1.60	
	140	異形石器	A－2	Ⅳ	ホルンフェルス	3.00	1.40	0.40	1.40	
第15図	141	打製石斧	D－う	Ⅳ	ホルンフェルス	8.90	4.20	1.30	52.40	
	142	打製石斧	B－2	Ⅳ	粘板岩	16.20	6.00	1.50	180.83	
	143	打製石斧	A－2	Ⅳ	頁岩	13.40	10.00	2.70	481.50	未製品
	144	礫器	B－2	Ⅴ	頁岩	12.50	8.10	3.50	451.00	
	145	礫器	C－3	Ⅳ	頁岩	11.80	9.30	4.50	651.00	
第16図	146	磨石	A－2	Ⅳ	砂岩	6.80	6.10	3.10	180.50	
	147	磨石	B－2	Ⅴ	砂岩	11.20	9.20	4.75	691.50	
	148	磨石	B－2	Ⅴ	砂岩	9.80	9.35	4.50	635.00	
	149	磨石	B－2	Ⅳ	砂岩	6.50	4.50	5.00	148.00	欠損
	150	磨石・敲石	B－3	Ⅳ	砂岩	10.60	8.75	4.40	651.50	
	151	磨石・敲石	B－2	Ⅴ	砂岩	10.20	8.40	4.70	606.00	
第17図	152	磨石・敲石	B－3	Ⅳ	頁岩	9.35	7.80	2.90	306.00	
	153	磨石・敲石	A－2	Ⅳ	砂岩	6.30	5.80	3.60	180.00	
	154	磨石・敲石	B－2	Ⅴ	砂岩	5.50	5.30	5.00	205.50	一部欠損
	155	磨石・敲石	C－2	Ⅴ	砂岩	5.80	5.60	4.20	156.50	欠損
	156	磨石・敲石	B－3	Ⅴ	砂岩	7.50	3.40	4.80	177.00	欠損
第18図	157	石皿	B－3	Ⅳ	砂岩	34.40	25.00	7.80	10200.00	
	158	石皿	B－3	Ⅳ	砂岩	45.00	32.90	11.20	21800.00	
	159	石皿	B－1	Ⅳ	砂岩	20.00	18.40	5.00	1893.00	
	160	石皿	A－2	Ⅳ	砂岩	13.00	13.80	2.60	687.00	



第18図　縄文時代早期　石器５

2　縄文時代中期・後期の調査

縄文時代中期・後期については遺物の出土量は少なく，遺構も検出されなかった。

（1）遺物（第19図）

遺物は，中後期のⅧ類（南福寺式土器）からⅪ類（市来式土器）までが出土している。

Ⅷ類土器

161は口縁部の破片である。器面をヘラケズリ調整した後に口縁から約3cmの文様帯を設け直線及び曲線の凹線文が施される。口縁部はわずかに内湾し，口唇部には刻目が施される。

Ⅸ類土器

162は口縁部の破片である。口縁部下位に，先端が二叉状の施文工具を使って凹線文を横位に施すものである。焼成は良好で内面はヘラケズリの後ナデで調整されている。

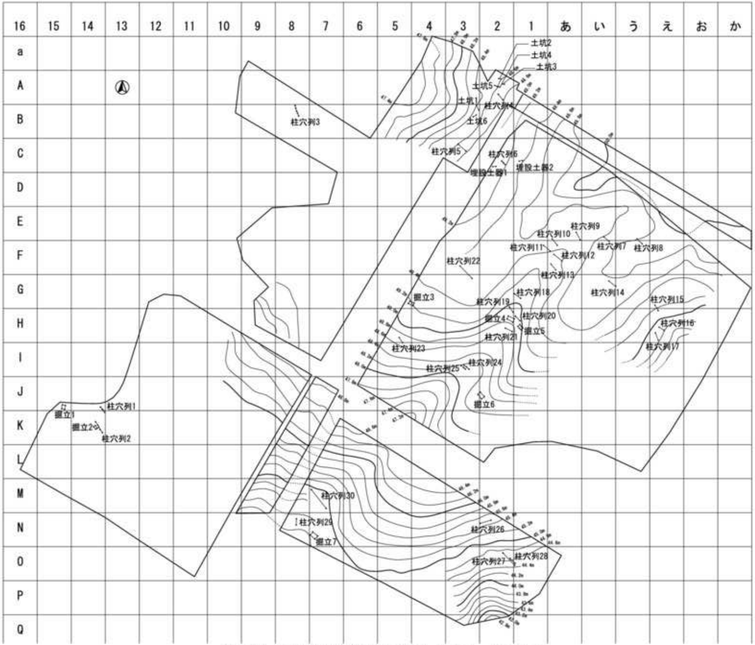
Ⅹ類土器

163は，外面はナデ調整で，胴部の上部から下部にかけて波状の沈線文が2条施される。

Ⅺ類土器

164は口縁部及び胴部を復元できたもので，口縁部を断面三角に肥厚させ文様帯とするものである。口縁部の上端と下端に同一施文具で施したと思われる楕円状の刺突がある。その間に2条の凹線が施されている。波状口縁の波頂部の左右にそれぞれ5・6条の縦位の貝殻刺突文が施される。

第19図　Ⅷ～Ⅺ類土器



第20図　縄文時代晩期遺構配置図（1グリッド：20m）

3　縄文時代晩期の調査

（1）遺構

縄文時代晩期の遺構は，土坑６基，埋設土器２基，掘立柱建物跡７棟，柱穴列30列が検出された。

①土坑（第21～24図）

６基の土坑は，全てA・B－２・３区に集中して検出された。

1号土坑（第22・23図）

B－３区で検出され，長径2.11ｍ，短径1.94ｍ，深さ1.05ｍの平面プランがほぼ円形の土坑である。埋土から炭化物が多く検出され，自然科学分析を行った。（詳しい結果は，P98参照）土坑内からは，多数土器片が出土した。埋土の上半分から出土した口縁部165と口径29.8㎝の166は，頸部より口縁部が外反するもので,内外面ともナデ調整を施している。165と166は，同一個体の可能性も考えられる。167は，床面付近から出土し，口径34.6㎝，器高29.8㎝の完形に復元できた。直行する口縁部の狭い文様帯に３条の沈線を施すものである。166・167は，煤が多量に付着しており，煮炊き等に使用されたと思われる。165と166は，沈線は施されていないが，器形等より167と同じく，Ⅻ類土器の範疇に入ると思われる。石器は，埋土上部より砂岩製の砥石の欠損品と思われる168が出土し，両面とも使用痕と思われる研磨痕がみられる。

2号土坑（第24図）

A－２区で検出され，長径1.08ｍ，短径0.95ｍ，深さ0.19ｍの平面プランが円形の土坑である。土坑内からは，土器片が多数出土したが，図化できるものはなかった。

3号土坑（第24図）

A－２区で検出され，長径0.85ｍ，短径0.84ｍ，深さ0.15ｍの平面プランが円形の土坑である。埋土からは，炭化物がまばらに見える程度であった。土坑内からは，遺物等は出土していない。

4号土坑（第24図）

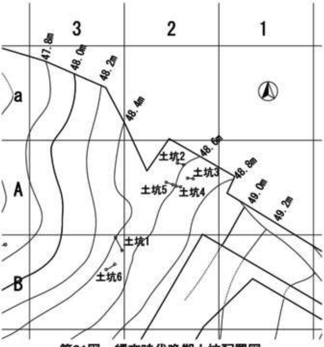
A－２区で検出され，長径0.67ｍ，短径0.45ｍ，深さ0.13ｍの平面プランが楕円形の土坑である。土坑内からは，遺物等は出土していないが，土坑上から礫が１点出土したが，土坑と関連性があるかは不明である。

5号土坑（第24図）

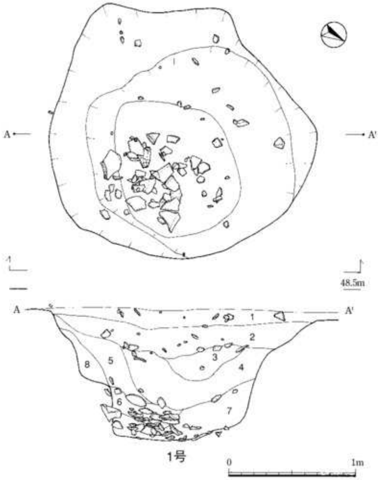
A－２区で検出され，長径1.35ｍ，短径1.09ｍ，深さ0.28ｍの平面プランが楕円形の土坑である。土坑内からは，土器片が２点出土しているが，図化できるものはなかった。

6号土坑（第24図）

B－３区で検出され，長径1.1ｍ，短径0.92ｍ，深さ0.51mの平面プランがほぼ円形の土坑である。土坑内からは，土器片が３点出土しているが，図化できるものはなかった。遺構内にピットが検出されたが，土坑に伴うものかどうかは不明。

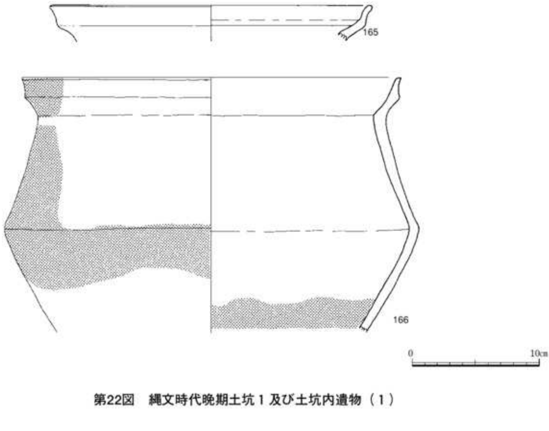


第21図　縄文時代晩期土坑配置図
（1グリッド：20m）



1号土坑　土層観察表

1	黄橙色火山灰土（Ⅲ層）
2	含パミス白黄褐色土 （5㎜～1㎝程度の黄粒パミス含む）
3	白色の強い黄褐色土
4	含炭化物黄褐色土
5	明黄褐色土
6	暗黄褐色土
7	含パミス暗黄褐色土 （若干の炭化物含む）
8	黒褐色土（Ⅴ層）



第22図　縄文時代晩期土坑1及び土坑内遺物（1）

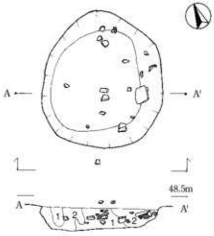
第23図　縄文時代晩期土坑内遺物（２）

縄文時代晩期遺構（土坑）内遺物土器観察表

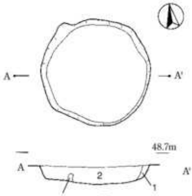
挿図番号	番号	遺構	部位	色調		胎土				焼成	外面	内面	類	備考
				内	外	石英	長石	角閃石	その他					
第22図	165	土坑1	口縁部	灰黄褐	褐灰	○	○	○		良	ナデ	ナデ	XII	外面スス付着
	166		口縁～胴部	灰黄褐	褐灰	○	○	○		良	ナデ	ナデ	XII	内外面スス付着
第23図	167		完形	浅黄橙	浅黄橙	○	○	○		良	ナデ	ナデ	XII	内外面スス付着

縄文時代晩期遺構（土坑）内遺物石器観察表

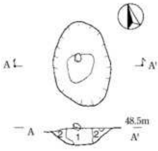
挿図番号	番号	遺構	器種	石材	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ g	備考
第23図	168	土坑１	砥石	砂岩	7.8	7.6	7.0	334	



2号



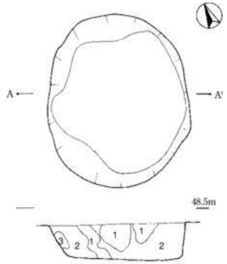
3号



4号

2号土坑　土層観察表

1	Ⅳ層
2	Ⅳ層に白っぽいパミスが広がる



5号

3号土坑　土層観察表

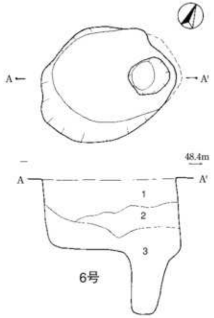
1	黄褐色の暗い色
2	Ⅳ層に白っぽいパミス（やや黄みがかっている）が広がる

4号土坑　土層観察表

1	Ⅳ層に白っぽいパミスが広がる
2	ややサツマが混在するⅣ層

5号土坑　土層観察表

1	Ⅳ層に白っぽいパミスが広がる
2	Ⅳ層に砂質のある土が混ざる
3	Ⅴ層

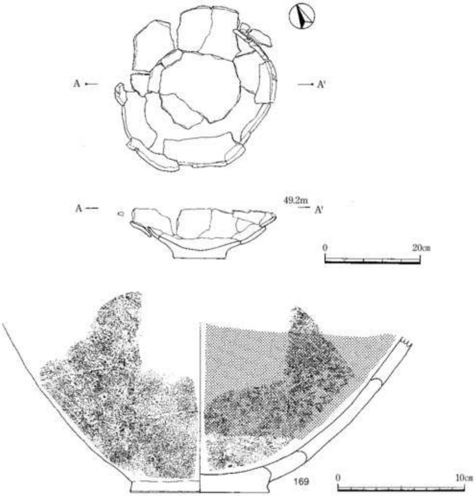


6号

6号土坑　土層観察表

1	黄褐色土。1～8mm程度のオレンジ色のパミスや2～3cm程度のブロック状火山灰を含む。2～3mmの炭化物も多量に含む
2	暗黄褐色土。1より暗い。1～8mm程度のオレンジ色のパミスを多量に含み，2～3cmのブロック状火山灰がわずかに含む。2～3mmの炭化物も多量に含む
3	黒褐色土

第24図　縄文時代晩期土坑２



第25図　縄文時代晩期　埋設土器1

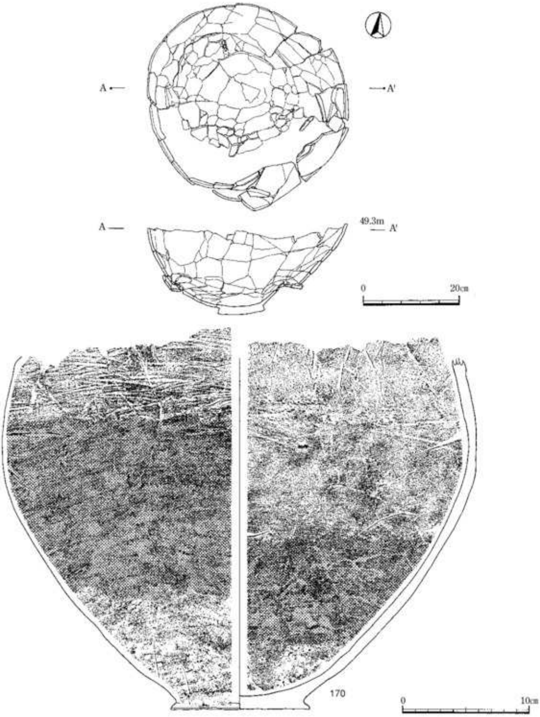
②埋設土器

埋設土器１号（第25図）

Ｃ－２区Ⅲ層において検出された。土器はほぼ正位置に埋設されており，上蓋は確認されなかった。また，胴部付近から上部は以前の圃場整備により削除されている。掘り込みは存在するが，掘り込みの径が胴部付近の径とほぼ同じであるため，上面からは確認できなかった。底径は10.8㎝を図る。色調は明茶褐色で，器面調整は，外面はヘラケズリ，内面はナデ調整を施されている。また，煤の付着が認められ，煮炊きに利用されたものを転用されたものと思われる。ⅩⅢ類土器に相当するものと考えられる。

埋設土器観察表

挿図番号	番号	層位	遺構	部位	色調		胎土				焼成	外面	内面	類	備考
					内	外	石英	長石	角閃石	その他					
25	169	Ⅲ	埋設土器1	胴～底部	浅黄	橙	○	○	○		良	ヘラケズリ	ナデ	ⅩⅢ	内面煤付着
26	170	Ⅲ	埋設土器2	胴～底部	浅黄	褐灰	○	○	○		良	ナデ,貝殻条痕	ナデ	ⅩⅢ	内外面煤付着



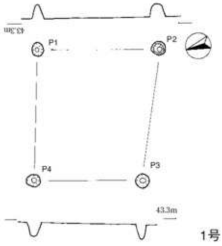
第26図　縄文時代晩期　埋設土器 2

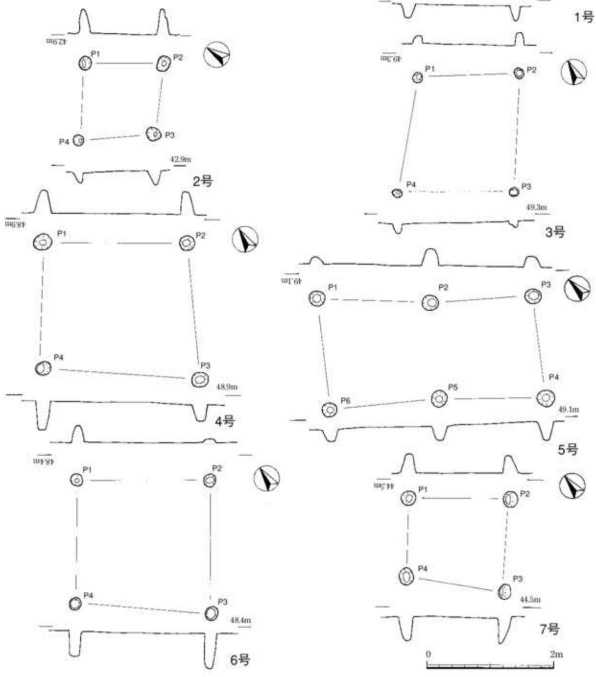
埋設土器 2 号（第26図）

C－1区Ⅲ層において検出された。土器はほぼ正位置に埋設されており，上蓋は確認されなかった。また，上位半分は以前の圃場整備により削除・欠損した状態であった。掘り込みは存在するが，一部土器の口縁径より突出した箇所があるもののほぼ同じであるため，上面では確認しづらかった。黄褐色の埋土で，見た目には周辺土壌とほとんど見分けがつかないが，土質は少し柔らかい。底径は10.8cm，器高は27.4cm（残存部分）を測る。器面は，内外面共にナデ調整で，外面には貝殻条痕が横位に施されている。また，内外面に煤付着跡が見られ，煮炊きに利用したものを転用したものと思われる。XIII類土器に相当するものと考えられる。

③ 掘立柱建物跡（第27図）

縄文時代晩期の掘立柱建物跡７棟のうち，６棟が１間×１間の建物で，１棟が１間×２間の建物である。柱穴，桁行柱間などは観察表で示した。諏訪脇遺跡だけでなく農業開発総合センター遺跡群内の各遺跡で多くみられる。大きさ・方向・柱間・形状等に統一性はみられない。柱穴内の埋土は，ほとんどが暗黒茶褐色の一層である。柱穴等からの遺物は出土していない。





第27図　縄文時代晩期　掘立柱建物跡

掘立柱建物跡観察表

1号掘立柱建物跡観察表　1間×1間

	柱穴番号	桁行柱間 (cm)	Pit	深さ (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	掘り方	床面積 (㎡)	備考
	P1−P2	192	1	24	22	19	円		
棟部	P2−P3	209	2	23	25	23	円		
	P3−P4	171	3	24	23	21	円	3.78	
	P4−P1	206	4	21	23	21	円		
	平均	194.5		23	23.25	21			

2号掘立柱建物跡観察表　1間×1間

	柱穴番号	桁行柱間 (cm)	Pit	深さ (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	掘り方	床面積 (㎡)	備考
	P1−P2	124	1	38	22	20	円		
棟部	P2−P3	112	2	39	27	19	楕円		
	P3−P4	117	3	24	23	22	円	1.42	
	P4−P1	123	4	15	17	17	円		
	平均	119		29	22.25	19.5			

3号掘立柱建物跡観察表　1間×1間

	柱穴番号	桁行柱間 (cm)	Pit	深さ (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	掘り方	床面積 (㎡)	備考
	P1−P2	158	1	12	18	13	楕円		
棟部	P2−P3	187	2	21	18	13	楕円		
	P3−P4	182	3	9	15	15	円	3.15	
	P4−P1	183	4	16	15	12	円		
	平均	177.5		14.5	16.5	13.25			

4号掘立柱建物跡観察表　1間×1間

	柱穴番号	桁行柱間 (cm)	Pit	深さ (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	掘り方	床面積 (㎡)	備考
	P1−P2	224	1	36	28	26	楕円		
棟部	P2−P3	217	2	36	24	22	円		
	P3−P4	252	3	25	24	22	円	4.96	
	P4−P1	198	4	46	23	21	円		
	平均	222.75		35.75	24.75	22.75			

5号掘立柱建物跡観察表　1間×2間

	柱穴番号	桁行柱間 (cm)	Pit	深さ (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	掘り方	床面積 (㎡)	備考
	P1−P2	181	1	13	24	23	円		
	P2−P3	158	2	27	26	23	円		
	P3−P4	162	3	16	25	23	円		
棟部	P4−P5	167	4	30	28	27	円	5.48	
	P5−P6	172	5	23	27	26	円		
	P6−P1	177	6	18	27	26	円		
	P1−P3	338							
	P4−P6	339							
	平均	169.5		21.17	26.17	24.67			

6号掘立柱建物跡観察表　1間×1間

	柱穴番号	桁行柱間 (cm)	Pit	深さ (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	掘り方	床面積 (㎡)	備考
	P1−P2	207	1	26	19	18	円		
棟部	P2−P3	211	2	5	19	19	円		
	P3−P4	213	3	56	22	20	円	4.28	
	P4−P1	197	4	39	19	19	円		
	平均	207		31.5	19.75	19			

7号掘立柱建物跡観察表　1間×1間

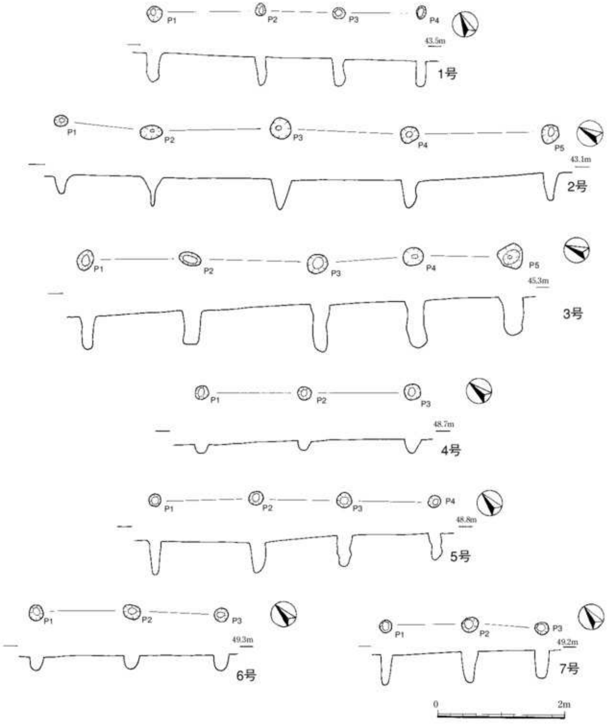
	柱穴番号	桁行柱間 (cm)	Pit	深さ (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	掘り方	床面積 (㎡)	備考
	P1−P2	154	1	31	24	24	円		
棟部	P2−P3	144	2	30	24	23	円		
	P3−P4	149	3	42	21	20	円	2.04	
	P4−P1	124	4	37	28	23	楕円		
	平均	142.75		35	24.25	22.5			

④柱穴列（第28～30図）

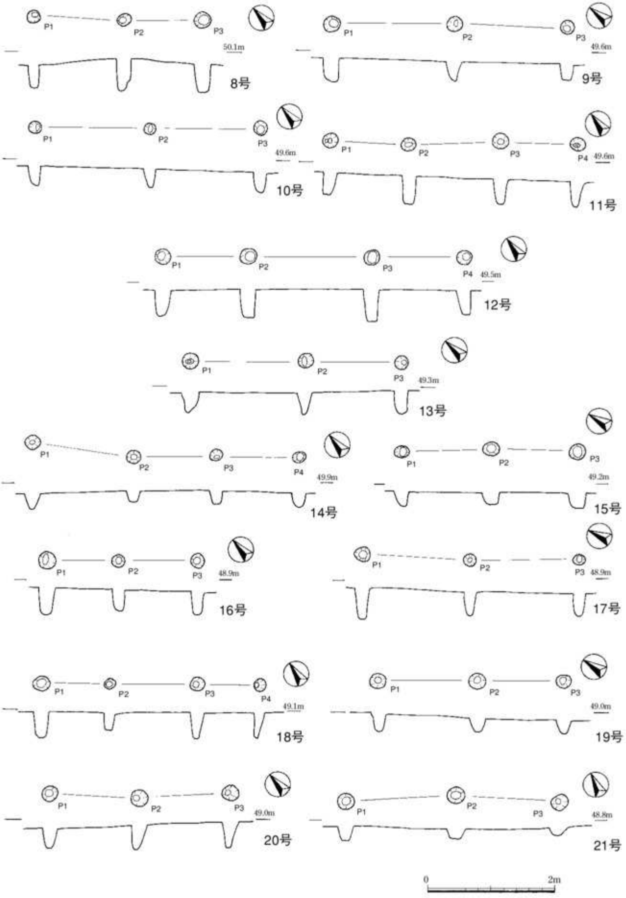
柱穴列も農業開発総合センター遺跡群においては，よく見られる遺構である。３個以上の柱穴が直線上に並んでいるものを人為的な遺構としてとらえた。

柱穴の深さ・長径・短径・掘り方，柱間などは観察表で示した。柱穴内の埋土は，ほとんどが黒褐色であった。

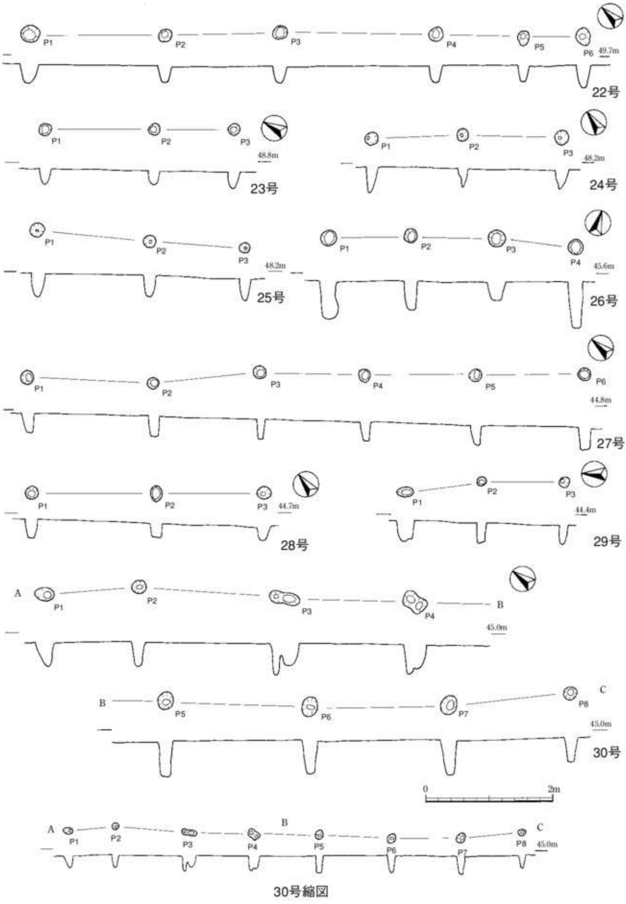
本遺跡においては，30列の柱穴列を検出した。柱穴が３個の柱穴列が最も多く17列で，最大で8個の柱穴が並んだものも１列あった。柱穴の大きさ等に規則性はみられないが，方位については北西に軸をとっているものが多い。



第28図　縄文時代晩期　柱穴列１



第29図　縄文時代晩期　柱穴列２



第30図　縄文時代晩期　柱穴列 3

柱穴列観察表１

1号柱穴列

Pit	深さ (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	掘り方
1	45	25	23	円
2	45	19	16	楕円
3	45	22	18	円
4	40	20	16	楕円
平均	43.8	21.5	18.3	

柱間距離 (cm)		平均 (cm)	全長 (cm)
P1−P2	167	139.3	418
P2−P3	121		
P3−P4	130		

2号柱穴列

Pit	深さ (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	掘り方
1	30	22	18	円
2	45	34	22	楕円
3	50	35	32	円
4	45	28	25	円
5	45	29	26	円
平均	43	29.6	24.6	

柱間距離 (cm)		平均 (cm)	全長 (cm)
P1−P2	145	192.5	767
P2−P3	197		
P3−P4	204		
P4−P5	224		

3号柱穴列

Pit	深さ (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	掘り方
1	51	33	25	楕円
2	55	33	20	円
3	77	30	27	楕円
4	76	35	28	円
5	62	40	36	円
平均	64.2	34.2	27.2	

柱間距離 (cm)		平均 (cm)	全長 (cm)
P1−P2	165	162.5	650
P2−P3	195		
P3−P4	145		
P4−P5	145		

4号柱穴列

Pit	深さ (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	掘り方
1	14	22	22	円
2	15	22	22	円
3	22	25	24	円
平均	17	23	22.7	

柱間距離 (cm)		平均 (cm)	全長 (cm)
P1−P2	160	165	330
P2−P3	170		

5号柱穴列

Pit	深さ (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	掘り方
1	54	20	20	円
2	50	24	16	円
3	52	25	24	円
4	43	20	19	円
平均	50	22	20	

柱間距離 (cm)		平均 (cm)	全長 (cm)
P1−P2	158	147.3	440
P2−P3	140		
P3−P4	144		

6号柱穴列

Pit	深さ (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	掘り方
1	23	23	22	円
2	23	27	23	円
3	26	23	22	円
平均	24	24.3	22.3	

柱間距離 (cm)		平均 (cm)	全長 (cm)
P1−P2	150	141.5	288
P2−P3	133		

7号柱穴列

Pit	深さ (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	掘り方
1	50	21	19	楕円
2	49	26	24	円
3	45	22	19	円
平均	48	23.0	20.7	

柱間距離 (cm)		平均 (cm)	全長 (cm)
P1−P2	131	122	243
P2−P3	113		

8号柱穴列

Pit	深さ (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	掘り方
1	32	20	17	円
2	53	23	20	円
3	45	27	27	円
平均	43.3	23.3	21.3	

柱間距離 (cm)		平均 (cm)	全長 (cm)
P1−P2	137	133	267
P2−P3	129		

9号柱穴列

Pit	深さ (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	掘り方
1	38	26	25	円
2	33	26	25	円
3	29	23	23	円
平均	33.3	25	24.3	

柱間距離 (cm)		平均 (cm)	全長 (cm)
P1−P2	191	183	366
P2−P3	175		

10号柱穴列

Pit	深さ (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	掘り方
1	32	20	20	円
2	31	19	19	円
3	32	22	22	円
平均	31.7	20.3	20.3	

柱間距離 (cm)		平均 (cm)	全長 (cm)
P1−P2	180	177.5	355
P2−P3	175		

柱穴列観察表2

11号柱穴列

Pit	深さ(cm)	長径(cm)	短径(cm)	掘り方
1	37	23	23	円
2	42	22	21	円
3	41	24	25	円
4	42	22	22	円
平均	40.5	22.8	22.8	

柱間距離(cm)		平均(cm)	全長(cm)
P1−P2	124	126.3	382
P2−P3	136		
P3−P4	119		

13号柱穴列

Pit	深さ(cm)	長径(cm)	短径(cm)	掘り方
1	33	26	25	円
2	35	23	23	円
3	39	22	21	円
平均	35.7	23.7	23.0	

柱間距離(cm)		平均(cm)	全長(cm)
P1−P2	181	168.5	337
P2−P3	156		

15号柱穴列

Pit	深さ(cm)	長径(cm)	短径(cm)	掘り方
1	27	23	19	円
2	21	27	21	楕円
3	24	28	24	円
平均	24	26	21.3	

柱間距離(cm)		平均(cm)	全長(cm)
P1−P2	140	138	274
P2−P3	136		

17号柱穴列

Pit	深さ(cm)	長径(cm)	短径(cm)	掘り方
1	51	24	23	円
2	38	20	19	円
3	39	20	18	円
平均	42.7	21	20.0	

柱間距離(cm)		平均(cm)	全長(cm)
P1−P2	168	170	340
P2−P3	172		

19号柱穴列

Pit	深さ(cm)	長径(cm)	短径(cm)	掘り方
1	32	25	24	円
2	25	28	25	円
3	24	24	22	円
平均	27	25.7	23.7	

柱間距離(cm)		平均(cm)	全長(cm)
P1−P2	155	144	288
P2−P3	133		

21号柱穴列

Pit	深さ(cm)	長径(cm)	短径(cm)	掘り方
1	23	25	25	円
2	16	29	28	円
3	14	27	25	円
平均	17.7	27	26	

柱間距離(cm)		平均(cm)	全長(cm)
P1−P2	174	116.5	232
P2−P3	160		

12号柱穴列

Pit	深さ(cm)	長径(cm)	短径(cm)	掘り方
1	40	26	25	円
2	44	25	25	円
3	52	25	25	円
4	38	24	23	円
平均	45.3	25	25.0	

柱間距離(cm)		平均(cm)	全長(cm)
P1−P2	137	158.7	476
P2−P3	193		
P3−P4	146		

14号柱穴列

Pit	深さ(cm)	長径(cm)	短径(cm)	掘り方
1	27	25	25	円
2	20	24	21	円
3	23	20	19	円
4	23	23	18	楕円
平均	23.3	23	20.8	

柱間距離(cm)		平均(cm)	全長(cm)
P1−P2	161	140.7	416
P2−P3	131		
P3−P4	130		

16号柱穴列

Pit	深さ(cm)	長径(cm)	短径(cm)	掘り方
1	47	29	27	円
2	36	21	21	円
3	37	22	21	円
平均	40	24.0	23.0	

柱間距離(cm)		平均(cm)	全長(cm)
P1−P2	116	119	238
P2−P3	122		

18号柱穴列

Pit	深さ(cm)	長径(cm)	短径(cm)	掘り方
1	43	26	24	円
2	29	18	18	円
3	43	22	18	円
4	42	20	18	円
平均	39.3	21.5	19.5	

柱間距離(cm)		平均(cm)	全長(cm)
P1−P2	104	111.7	335
P2−P3	136		
P3−P4	95		

20号柱穴列

Pit	深さ(cm)	長径(cm)	短径(cm)	掘り方
1	30	25	24	円
2	41	26	26	円
3	41	27	25	円
平均	37.3	26	25	

柱間距離(cm)		平均(cm)	全長(cm)
P1−P2	136	140	280
P2−P3	144		

柱穴列観察表 3

22号柱穴列

Pit	深さ(cm)	長径(cm)	短径(cm)	掘り方
1	33	30	28	円
2	24	29	20	円
3	27	22	21	円
4	27	24	22	円
5	27	23	18	円
6	37	27	24	円
平均	29	25.8	22.2	

柱間距離(cm)		平均(cm)	全長(cm)
P1−P2	213	173.6	863
P2−P3	180		
P3−P4	242		
P4−P5	138		
P5−P6	95		

23号柱穴列

Pit	深さ(cm)	長径(cm)	短径(cm)	掘り方
1	24	17	17	円
2	20	19	18	円
3	27	20	16	円
平均	23.7	18.7	17	

柱間距離(cm)		平均(cm)	全長(cm)
P1−P2	170	147.5	295
P2−P3	125		

24号柱穴列

Pit	深さ(cm)	長径(cm)	短径(cm)	掘り方
1	41	20	20	円
2	30	19	16	円
3	30	22	21	円
平均	33.7	20.3	19	

柱間距離(cm)		平均(cm)	全長(cm)
P1−P2	147	150	300
P2−P3	153		

25号柱穴列

Pit	深さ(cm)	長径(cm)	短径(cm)	掘り方
1	39	23	22	円
2	37	20	20	円
3	35	18	17	円
平均	37	20	20	

柱間距離(cm)		平均(cm)	全長(cm)
P1−P2	177	163.5	322
P2−P3	150		

26 号柱穴列

Pit	深さ(cm)	長径(cm)	短径(cm)	掘り方
1	60	25	24	円
2	47	26	22	円
3	30	27	25	円
4	74	23	24	円
平均	52.8	25.3	23.8	

柱間距離(cm)		平均(cm)	全長(cm)
P1−P2	137	132.0	395
P2−P3	134		
P3−P4	125		

27号柱穴列

Pit	深さ(cm)	長径(cm)	短径(cm)	掘り方
1	31	22	20	円
2	35	20	19	円
3	32	20	20	円
4	31	20	18	円
5	32	19	19	円
6	36	21	20	円
平均	32.8	20.3	19.3	

柱間距離(cm)		平均(cm)	全長(cm)
P1−P2	195	173.4	865
P2−P3	167		
P3−P4	162		
P4−P5	174		
P5−P6	169		

28号柱穴列

Pit	深さ(cm)	長径(cm)	短径(cm)	掘り方
1	30	19	19	円
2	24	24	18	円
3	23	22	19	円
平均	25.7	21.7	18.7	

柱間距離(cm)		平均(cm)	全長(cm)
P1−P2	196	181.5	363
P2−P3	167		

29号柱穴列

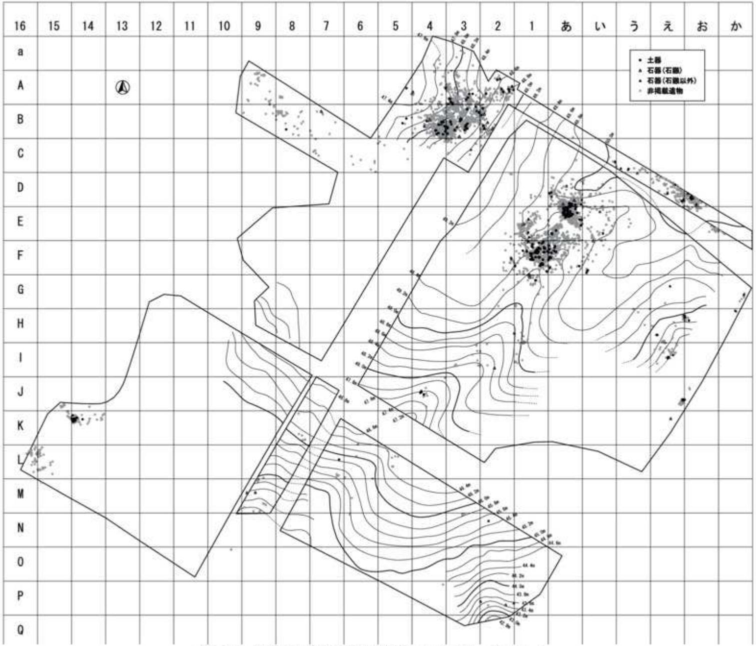
Pit	深さ(cm)	長径(cm)	短径(cm)	掘り方
1	33	28	15	楕円
2	34	14	14	円
3	32	22	16	円
平均	33	21.3	15	

柱間距離(cm)		平均(cm)	全長(cm)
P1-P2	118	122.5	242
P2-P3	127		

30号柱穴列

Pit	深さ(cm)	長径(cm)	短径(cm)	掘り方
1	38	31	22	楕円
2	39	21	20	円
3	50	51	19	楕円
4	46	38	26	楕円
5	56	28	25	楕円
6	53	32	25	楕円
7	54	30	25	楕円
8	39	21	20	円
平均	46.9	31.5	22.8	

柱間距離(cm)		平均(cm)	全長(cm)
P1−P2	160	205	1430
P2−P3	230		
P3−P4	210		
P4−P5	195		
P5−P6	240		
P6−P7	215		
P7−P8	185		



第31図　縄文時代晩期遺物出土状況図（1グリッド：20m）

（２）遺物（第32～50図）

①土器（第32～42図）

縄文時代晩期の土器は，深鉢形土器と浅鉢形土器に形態分類できる。概して深鉢形土器は粗製，浅鉢形土器は精製である。

深鉢形土器は，主に口縁部の外反の仕方，胴部の張り出し具合や角度，厚みや文様等によりⅫ・ⅩⅢ類の２つに大別できる。

なお，土器の出土状況については，主に，Ｅ－あ区，Ｆ－１区，Ｂ－３・４区の３地点に集中しており，遺構との関わりについては明確な関連性は見出せない。

Ⅻ類土器（第32図）

171～186までは，Ⅻ類に分類した。これらは概ねどれも，口縁部は外反するものの先端部にかけて緩やかに内側に折れ，数条の沈線を有するものである。173～176は，特に，頸部あたりでくっきりと張り出しながら，先端部分は内側に屈曲するものである。185・186は頸部あたりの破片であるが，ここでもはっきりと外面に張り出しながら，内側に湾曲する様子や施されている深い沈線が見て取れる。

ⅩⅢａ類土器（第32・33図）

187～199までは，ⅩⅢａ類に分けられる。これらは，口縁部の端が，直立するか外側にやや広がるものであり，口縁部の幅は狭いタイプである。大形のものも多く，191・193・195は，口径がそれぞれ，41.4㎝・40㎝・42.7㎝を測り，外面には条痕が施されている。188・189・199は，外面に煤が付着し，煮炊きに利用されていたようである。

ⅩⅢｂ類土器（第34～36図）

200～229は，ⅩⅢａ類よりも口縁部の端が外側に広がり，幅が広くⅩⅢｂ類に分類した。また，施されている条痕も深くはっきりとしているものが多い。200～204は，外面はナデ調整で条痕が，内面はナデ調整が施されている。205の外面は，条痕を施した後ナデ仕上げをしており，表面が滑らかである。206～212は，外面はナデ調整に条痕が施され，内面調整はナデである。213は，外面は条痕を施した後，表面をナデ滑らかに仕上げており，内面はナデ調整である。214・223・229は，仕上げが粗く，外面は胎土の粒子の動き具合から，ヘラケズリ後に条痕を施しているものと考えられる。また，223は他の個体の条痕が左右に施されているのに対し，上下に施されているところが特筆される。217は，外面が軽いナデ程度の調整であるのに対し，内面には条痕が施されている。200・215・216・218は，特に大型のもので，口径はそれぞれ42.6㎝・43㎝・44.2㎝・44㎝を測る。

頸部～胴部（第36～38図）

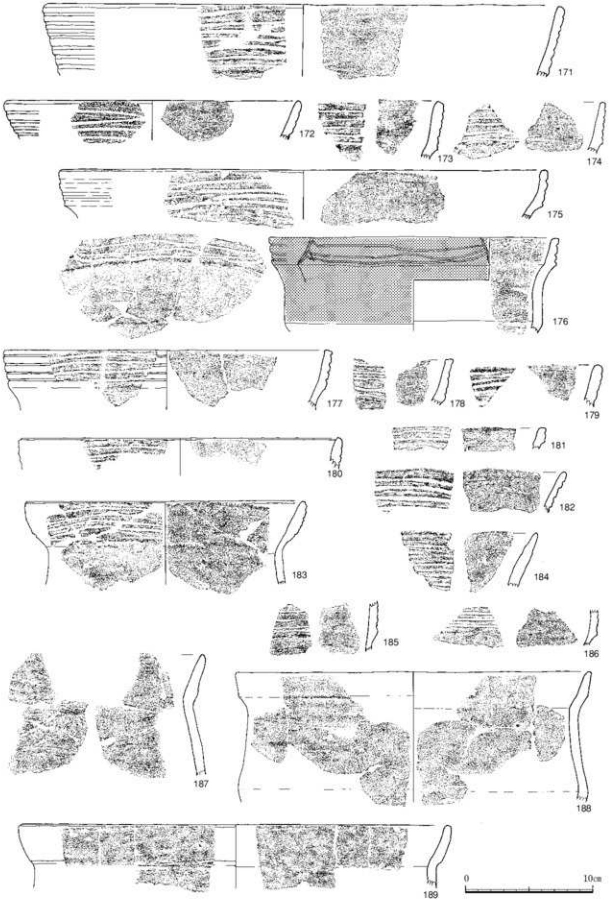
230～243は，頸部から胴部である。231・232・243は，内外面共にナデ調整で，条痕が施されている。234・240の外面調整は，ヘラケズリ後ナデ仕上げをしている。241には，外面に煤が残る。胴部の張り出し具合では，230は急角度で古い段階のものであると考えられる。237は胴部最大径30.6㎝を測り，外面に煤の付着が確認できる。238・241は，緩やかに張りだしており新段階のものであると思われる。

244は椀形をし，245は丁寧なミガキの精製で，平皿タイプの特異な器形をしており，外面に煤が付着している。

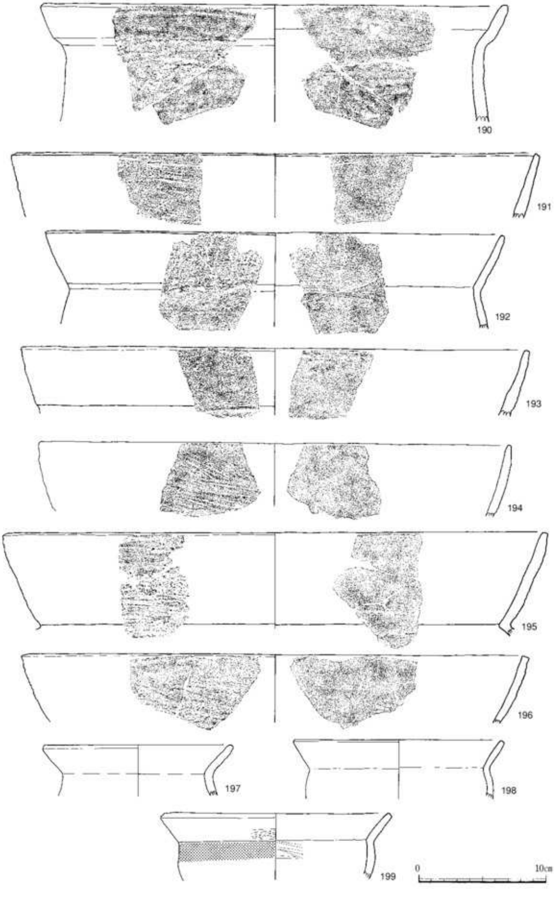
底部（第38・39図）

246～278は，底部である。底部は上げ底・平底の２つに大別できる。また，平底タイプは，底部の端が胴部から直線的に下りてくるタイプと，外側に張りだしてくるタイプとに分けられる。内外面共にナデ調整がほとんどで，中には条痕が残るものもある。

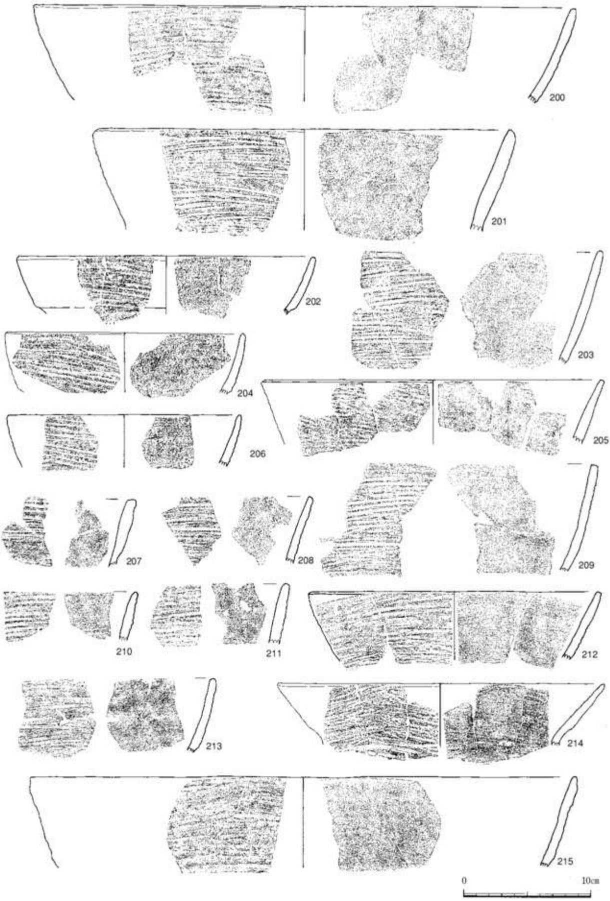
上げ底は247の一点のみで，他の個体より比較的古いものであると考えられる。246は，底径11.6㎝を測る。248～259は，胴部から底部にかけて外反せず直線的に端まで下りてくるもので，260～278は，張り出し具合は大小様々であるが，端の部分が外側に張り出すものである。前者が古いタイプで，後者が新しいタイプであると思われる。268・277は，外面に条痕が残る。246は内外面に，269は内面に煤が付着する。



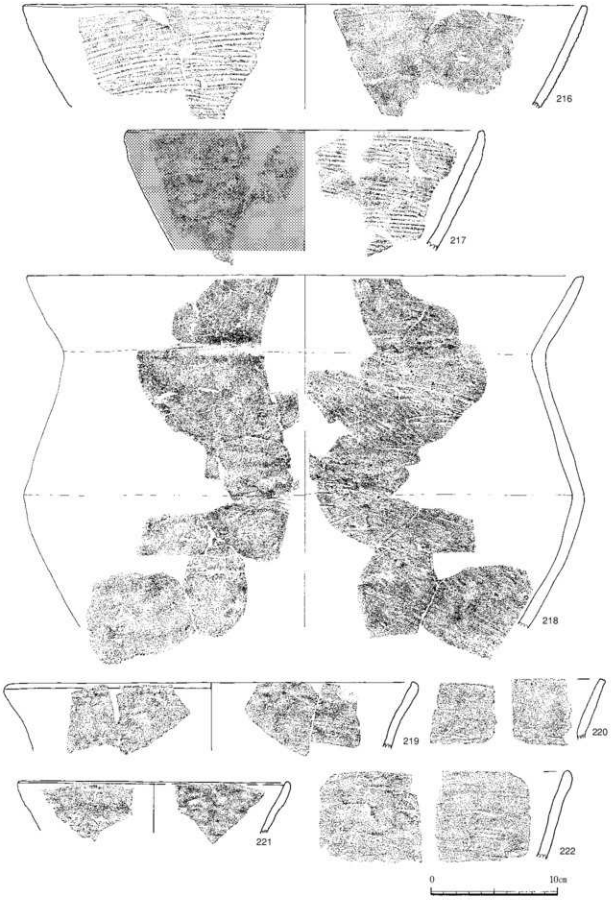
第32図　Ⅻ類土器，XIII a 類土器（1）



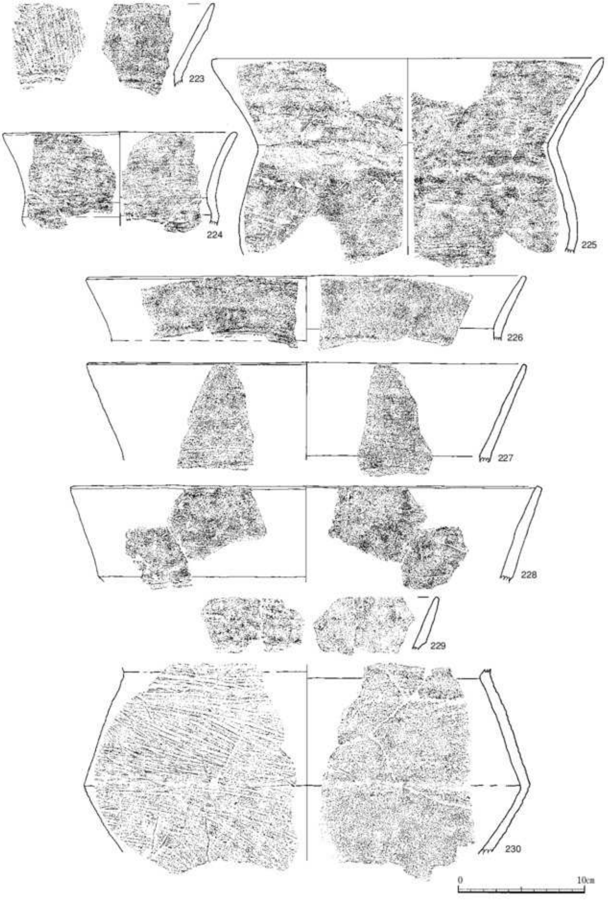
第33図　Ⅻａ類土器（２）



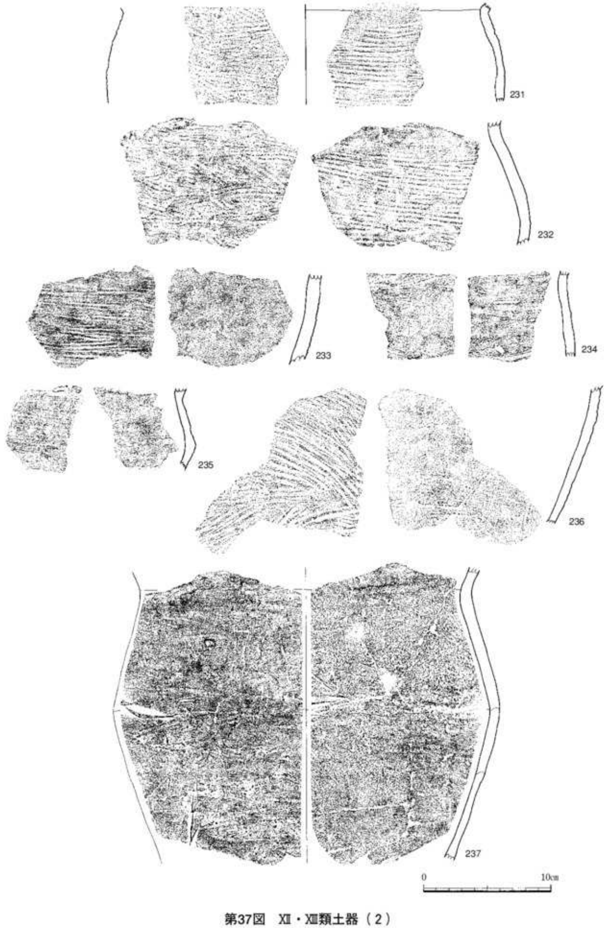
第34図　XIII b 類土器（1）



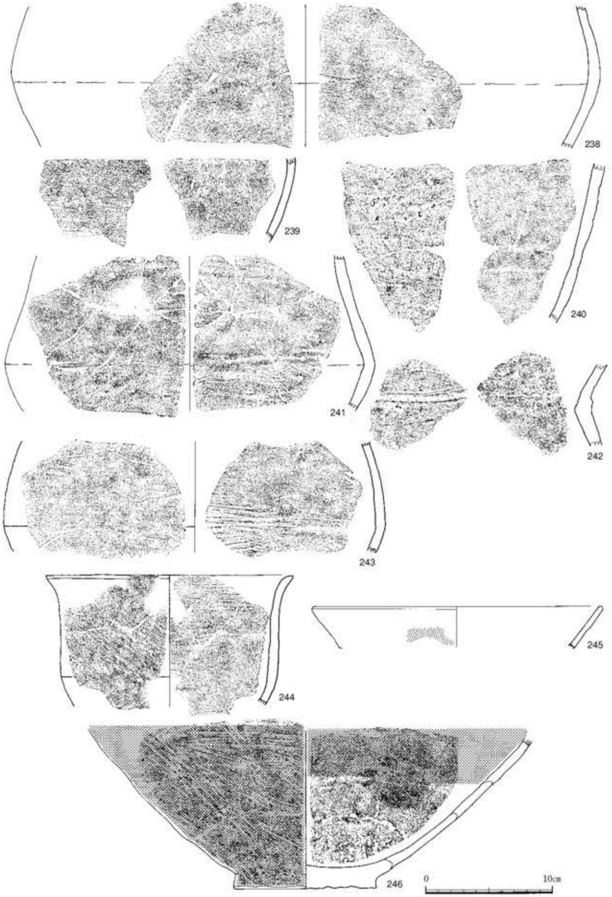
第35図　Ⅻb類土器（2）



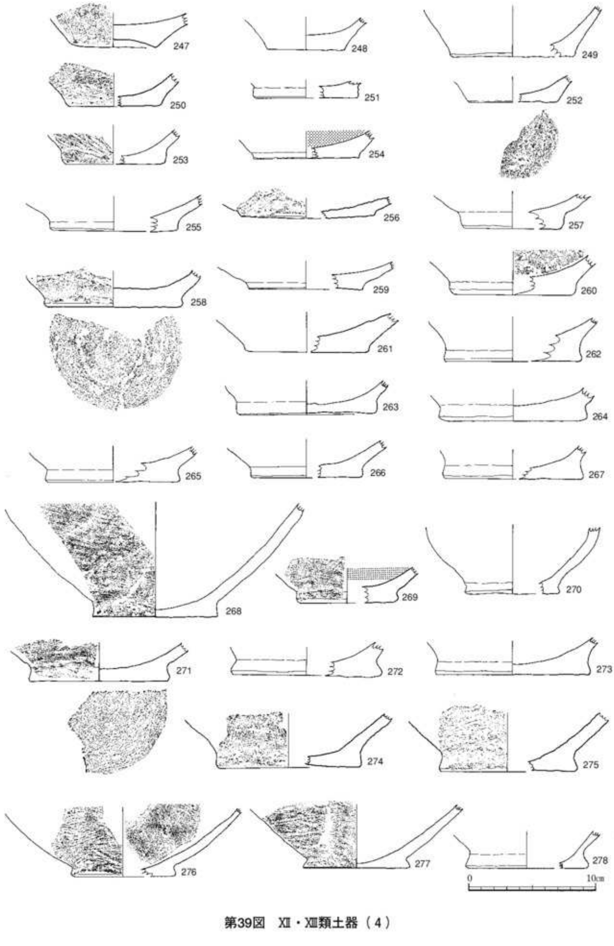
第36図　ⅩⅢb類土器（3），ⅩⅡ・ⅩⅢ類土器（1）



第37図　Ⅻ・ⅩⅢ類土器（2）



第38図　Ⅻ・ⅩⅢ類土器（3）



第39図　Ⅻ・ⅩⅢ類土器（４）

縄文時代晩期土器観察表 1

挿図番号	遺物番号	層位	出土区	部位	色調 内	色調 外	胎土 石英	胎土 長石	胎土 角閃石	胎土 その他	焼成	外面	内面	類	備考
	171	Ⅲ	B−3	口縁部	にぶい黄褐	黒褐	○	○			良	沈線,ナデ	ナデ	ⅩⅡ	
	172	Ⅲ	I−え	口縁部	にぶい黄橙	橙	○	○			良	沈線,ナデ	ナデ	ⅩⅡ	
	173	Ⅲ	H−お	口縁部	黒褐	暗褐	○	○	○		良	沈線,ナデ	ナデ	ⅩⅡ	
	174	Ⅲ	K−13	口縁部	褐	黒褐	○	○			良	沈線	ナデ	ⅩⅡ	
	175	Ⅱ	A−2	口縁部	にぶい褐	にぶい褐	○	○			良	沈線,ナデ	ナデ	ⅩⅡ	
	176	Ⅲ	A−2	口縁〜胴部	浅黄	灰黄褐	○	○			良	沈線,ナデ	ナデ	ⅩⅡ	外面煤付着
	177	Ⅲ	I−え	口縁部	にぶい黄	黒褐	○	○	○		良	沈線,ナデ	ナデ	ⅩⅡ	
	178	Ⅲ	K−14	口縁部	暗褐	暗褐	○	○			良	沈線,ミガキ	ミガキ	ⅩⅡ	
	179	Ⅲ	Q−11	口縁部	オリーブ黒	オリーブ黒	○				良	条痕,ナデ	条痕,ナデ	ⅩⅡ	
第32図	180	Ⅲ	H−お	口縁部	黒褐	黒褐	○	○			良	沈線,ナデ	ナデ	ⅩⅡ	
	181	Ⅲ	K−14	口縁部	橙	橙	○	○			良	沈線,ミガキ	ミガキ	ⅩⅡ	
	182	Ⅲ	B−4	口縁部	橙	褐	○	○			良	沈線,ミガキ	ミガキ	ⅩⅡ	
	183	Ⅲ	A−2	口縁部	褐	暗赤褐	○	○	○		良	沈線,ナデ	ナデ	ⅩⅡ	
	184	Ⅲ	E−あ	口縁部	にぶい黄褐	黒褐	○	○			良	条痕	ナデ	ⅩⅡ	
	185	Ⅲ	K−14	口縁部	にぶい赤褐	暗赤褐	○	○			良	沈線,ナデ	ナデ	ⅩⅡ	
	186	Ⅲ	K−14	口縁部	暗赤褐	黒褐	○	○			良	沈線,ナデ	ナデ	ⅩⅡ	
	187	Ⅲ	E−い	口縁〜頸部	オリーブ黒	灰	○	○	○		良	ナデ	ナデ	ⅩⅢa	
	188	Ⅲ	J−4	口縁〜頸部	にぶい黄橙	黒	○	○			良	ナデ	ナデ	ⅩⅢa	外面煤付着
	189	Ⅲ	B−4	口縁部	黄灰	にぶい黄橙	○	○			良	ナデ	ナデ	ⅩⅢa	外面煤付着
	190	Ⅲ	A−2	口縁〜頸部	浅黄	黒褐	○	○			良	ナデ	ナデ	ⅩⅢa	
	191	Ⅲ	E−あ	口縁部	灰	灰黄	○	○			良	条痕,ナデ	ナデ	ⅩⅢa	
	192	Ⅲ	D−え	口縁〜頸部	浅黄	灰黄	○	○			良	条痕,ナデ	ナデ	ⅩⅢa	外面煤付着
	193	Ⅲ	B−3	口縁部	灰黄	にぶい黄褐	○	○	○		良	ナデ	ナデ	ⅩⅢa	
第33図	194	Ⅲ	E−あ	口縁部	黒褐	灰黄褐	○	○			良	条痕,ミガキ	ミガキ	ⅩⅢa	
	195	Ⅲ	F−1	口縁部	にぶい褐	黒褐	○	○			良	ヘラケズリ後条痕	ミガキ	ⅩⅢa	
	196	Ⅲ	F−1	口縁部	にぶい黄褐	黒褐	○	○			良	ナデ	ナデ	ⅩⅢa	
	197	Ⅲ	A·B−5	口縁部	褐	明褐	○	○			良	ミガキ	ミガキ	ⅩⅢa	
	198	Ⅲ	F−あ	口縁部	オリーブ黒	オリーブ黒	○	○			良	ミガキ	ミガキ	ⅩⅢa	
	199	Ⅲ	F−あ	口縁部	黄灰	灰暗黄	○	○			良	ミガキ	ミガキ	ⅩⅢa	外面煤付着
	200	Ⅲ	F−1·あ·い	口縁部	にぶい黄褐	黒褐	○	○			良	条痕,ナデ	ナデ	ⅩⅢb	
	201	Ⅲ	E−あ	口縁部	灰黄褐	褐	○	○	○		良	条痕,ナデ	ナデ	ⅩⅢb	
	202	Ⅲ	F−1	口縁部	黄灰	暗灰黄	○	○			良	条痕,ナデ	ナデ	ⅩⅢb	
	203	Ⅲ	F−1	口縁部	灰黄褐	灰黄褐	○	○			良	条痕,ナデ	ナデ	ⅩⅢb	
	204	Ⅲ	E−1	口縁部	黒褐	黒褐	○	○	○		良	条痕,ナデ	ナデ	ⅩⅢb	
	205	Ⅲ	E−あ	口縁部	にぶい黄橙	灰黄褐	○	○			良	条痕後ナデ	ナデ	ⅩⅢb	
第34図	206	Ⅲ	F−1	口縁部	黄灰	暗灰黄	○	○	○		良	条痕,ナデ	ナデ	ⅩⅢb	
	207	Ⅲ	K−14	口縁部	明黄褐	黒褐	○	○			良	条痕,ナデ	ナデ	ⅩⅢb	
	208	Ⅲ	E−あ	口縁部	黄灰	黒褐	○	○	○		良	条痕,ナデ	ナデ	ⅩⅢb	
	209	Ⅲ	E−あ,F−1	口縁部	黒	にぶい黄褐	○	○			良	条痕,ナデ	ナデ	ⅩⅢb	
	210	Ⅲ	D−あ	口縁部	黄褐	明黄褐	○	○			良	条痕,ナデ	ナデ	ⅩⅢb	
	211	Ⅲ	D−あ	口縁部	黒褐	黒	○	○			良	条痕,ナデ	ナデ	ⅩⅢb	
	212	Ⅲ	E·F−あ	口縁部	にぶい黄橙	黒褐	○	○			良	条痕,ナデ	ナデ	ⅩⅢb	外面煤付着
	213	Ⅲ	B−3	口縁部	にぶい橙	褐	○	○			良	条痕後ナデ	ナデ	ⅩⅢb	外面煤付着
	214	Ⅲ	F−1	口縁部	灰オリーブ	オリーブ黒	○	○			良	ヘラケズリ後条痕	ナデ	ⅩⅢb	
	215	Ⅲ	F−1	口縁部	橙	橙	○	○			良	条痕	ミガキ	ⅩⅢb	
	216	Ⅲ	F−あ	口縁部	黒褐	にぶい黄褐	○	○			良	条痕,ナデ	ナデ	ⅩⅢb	
	217	Ⅲ	E−あ	口縁部	灰黄	黒褐	○	○			良	ナデ	条痕	ⅩⅢb	沈線(部),外面煤付着
	218	Ⅲ	A−3,B−4,F−1	口縁〜胴部	暗褐	明赤褐	○	○			良	ヘラケズリ後ナデ	ナデ	ⅩⅢb	外面煤付着
第35図	219	Ⅲ	E−あ	口縁部	浅黄	にぶい黄	○	○			良	ナデ	ナデ	ⅩⅢb	
	220	Ⅲ	E−あ	口縁部	灰黄褐	灰黄褐	○	○			良	ナデ	ナデ	ⅩⅢb	
	221	Ⅲ	E−あ	口縁部	にぶい黄橙	褐灰	○	○			良	ナデ	ナデ	ⅩⅢb	
	222	Ⅲ	C−3	口縁部	浅黄	褐灰	○	○			良	ナデ	ナデ	ⅩⅢb	
	223	Ⅲ	D−あ	口縁部	灰黄褐	黒褐	○	○			良	ヘラケズリ後条痕	ナデ	ⅩⅢb	
	224	Ⅲ	N−7·8	口縁部	灰黄褐	灰黄褐	○	○			良	ナデ	ナデ	ⅩⅢb	
	225	Ⅲ	E−1·あ,F−1	口縁〜頸部	浅黄橙	浅黄	○	○	○		良	条痕,ナデ	ナデ	ⅩⅢb	
	226	Ⅲ	E−あ	口縁部	黒褐	黒褐	○	○			良	条痕,ナデ	ナデ	ⅩⅢb	
第36図	227	Ⅲ	E−1	口縁部	橙	浅黄橙	○	○			良	ナデ	ナデ	ⅩⅢb	
	228	Ⅲ	E−あ	口縁部	灰黄褐	灰黄褐	○	○			良	ナデ,沈線	ナデ	ⅩⅢb	
	229	Ⅲ	K−14	口縁部	オリーブ褐	黄褐	○	○			良	ヘラケズリ後ナデ,沈線	ナデ	ⅩⅢb	
	230	Ⅲ	E−あ	胴部	黄灰	暗灰黄	○	○	○		良	条痕,ナデ	ナデ	ⅩⅡ·ⅩⅢ	
	231	Ⅲ	E−あ	胴部	橙	黒褐	○	○			良	条痕,ナデ	条痕,ナデ	ⅩⅡ·ⅩⅢ	
	232	Ⅲ	D−あ	胴部	オリーブ褐	明褐	○	○	○		良	条痕,ナデ	条痕,ナデ	ⅩⅡ·ⅩⅢ	
	233	Ⅲ	E−あ	胴部	にぶい橙	黒褐	○	○	○		良	条痕,ナデ	ナデ	ⅩⅡ·ⅩⅢ	
	234	Ⅲ	E−あ	胴部	浅黄	にぶい黄	○	○	○		良	ヘラケズリ後ナデ	ナデ	ⅩⅡ·ⅩⅢ	
第37図	235	Ⅲ	E−あ	胴部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○	○			良	条痕,ナデ	ナデ	ⅩⅡ·ⅩⅢ	
	236	Ⅲ	E−あ,F−1	胴部	黒	明黄褐	○	○			良	条痕,ナデ	ナデ	ⅩⅡ·ⅩⅢ	
	237	Ⅲ	A−2	胴部	明黄褐	暗オリーブ褐	○	○			良	ナデ	ナデ	ⅩⅡ·ⅩⅢ	外面煤付着
	238	Ⅲ	A−3,K−13·14	胴部	暗黄褐	黒褐	○	○			良	ヘラケズリ後ナデ	ナデ	ⅩⅡ·ⅩⅢ	外面煤付着
	239	Ⅲ	E−あ,F−1	胴部	黒	灰オリーブ	○	○			良	ナデ	ナデ	ⅩⅡ·ⅩⅢ	
	240	Ⅲ	E−あ	胴部	灰黄褐	にぶい褐	○	○			良	ナデ	ナデ	ⅩⅡ·ⅩⅢ	
	241	Ⅲ	E−あ	胴部	にぶい黄橙	黒褐	○	○			良	ヘラケズリ後ナデ	ナデ	ⅩⅡ·ⅩⅢ	外面煤付着
	242	Ⅲ	D−あ	頸部	黄褐	灰黄褐	○	○			良	ナデ	ナデ	ⅩⅡ·ⅩⅢ	
第38図	243	Ⅲ	−	胴部	黄灰	黒褐	○	○			良	条痕,ナデ	条痕,ナデ	ⅩⅡ·ⅩⅢ	外面煤付着
	244	Ⅲ	L−7	口縁〜胴部	にぶい黄橙	にぶい橙	○	○			良	ナデ	ナデ	ⅩⅡ·ⅩⅢ	
	245	Ⅲ	F−1	口縁部	にぶい黄褐	灰黄褐	○				良	ナデ	ナデ	ⅩⅡ·ⅩⅢ	外面煤付着
	246	Ⅲ	B−3	胴〜底部	暗茶褐色	暗茶褐色	○	○			良	ヘラケズリ	ナデ	ⅩⅡ·ⅩⅢ	内外面煤付着

浅鉢形土器（第40～42図）

浅鉢は，総括してⅩⅢ類に分類する。

279と280は，口縁部に沈線を有し，端部が内傾するものである。281～296は，口縁部に沈線を有し，肩部から「くの字状」に大きく屈曲し，口縁部が外反するものである。端部は，直線上に立ち上がるもの（288・290・293・296），外傾するもの（281・291）などがある。

297～300は，肩部から「くの字状」に大きく屈曲し，口縁部が外反するものであるが，沈線を有しないものである。肩部から口縁部にかけての立ち上がりは，直線的なもの（297・299），内湾気味のもの（300），外反気味のもの（298）などに分けられる。また，298は形態的にやや深くなると思われる。

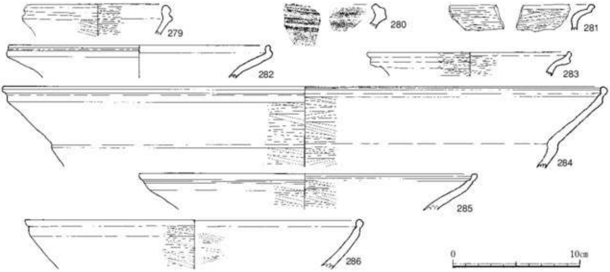
301～314は，胴部片である。301～303・307・309・312は，胴部で屈曲し直接外反しながら口縁部へと立ち上がるものである。306・310は，胴部中央部で大きく外へ張り出し最大径を測り，頸部へと内傾していくものである。308・313・314は，明瞭な屈曲部を持たず椀状になる。特に308・313は，内外面共にミガキによる丁寧な調整を行っており，薄手で黒光りするものである。306・312は共に外面に煤が付着する。

315～330は，明瞭な屈曲部を持たず弧を描くように椀状に口縁部へと立ち上がる精製タイプの浅鉢土器である。内外面共にミガキによる丁寧な調整が施される。316～323，325～330は口縁部に沈線が施されており，321は小型である。頸部でわずかにくびれ，口縁部は直行する。324は，胴部から内湾気味に口縁部に至るものである。口縁端部は，外反するもの（322・323），直線的に立ち上がるもの（328・330），内湾するもの（327）などに分類できる。

326は，他の個体とは器形が異なり，胴部で口縁部より径が大きく広がり，口縁部に向かい「逆くの字状」に屈曲するものである。器形では，310に類似する。口縁部内側に沈線が見られる。

縄文時代晩期土器観察表２

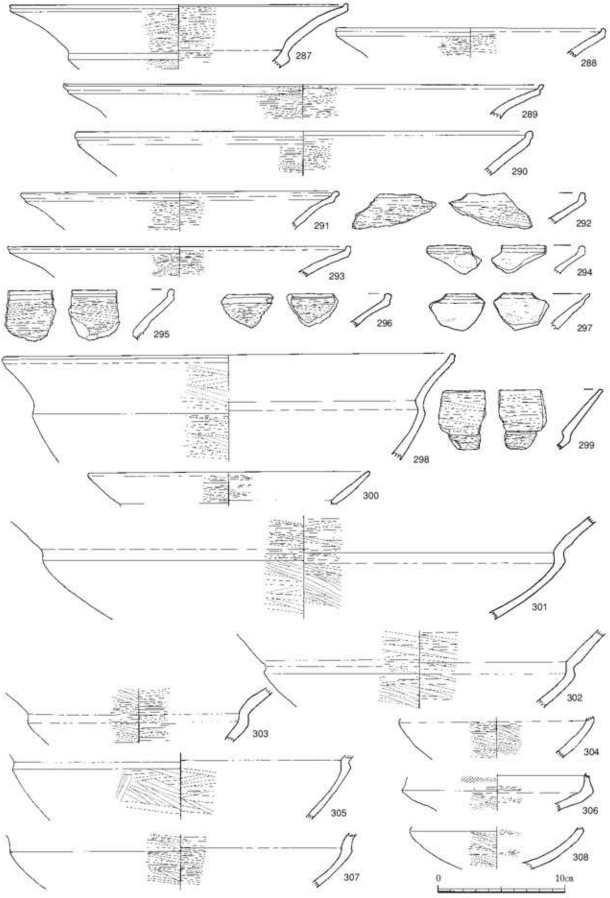
挿図番号	遺物番号	層位	出土区	部位	色調 内	色調 外	胎土 石英	胎土 長石	胎土 角閃石	胎土 その他	焼成	外面	内面	類	備考
第39図	247	Ⅱ	A－2	底部	浅黄	橙	○	○			良	ナデ	ナデ	ⅩⅡ·ⅩⅢ	
	248	Ⅱ	I－え	底部	にぶい橙	黒褐	○	○			良	ナデ	ナデ	ⅩⅡ·ⅩⅢ	
	249	Ⅱ	E－あ	底部	灰黄褐	橙	○	○			良	ナデ	ナデ	ⅩⅡ·ⅩⅢ	
	250	Ⅰ	B－3	底部	にぶい黄褐	浅黄	○	○	○		良	ナデ	ナデ	ⅩⅡ·ⅩⅢ	
	251	Ⅱ	B－3	底部	にぶい黄橙	褐灰	○	○			良	ナデ	ナデ	ⅩⅡ·ⅩⅢ	
	252	Ⅱ	A－2	底部	黄灰	灰黄	○	○			良	ナデ	ナデ	ⅩⅡ·ⅩⅢ	
	253	Ⅱ	F－1	底部	にぶい黄橙	浅黄橙	○	○	○		良	ナデ	ナデ	ⅩⅡ·ⅩⅢ	
	254	Ⅱ	B－3	底部	にぶい黄褐	黒褐	○	○	○		良	ナデ	ナデ	ⅩⅡ·ⅩⅢ	内面煤付着
	255	Ⅱ	E－あ	底部	にぶい黄橙	暗オリーブ褐	○	○	○		良	ヘラケズリ	ナデ	ⅩⅡ·ⅩⅢ	
	256	Ⅰ	B－2	底部	暗灰黄	にぶい黄褐	○	○			良	ナデ	ナデ	ⅩⅡ·ⅩⅢ	
	257	Ⅱ	E－あ	底部	にぶい黄橙	橙	○	○	○		良	ナデ	ナデ	ⅩⅡ·ⅩⅢ	
	258	Ⅰ	C－う	底部	明褐	明赤褐	○	○			良	ナデ	ナデ	ⅩⅡ·ⅩⅢ	
	259	Ⅱ	A－3,B－3·4	底部	暗褐	赤褐	○	○			良	ナデ	ナデ	ⅩⅡ·ⅩⅢ	
	260	Ⅱ	A－3	底部	灰黄	橙	○	○	○		良	ナデ	ナデ	ⅩⅡ·ⅩⅢ	
	261	Ⅱ	D－3	底部	暗灰黄	浅黄橙	○	○	○		良	ナデ	ナデ	ⅩⅡ·ⅩⅢ	
	262	Ⅱ	G－1	底部	灰黄	にぶい橙	○	○	○	砂粒	良	ナデ	ナデ	ⅩⅡ·ⅩⅢ	
	263	Ⅱ	A－3,B－4	底部	灰黄	にぶい黄橙	○	○	○		良	ナデ	ナデ	ⅩⅡ·ⅩⅢ	
	264	Ⅱ	B－3	底部	にぶい黄	橙	○	○	○		良	ナデ	ナデ	ⅩⅡ·ⅩⅢ	
	265	Ⅱ	F－2	底部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○			良	ナデ	ナデ	ⅩⅡ·ⅩⅢ	
	266	Ⅱ	F－1	底部	明黄褐	にぶい黄褐	○	○			良	ナデ	ナデ	ⅩⅡ·ⅩⅢ	
	267	Ⅱ	B－8	底部	黒褐	灰黄	○	○	○		良	ナデ	ナデ	ⅩⅡ·ⅩⅢ	
	268	Ⅱ	E－あ,F－1	胴部～底部	にぶい黄橙	にぶい黄橙	○		○		良	ナデ	条痕,ナデ	ⅩⅡ·ⅩⅢ	
	269	Ⅰ	D－お	底部	黒褐	にぶい褐	○	○	○		良	ナデ	ナデ	ⅩⅡ·ⅩⅢ	内面煤付着
	270	Ⅱ	D－1	底部	にぶい褐	黒	○		○		粗	ナデ	ナデ	ⅩⅡ·ⅩⅢ	外面煤付着
	271	Ⅰ·Ⅱ	A·B－3	底部	浅黄	にぶい黄	○	○			良	ナデ	ナデ	ⅩⅡ·ⅩⅢ	
	272	Ⅱ	E－1,F－あ	底部	褐灰	にぶい黄橙	○	○			良	ナデ	ナデ	ⅩⅡ·ⅩⅢ	
	273	Ⅱ	D－あ	底部	灰	明黄褐	○	○	○		良	ナデ	ナデ	ⅩⅡ·ⅩⅢ	
	274	Ⅱ	B－3	底部	暗灰黄	浅黄	○	○			良	ナデ	ナデ	ⅩⅡ·ⅩⅢ	
	275	Ⅰ	D－え	底部	黒褐	明褐	○	○			良	ヘラケズリ後ナデ	条痕後ナデ	ⅩⅡ·ⅩⅢ	
	276	Ⅱ	F－1	底部	にぶい黄褐	にぶい橙	○	○	○		良	ナデ	板ナデ	ⅩⅡ·ⅩⅢ	
	277	Ⅱ	F－1·あ	底部	にぶい黄褐	にぶい褐		○	○		良	条痕,ナデ	板ナデ	ⅩⅡ·ⅩⅢ	
	278	Ⅱ	E－あ	底部	にぶい黄橙	にぶい黄	○		○		良	ナデ	ナデ	ⅩⅡ·ⅩⅢ	



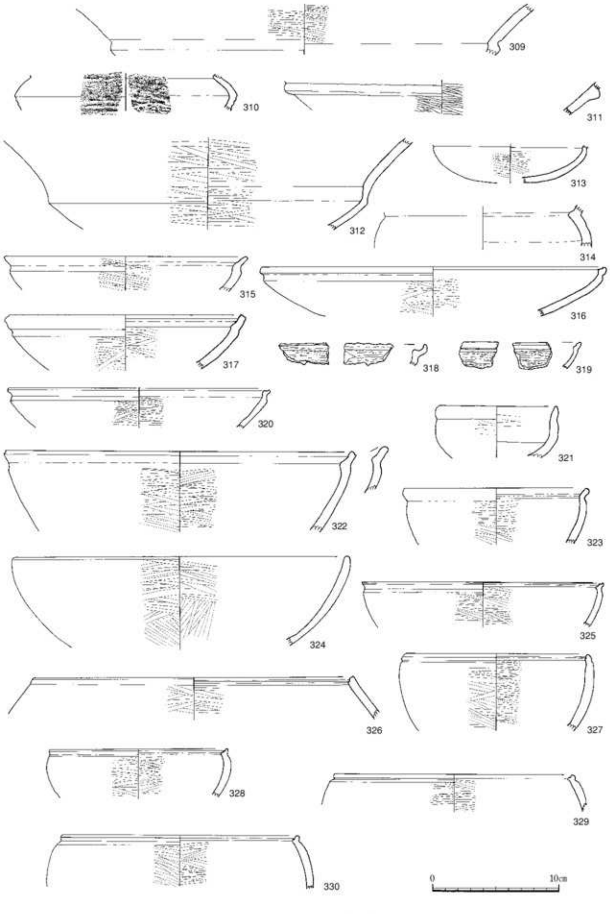
第40図　XIII類土器（1）

縄文時代晩期土器観察表 3

挿図番号	番号	出土区	層位	部位	色調 内	色調 外	胎土 石英	胎土 長石	胎土 角閃石	胎土 その他	焼成	外面	内面	類	備考
第40図	279	D－お	Ⅱ	口縁部	黒褐	灰黄褐	○	○			良	ミガキ	ミガキ	XIII	
	280	－	－	口縁部	褐	にぶい褐		○			良	ミガキ	ミガキ	XIII	
	281	－	－	口縁部	黄褐	明赤褐	○	○			良	ミガキ	ミガキ	XIII	
	282	D－い	Ⅱ	口縁部	黒褐	黒	○			金雲母	良	ミガキ	ミガキ	XIII	
	283	I－え	Ⅱ	口縁部	黒	黒	○				良	ミガキ	ミガキ	XIII	
	284	B－3	Ⅱ	口縁部	褐	にぶい褐	○	○			良	ミガキ	ミガキ	XIII	
	285	B－3	Ⅱ	口縁部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○			良	ミガキ	ミガキ	XIII	
	286	B－4	Ⅱ	口縁部	にぶい黄褐	にぶい黄橙	○	○			良	ミガキ	ミガキ	XIII	
第41図	287	F－1	Ⅱ	口縁部	黒	黒褐	○	○			良	ミガキ	ミガキ	XIII	
	288	B－3	Ⅱ	口縁部	黒褐	にぶい黄褐	○	○			良	ミガキ	ミガキ	XIII	
	289	I－1	Ⅱ	口縁部	にぶい黄褐	暗褐	○	○			良	ミガキ	ミガキ	XIII	
	290	D－え	Ⅱ	口縁部	灰	暗灰黄	○	○			良	ミガキ	ミガキ	XIII	
	291	F－1	Ⅱ	口縁部	灰黄褐	にぶい黄褐	○	○			良	ミガキ	ミガキ	XIII	
	292	－	Ⅰ	口縁部	灰黄	灰黄褐	○	○			良	ミガキ	ミガキ	XIII	
	293	F－1・あ	Ⅱ	口縁部	黄灰	黄灰	○	○			良	ミガキ	ミガキ	XIII	
	294	B－3	Ⅱ	口縁部	黄	浅黄	○	○			良	ミガキ	ミガキ	XIII	
	295	－	－	口縁部	黒	にぶい黄褐	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	XIII	
	296	A－4	Ⅱ	口縁部	黒	暗灰黄	○	○			良	ミガキ	ミガキ	XIII	
	297	E－い	Ⅱ	口縁部	黒褐	にぶい黄橙	○	○			良	ミガキ	ミガキ	XIII	
	298	E－あ	Ⅱ	口縁～胴部	黄灰	にぶい黄	○	○	○		良	ミガキ	ナデ	XIII	
	299	B－5	Ⅱ	口縁部	黒褐	黒褐	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	XIII	
	300	B－3	Ⅱ	口縁部	にぶい黄褐	黒褐	○	○			良	ミガキ	ミガキ	XIII	
	301	E－あ・い,F－1	Ⅱ	胴部	にぶい黄橙	にぶい黄褐	○	○			良	ミガキ	ミガキ	XIII	
	302	F－1	Ⅱ	胴部	灰黄	黒褐	○	○			良	ミガキ	ミガキ	XIII	
	303	D－お	Ⅱ	胴部	黒	褐灰	○				良	ミガキ	ミガキ	XIII	
	304	D－え	Ⅱ	口縁部	黒褐	黒	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	XIII	
	305	B－4	Ⅱ	胴部	黒褐	黒	○	○			良	ミガキ	ミガキ	XIII	
	306	E－あ	Ⅱ	胴部	にぶい黄	にぶい黄褐	○	○			良	ミガキ後ナデ	ミガキ	XIII	外面煤付着
	307	E－あ	Ⅱ	胴部	灰黄褐	にぶい黄	○	○			良	ミガキ	ミガキ	XIII	
	308	F－あ	Ⅱ	口縁部	黒褐	黒	○	○			良	ミガキ	ミガキ	XIII	
第42図	309	D－お	Ⅱ	胴部	にぶい黄褐	にぶい褐	○	○			良	ミガキ	ミガキ	XIII	
	310	F－あ	Ⅱ	胴部	褐	灰黄褐	○	○		赤小石	良	条痕,ナデ	ナデ	XIII	
	311	B－4	Ⅱ	胴部	黒褐	暗褐	○	○			良	ミガキ	ミガキ	XIII	
	312	B－3	Ⅱ	胴部	黒褐	黒褐	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	XIII	外面煤付着
	313	F－1	Ⅱ	胴～底部	黒	黒褐	○	○			良	ミガキ	ミガキ	XIII	
	314	D－え	Ⅱ	胴部	黒褐	暗灰黄	○	○			良	ナデ	ナデ	XIII	
	315	B－3	Ⅱ	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄褐	○	○			良	ミガキ	ミガキ	XIII	
	316	A－3	Ⅱ	口縁部	にぶい黄橙	にぶい黄褐	○	○			良	ミガキ	ミガキ	XIII	
	317	A－3	Ⅱ	口縁部	にぶい黄褐	黒褐	○	○			良	ミガキ	ミガキ	XIII	
	318	B－2	Ⅱ	口縁部	暗褐	黒褐		○			良	ミガキ	ミガキ	XIII	
	319	E－あ	Ⅱ	口縁部	黒褐	黒褐	○	○			良	ミガキ	ミガキ	XIII	
	320	A－3	Ⅱ	口縁部	黒褐	黒褐	○	○			良	ミガキ	ミガキ	XIII	
	321	E－あ	Ⅱ	胴部	暗灰黄	にぶい黄	○	○	○		良	ミガキ	ミガキ	XIII	
	322	K－14	Ⅱ	口縁～胴部	にぶい黄	にぶい黄褐	○	○			良	ミガキ	ミガキ	XIII	
	323	B－2	Ⅱ	口縁部	黄灰	灰黄	○	○			良	ミガキ	ミガキ	XIII	
	324	F－1	Ⅱ	口縁～胴部	黒褐	黒	○	○			良	ミガキ	ミガキ	XIII	
	325	B－4	Ⅱ	口縁部	黒	黒	○	○			良	ミガキ	ミガキ	XIII	
	326	H－え	Ⅱ	口縁部	黒	黄灰		○			良	ミガキ	ミガキ	XIII	
	327	F－あ	Ⅱ	口縁部	黒褐	灰黄褐	○	○			良	ミガキ	ミガキ	XIII	
	328	E－あ	Ⅱ	胴部	にぶい黄褐	にぶい黄褐	○	○			良	ミガキ	ミガキ	XIII	
	329	F－1	Ⅱ	口縁部	明黄褐	黄褐	○	○			良	ミガキ	ミガキ	XIII	
	330	E・F－1	Ⅱ	口縁部	明赤褐	橙	○	○			良	ミガキ	ミガキ	XIII	



第41図　XIII類土器（2）



第42図　XIII類土器（3）

②石器（第43図～第50図　331～407）

縄文時代晩期の石器は，石鏃・石匕・ドリル・くさび形石器・管玉・スクレイパー・打製石斧・磨製石斧・磨石・敲石・耳飾・石皿等が出土した。

石鏃（第43・44図　331～365）

石鏃は，35点出土している。素材は，黒曜石14点，頁岩５点，チャート６点，安山岩５点，瑪瑙１点，凝灰岩１点，ホルンフェルス１点，鉄石英１点，玉随１点である。その内，黒曜石は，肉眼観察によると西北九州系（腰岳10点，針尾３点）が多く13点，他は上牛鼻産１点である。また，頁岩と安山岩の素材判定材料の一つに帯磁率計も用いた。

形態は，本報告書P21の石鏃分類図をもとに分類した。Aabが最も多く13点，他はAaa２点，Aac５点，Aad３点，Aba１点，Abb５点，Abc１点，Bab１点，Ba-２点，Cab１点，Cad１点である。

石鏃は打製で，ほとんどのものが入念な交互剥離により調整されている。欠損していると思われるものは，21点である。先端のみ欠損しているものは８点，基端の片方のみ欠損しているものは４点，基端の両方とも欠損しているものは２点，先端と基端の片方のみ欠損しているものは５点，先端と基端の両方とも欠損しているものは１点，基部が欠損しているものは１点である。

くさび形石器（第44図　366）

366は，水晶製のくさび形石器である。両端に剥離及びつぶれの痕跡が認められる。

石匕（第44図　367）

367は頁岩の横長剥片を素材とする小型の石匕である。全体に両面からていねいで細かな交互剥離が施されており，裏面には節理面を残している。

ドリル（第45図　368）

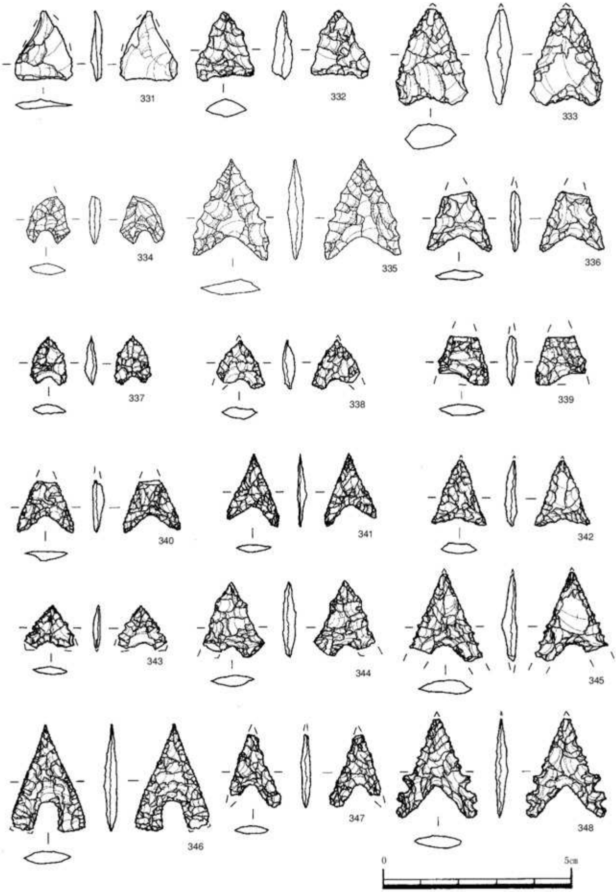
368は頁岩製のドリルであり，本遺跡からの出土は，１点のみである。入念な交互剥離が施されて先端部を形成している。

スクレイパー（第45・46図　369～375）

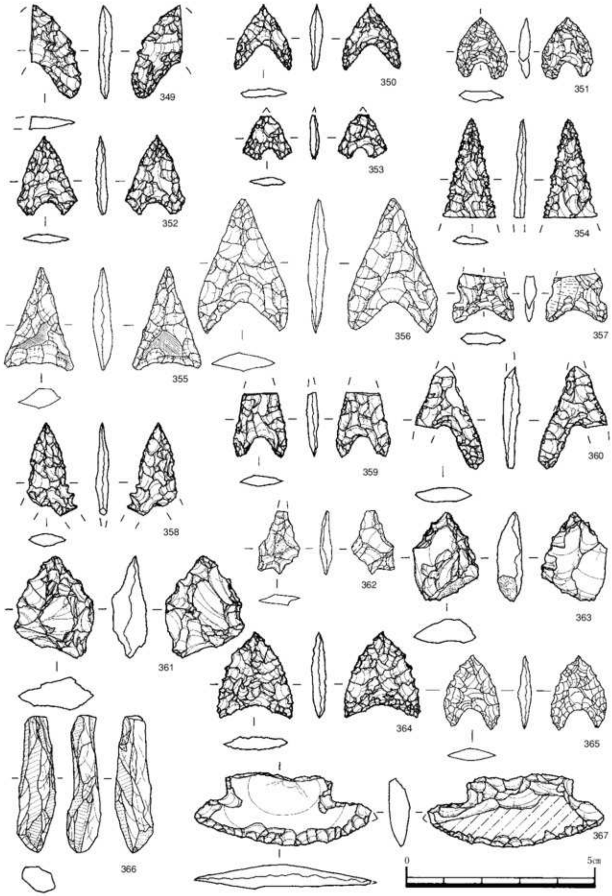
晩期のスクレイパーは，７点出土している。369は頁岩製の横型のスクレイパーである。両面から細かな交互剥離が施され，細かな段をつけて刃部を形成している。370は頁岩製で，裏面に自然面を残し，両面から細かな交互剥離が施され，細かな段をつけて刃部を形成している。371は頁岩製の横型のスクレイパーである。表裏面とも大剥離面を残し，両面から細かな交互剥離が施され，細かな段をつけて刃部を形成している。372は砂岩製の横型のスクレイパーである。表面に自然面を裏面に大剥離面を残し，両面から細かな交互剥離が施され，細かな段をつけて刃部を形成している。373は，頁岩製の縦長剥片を素材としている。右側面に両面から細かな交互剥離が施され，細かな段をつけて刃部を形成している。374は，頁岩製の横長剥片を素材としている。左側面に両面から交互剥離が施されて刃部を形成している。375は，粘板岩製の横長剥片を素材としており，多くの鉄分が付着していた。表面に自然面を残し，両側面に刃部を形成している。

磨製石斧（第46図　376～379）

磨製石斧は，縄文時代晩期は，４点出土している。376がホルンフエルス製で，それ以外は頁岩製である。376は，敲打痕が見られる。377は，刃部付近しか残存していないが，短冊状に剥片をとり，全面に入念な研磨を施したと思われる。378は，基部のみ残存していたが，裏面は全面にわたり欠損している。側縁部に敲打調整が施され，わずかに抉りが見られる。379は，表面のほぼ全面にわたって研磨が施され，比較的粗雑な刃部が形成されている。



第43図　縄文時代晩期　石器１



第44図　縄文時代晩期　石器 2

打製石斧（第46図　380～384）

打製石斧は，縄文時代晩期は，5点出土しており，全部頁岩製である。380は，有肩の打製石斧で，基部より刃部の方が長いものである。381は，両面からやや粗雑な交互剥離が施されて刃部を形成している。刃部に使用による磨耗が見られる。382は，有肩の打製石斧の欠損品と思われる。383は，薄手で両面から交互剥離が施されて刃部を形成している。刃部に使用による磨耗が見られる。384は，両面に自然面を残し，一部刃部が欠損しているが，入念な交互剥離が施されている。

磨石・敲石（第47・48図　385～403）

全て砂岩製の磨石・敲石である。385～397は，磨石だけの機能を持つものである。398～402は，磨石・敲石の機能をあわせ持つものである。403は敲石である。縦長のばち状の形をしており，頭部・底部に敲打痕が見られる。本遺跡では，明確に凹石の機能をあわせ持つ磨石等は，見つからなかった。

石皿（第49図　404・405）

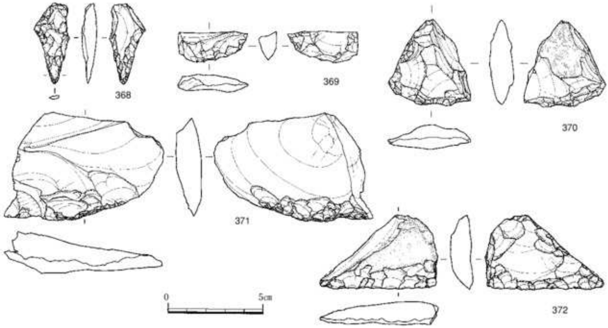
2点とも砂岩製の石皿である。404は表面にのみ作業面を，405は両面に作業面を有するものである。

玦状耳飾り（第50図　406）

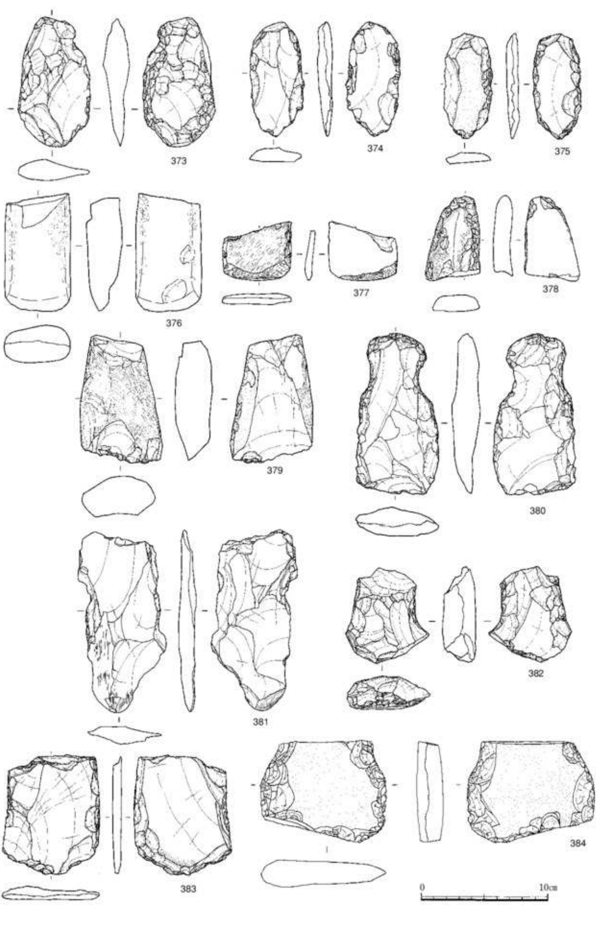
装飾品の玦状耳飾りと考えられる。軟玉製で欠損品であるが，直径5.7cmの円状の形に直径0.9cmの孔があいている。全面にていねいな研磨が施されている。玦状耳飾りは，農業センター遺跡群では，大門口遺跡と本遺跡の2点のみ出土している。

管玉（第50図　407）

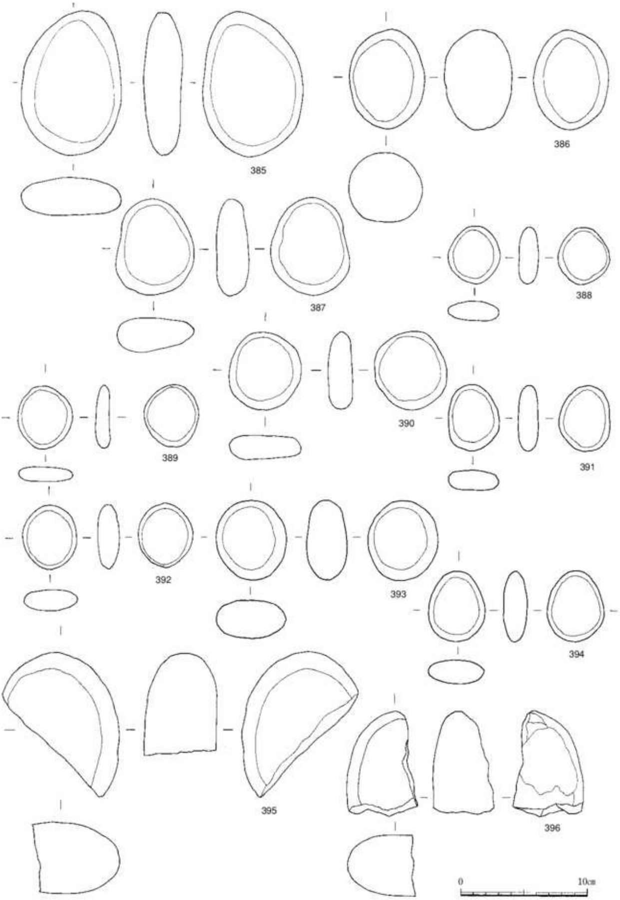
407は，結晶片岩様緑色岩製の管玉である。0.3cmの孔があいている。隣接する諏訪前遺跡からも出土している。



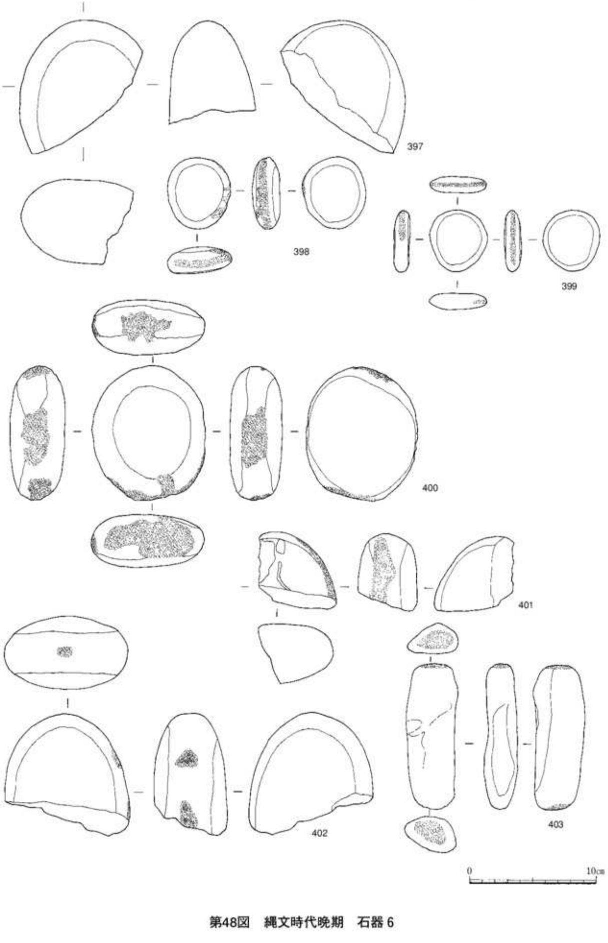
第45図　縄文時代晩期　石器3



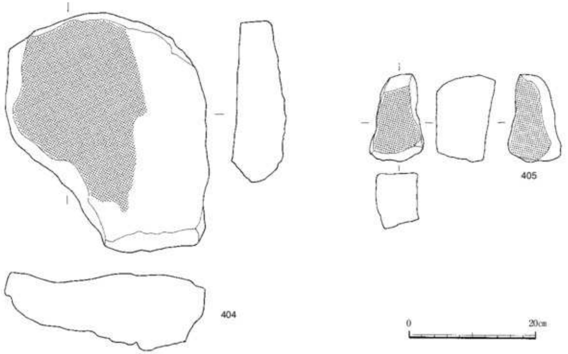
第46図　縄文時代晩期　石器 4



第47図　縄文時代晩期　石器５



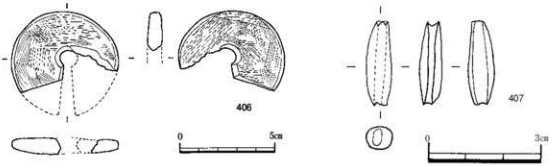
第48図　縄文時代晩期　石器 6



第49図　縄文時代晩期　石器 7

縄文時代晩期石器観察表 1 （石鏃）

挿図番号	遺物番号	器種	出土区	層	石材	長（残存）cm	幅（残存）cm	厚さ cm	重さ g	長幅比	形状	長幅比	基部	備考（欠損部）
第43図	331	石鏃	B－4	Ⅲ	安山岩	1.80	1.50	0.30	0.60	1.20	A	a	a	なし
	332	石鏃	E－あ	Ⅲ	頁岩	1.80	1.60	0.50	1.00	1.13	A	a	a	なし
	333	石鏃	E－あ	Ⅲ	チャート	2.60	1.90	0.70	2.50	1.37	A	a	b	先端
	334	石鏃	B－2	Ⅲ	黒曜石（腰岳）	1.30	1.15	0.30	0.31	1.13	A	a	b	先端
	335	石鏃	M－9	Ⅲ	黒曜石（針尾）	2.70	2.00	0.40	1.30	1.35	A	a	b	なし
	336	石鏃	D－2	Ⅲ	頁岩	1.60	1.70	0.30	0.70	0.94	A	a	b	先端
	337	石鏃	B－4	Ⅲ	黒曜石（腰岳）	1.30	1.00	0.30	0.30	1.30	A	a	b	基端の片方
	338	石鏃	－	Ⅲ	黒曜石（腰岳）	1.30	1.30	0.30	0.40	1.00	A	a	b	基端の片方
	339	石鏃	－	－	黒曜石（腰岳）	1.30	1.40	0.30	0.50	0.93	A	a	b	先端,基端の片方
	340	石鏃	－	Ⅲ	黒曜石（腰岳）	1.40	1.50	0.30	0.40	0.93	A	a	b	先端
	341	石鏃	－	－	黒曜石（腰岳）	1.90	1.40	0.30	0.30	1.36	A	a	b	なし
	342	石鏃	B－7	Ⅱ	頁岩	1.70	1.50	0.40	0.60	1.13	A	a	b	なし
	343	石鏃	－	Ⅲ	黒曜石（針尾）	1.20	1.30	0.20	0.30	0.92	A	a	b	基端の両方
	344	石鏃	A－4	Ⅲ	黒曜石（腰岳）	2.00	1.70	0.40	0.80	1.18	A	a	b	基端の片方
	345	石鏃	F－1	Ⅲ	ホルンフェルス	2.30	1.90	9.40	1.10	1.21	A	a	b	先端,基端の両方
	346	石鏃	－	Ⅲ	黒曜石（腰岳）	2.80	1.90	0.40	1.10	1.47	A	a	c	基端の片方
	347	石鏃	D－あ	Ⅲ	チャート	1.90	1.40	0.30	0.50	1.36	A	a	c	先端,基端の片方
	348	石鏃	－	Ⅲ	黒曜石（針尾）	2.60	2.20	0.40	0.40	1.18	A	a	c	先端
第44図	349	石鏃	－	－	黒曜石（腰岳）	2.50	1.40	0.40	0.80	1.79	A	a	c	基端の片方
	350	石鏃	E－い	Ⅲ	安山岩	1.70	1.60	0.30	0.60	1.06	A	a	c	なし
	351	石鏃	B－3	Ⅲ	チャート	1.65	1.35	0.35	0.59	1.22	A	a	d	なし
	352	石鏃	－	Ⅲ	チャート	2.10	1.60	0.30	0.80	1.31	A	a	d	なし
	353	石鏃	E－1	Ⅲ	チャート	1.20	1.30	0.20	0.30	0.92	A	a	d	先端
	354	石鏃	G－1	Ⅲ	黒曜石（腰岳）	2.60	1.40	0.30	0.90	1.86	A	b	－	基部
	355	石鏃	D－う	Ⅱ	安山岩	2.75	1.80	0.50	1.56	1.53	A	b	b	なし
	356	石鏃	J－え	Ⅲ	安山岩	3.55	2.30	0.45	2.42	1.54	A	b	b	なし
	357	石鏃	B－4	Ⅲ	頁岩	1.30	1.65	0.30	0.61	0.79	A	b	b	先端
	358	石鏃	I－2	Ⅲ	安山岩	2.50	1.40	0.30	0.80	1.79	A	b	b	基端の両方
	359	石鏃	E－い	Ⅲ	頁岩	1.70	1.40	0.30	0.70	1.21	A	b	b	先端
	360	石鏃	D－あ	Ⅲ	チャート	2.70	1.80	0.50	1.10	1.50	A	b	c	先端,基端の片方
	361	石鏃	D－あ	Ⅲ	玉髄	2.70	2.10	1.00	4.40	1.29	B	a	－	なし
	362	石鏃	O－10	Ⅲ	瑪瑙	1.70	1.10	0.35	0.44	1.55	B	a	b	先端,基端の片方
	363	石鏃	B－4	Ⅲ	鉄石英	2.40	1.80	0.70	2.70	1.33	B	a	－	なし
	364	石鏃	P－2	Ⅲ	黒曜石（上牛鼻）	2.30	2.00	0.40	1.50	1.15	C	a	b	なし
	365	石鏃	B－3	Ⅲ	凝灰岩	1.95	1.40	0.35	0.66	1.39	C	a	d	なし



第50図　縄文時代晩期　石器8（垂飾品）

縄文時代晩期石器観察表2

挿図番号	遺物番号	器種	出土区	層	石材	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ g	備考
第44図	366	くさび形石器	P－1	Ⅲ	水晶	3.60	0.90	0.60	3.08	
	367	石ヒ	A－2	Ⅲ	頁岩	2.00	4.70	0.60	4.80	
第45図	368	ドリル	I－え	Ⅲ	頁岩	4.20	1.80	0.80	5.16	
	369	スクレイパー	E－あ	Ⅲ	頁岩	1.60	3.60	0.90	5.35	
	370	スクレイパー	－	Ⅲ	頁岩	4.55	4.25	1.30	19.47	
	371	スクレイパー	D－お	Ⅲ	頁岩	5.15	8.30	2.20	78.33	
	372	スクレイパー	D－お	Ⅲ	砂岩	4.00	6.30	1.30	27.10	
第46図	373	スクレイパー	B－3	Ⅲ	頁岩	10.00	5.50	2.10	114.58	
	374	スクレイパー	N－6	Ⅰ	頁岩	8.90	4.10	1.20	49.37	
	375	スクレイパー	E－あ	Ⅲ	頁岩	8.30	3.70	0.90	34.46	
	376	磨製石斧	－	Ⅲ	ホルンフェルス	9.00	5.10	2.90	236.01	
	377	磨製石斧	G－か	Ⅲ	頁岩	4.20	5.40	0.90	22.35	
	378	磨製石斧	F－か	Ⅲ	頁岩	6.30	4.20	1.30	57.01	
	379	磨製石斧	E－1	Ⅲ	頁岩	9.40	6.40	2.90	273.29	
	380	打製石斧	－	－	頁岩	12.50	6.40	2.30	191.69	
	381	打製石斧	F－1	Ⅲ	頁岩	14.20	6.10	1.30	111.63	
	382	打製石斧	E－あ	Ⅲ	頁岩	7.50	6.40	2.50	137.77	
	383	打製石斧	B－3	Ⅲ	頁岩	9.10	7.30	1.00	77.27	
	384	打製石斧	E－あ	Ⅲ	頁岩	7.90	9.80	2.10	254.67	
第47図	385	磨石	G－え	Ⅲ	砂岩	11.30	7.90	3.00	378.00	
	386	磨石	O－6	Ⅲ	砂岩	7.50	5.90	5.30	288.00	
	387	磨石	B－3	Ⅰ	砂岩	7.60	6.15	2.60	156.50	
	388	磨石	B－2	Ⅲ	砂岩	4.50	4.10	1.50	37.00	
	389	磨石	B－2	Ⅲ	砂岩	4.90	4.25	1.10	34.00	
	390	磨石	A－2	Ⅲ	砂岩	6.15	5.50	1.85	105.00	
	391	磨石	B－2	Ⅲ	砂岩	5.20	4.00	1.50	50.00	
	392	磨石	B－2	Ⅲ	砂岩	5.10	4.20	1.70	50.50	
	393	磨石	A－2	Ⅲ	砂岩	6.30	5.50	3.00	152.50	
	394	磨石	B－2	Ⅲ	砂岩	5.60	4.45	1.85	63.00	
	395	磨石	D－1	Ⅲ	砂岩	9.40	8.50	5.60	656.00	欠損
	396	磨石	I－お	Ⅲ	砂岩	8.10	5.50	4.80	289.50	欠損
第48図	397	磨石	C－う	Ⅲ	砂岩	9.10	8.80	6.60	741.50	欠損
	398	磨石・敲石	B－3	Ⅲ	砂岩	5.65	5.00	2.10	83.00	
	399	磨石・敲石	D－お	Ⅲ	砂岩	4.90	4.45	1.30	43.00	
	400	磨石・敲石	N－2	Ⅲ	砂岩	10.60	9.95	4.20	585.50	
	401	磨石・敲石	C－2	Ⅲ	砂岩	5.50	6.00	4.70	189.00	欠損
	402	磨石・敲石	D－あ	Ⅲ	砂岩	8.40	9.70	5.70	668.50	欠損
	403	敲石	－	－	砂岩	21.70	3.80	2.70	164.50	
第49図	404	石皿	－	－	砂岩	36.70	31.40	12.00	15800.00	
	405	石皿	C－3	Ⅰ	砂岩	13.70	8.70	8.10	1481.50	
第50図	406	耳飾	O－6	Ⅲ	軟玉	5.7（径）		0.90	22.81	
	407	管玉	N－2	Ⅲ	結晶片岩様緑色岩	2.20	0.70	0.60	1.23	

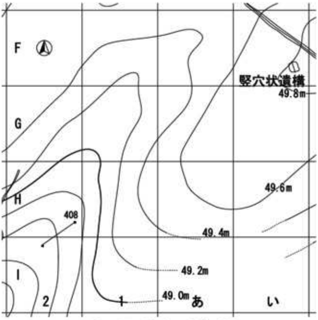
第４節　弥生・古墳時代の調査

弥生・古墳時代の遺物包含層は，削平されているため遺物はほとんど出土しなかった。遺構も，Ⅲ層上面において弥生時代と思われる竪穴状遺構が１軒検出されたのみであった。

１　遺構（第51・52図）

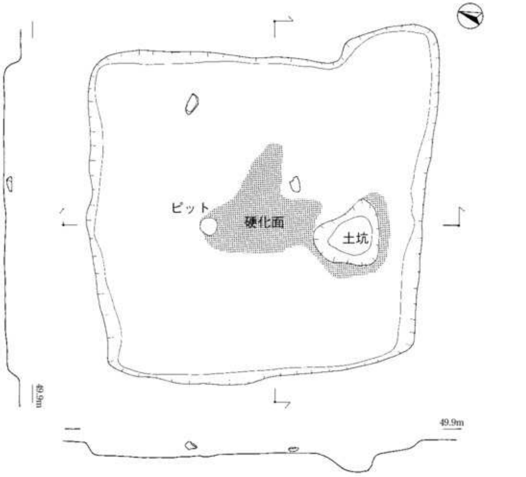
（１）竪穴状遺構（方形土坑）

Fーい区から検出された。約2.6ｍ×2.5ｍの略方形プランである。検出面からの掘り込みも約12㎝と浅く，遺構内に礫が数点検出されただけで遺物もほとんど出土しなかった。そのため，性格及び時期判断が難しかった。遺構内の埋土は，縄文時代晩期の埋土に似たうすい黒褐色土。炭化物は検出されなかった。中央付近に硬化面が広がる。遺構内に浅いピット１個と土坑１基検出されたが，竪穴状遺構と関連があるかは不明。土坑の埋土は，黒色が強い。



第51図　弥生・古墳時代
遺坑配置図及び出土状況図
（1グリッド：20m）

（１）遺構



第52図　弥生・古墳時代　竪穴状遺構

2 遺物（第53図）

弥生時代のものと思われる土器2点，古墳時代のものと思われる土器３点が出土した。石器も石包丁が１点出土した。

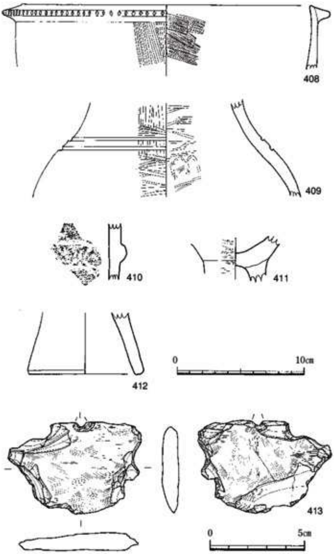
（1） 土器

408は，弥生時代前期のものと思われる壺形土器の「逆L」字状を呈する口縁部である。口唇部にはヘラ状工具による縦位の刻み目が施されている。409は，弥生時代前期のものと思われる壺形土器の頸～胴部である。頸部には，沈線が２条施されている。

410～412は，古墳時代のものと思われる。410は，刻み目突帯を巡らしている甕形土器の胴部である。411，412は，甕形土器の脚部である。411は，竪穴状遺構の上部で検出されたが，流れ込みと思われ，遺構との関連性はないと判断した。

（2） 石器

413は，頁岩製の石包丁である。刃部は湾曲し片端に紐掛用と思われる抉りが見られる。



第53図　弥生・古墳時代　土器・石器

弥生・古墳時代土器観察表

挿図番号	番号	出土区	層位	部位	色調		胎土				焼成	外面	内面	備考
					内	外	石英	長石	角閃石	その他				
第53図	408	H･I－2	Ⅱ	口縁部	にぶい黄褐	橙	○	○	○		良	ハケ目,刻目突帯	板ナデ	
	409	H－2	Ⅱ	胴部	暗褐	暗赤褐	○	○			良	ヘラミガキ,沈線文	指頭押圧,ミガキ後ナデ	
	410	－	Ⅱ	胴部	浅黄橙	橙	○	○			良	ナデ,突帯	ナデ	
	411	F－い	－	脚部	黒	にぶい赤褐	○	○	○	金雲母	良	ナデ	ナデ	
	412	－	Ⅱ	脚部	赤橙	にぶい黄橙	○	○	○		良	ナデ	ナデ	

弥生・古墳時代石器観察表

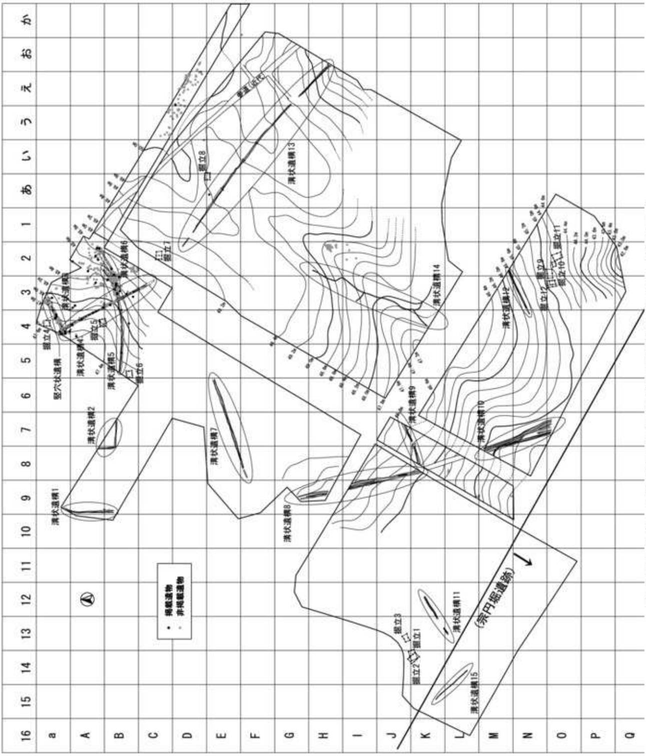
挿図	番号	器種	出土区	石材	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ g	備考
第53図	413	石包丁	E～H－4～6	頁岩	4.80	6.80	0.90	38.44	

第５節　古代・中世の調査

古代・中世については，時代の判別が難しい遺構があったため，まとめて取扱うこととしたが，時代が分かるものについては文章中に明記した。

遺構は，掘立柱建物跡，溝状遺構，竪穴状遺構が検出された。

遺物は，土師器・須恵器・青磁・白磁・瓦質土器・鉄滓等が出土している。



第54図　古代・中世遺構配置図及び出土状況図（1グリッド：20m）

（1）遺構

① 掘立柱建物跡

古代～中世の掘立柱建物跡は，12棟が検出された。この中で，1棟が庇付である。柱穴，桁行柱間などは観察表で示した。諏訪脇遺跡だけでなく農業開発総合センター遺跡群内の各遺跡で多くみられる。大きさ・柱間・形状等に統一性はみられないが，主軸が東西方向の棟が多くみられた。

掘立柱建物跡1号（第55図）

J・K－13・14区で検出された。主軸を東西にとる2間×2間の建物跡である。掘立柱建物跡2号と切り合っている。ピット1と7の間にピットと考えられるものは検出できなかった。遺物は出土していない。

掘立柱建物跡2号（第55図）

J・K－14区で検出された。主軸を東西にとる1間×3間の建物跡である。棟部の床面積が12棟のうち最大の推定19.90㎡である。掘立柱建物跡1号と切り合っている。ピット5と6は，後世に削平されていたが，存在していたと考えられる。遺物は出土していない。

掘立柱建物跡3号（第56図）

J－13区で検出された。主軸を東西にとる1間×2間の建物跡である。遺物は出土していない。

掘立柱建物跡4号（第56図）

a－4区で検出された。平面プランが方形に近い2間×2間の建物跡である。ピット1と7の間にピットと考えられるものは検出できなかった。遺物は出土していない。

掘立柱建物跡5号（第57図）

A・B－4区で検出された。主軸を東西にとる2間×3間の建物跡である。遺物は出土していない。ピットの埋土は，黒色土で，時代は中世と考えられる。図面化することはできなかったが，南面に庇の可能性が考えられるピットも検出した。

掘立柱建物跡6号（第57図）

B－5区で検出された。主軸を東西にとる2間×3間の建物跡である。遺物は出土していない。

掘立柱建物跡7号（第58図）

C－2区で検出された。主軸を東西にとる2間×2間の建物跡である。ピット2の埋土から古代に相当する土師器の甕の胴部と思われる土器片414が出土した。ピット3の底からは，少量だが，炭化物が検出された。

掘立柱建物跡8号（第58図）

D・E－あ・い区で検出された。主軸を東西にとる2間×3間の建物跡である。遺物は出土していない。

掘立柱建物跡9号（第59図）

O－2・3区で検出された。主軸を東西にとる1間×2間の建物跡である。遺物は出土していない。ピットの埋土は，黒色土で，時代は中世と考えられる。

掘立柱建物跡10号（第59図）

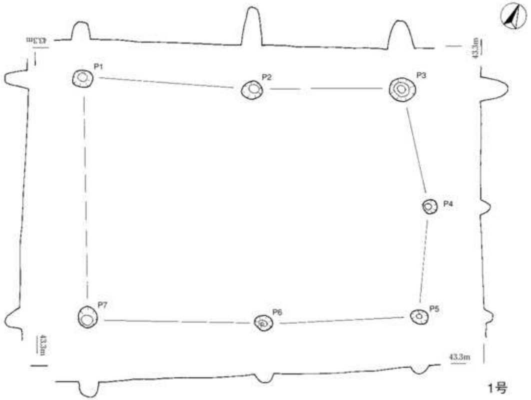
O－2区で検出された。平面プランが方形に近い1間×2間の建物跡である。遺物は出土していない。ピットの埋土は，黒色土で，時代は中世と考えられる。

掘立柱建物跡11号（第60図）

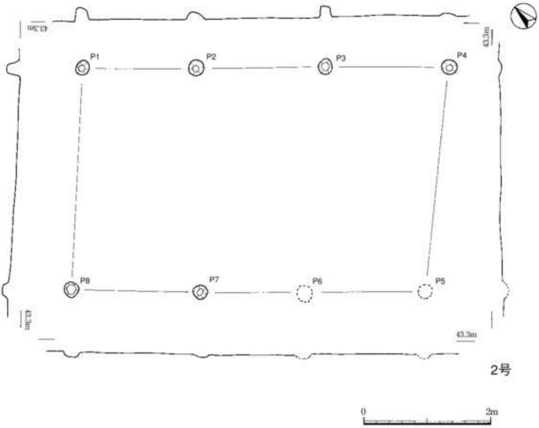
O－2区で検出された。主軸を東西にとる2間×3間の建物跡である。遺物は出土していない。ピットの埋土は，黒色土で，時代は中世と考えられる。

掘立柱建物跡12号（第60図）

O－3区で検出された。主軸を東西にとる1間×2間の建物跡である。北面と西面の2方で庇が確認された。遺物は出土していない。ピットの埋土は，黒色土で，時代は中世と考えられる。

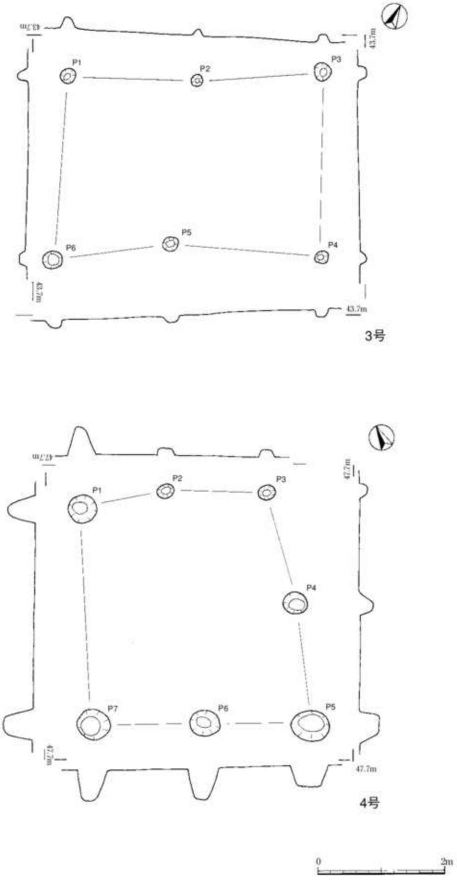


1号

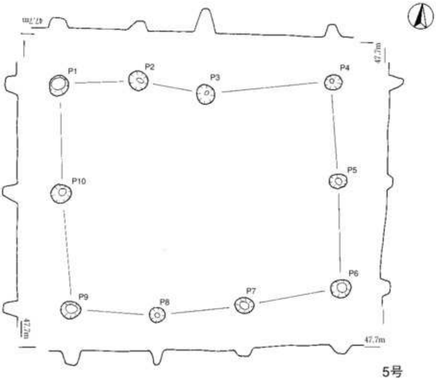


2号

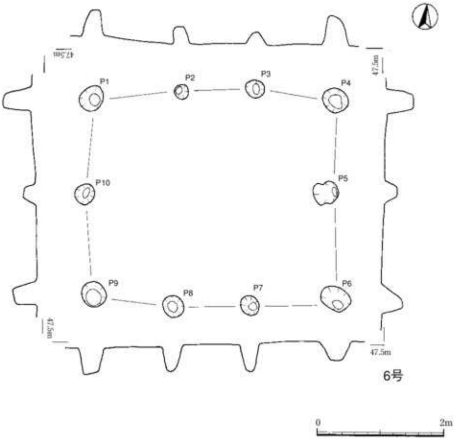
第55図　古代・中世　掘立柱建物跡 1



第56図　古代・中世　掘立柱建物跡 2

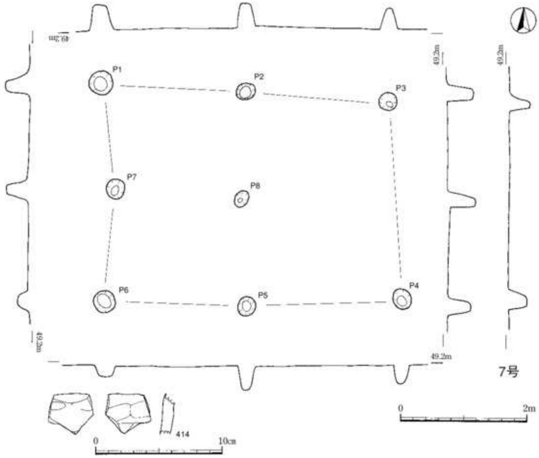


5号



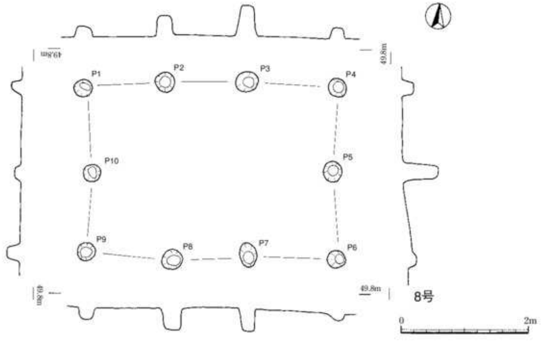
6号

第57図　古代・中世　掘立柱建物跡 3

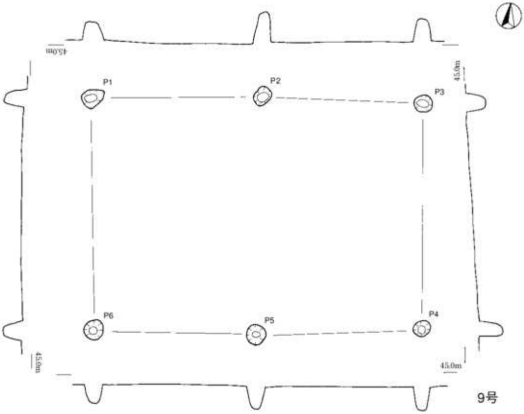


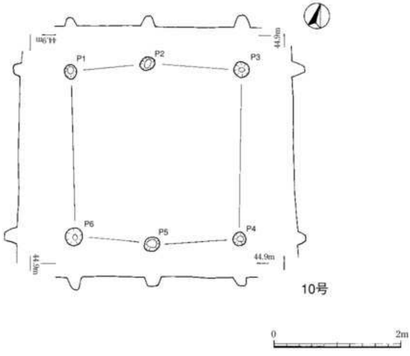
古代・中世　掘立柱建物跡　ピット内遺物観察表

挿図番号	番号	器種	出土区	遺構	部位	色調		胎土				焼成	外面	内面	備考
						内	外	石英	長石	角閃石	その他				
第58図	414	甕	C-2	7号掘立柱建物跡ピット2内	胴部	黒褐	明赤褐	○	○	○		良	ナデ	ヘラケズリ	古代

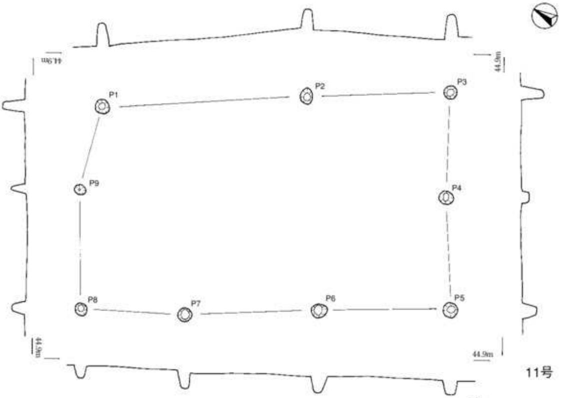


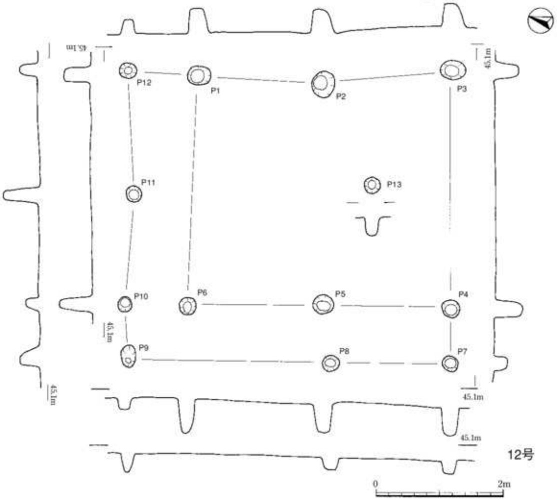
第58図　古代・中世　掘立柱建物跡４及び出土遺物





第59図　古代・中世　掘立柱建物跡５





第60図　古代・中世　掘立柱建物跡6

掘立柱建物跡観察表 1

掘立柱建物跡		柱穴番号	梁間柱間 (cm)	梁間 (cm)	柱穴番号	桁行柱間 (cm)	桁行 (cm)	Pit	深さ (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	掘り方	床面積 (㎡)	備考
1号 2間×2間	棟部	P1−P7	−	385	P1−P2	267	500	1	26	31	29	円	19.10	
		P3−P4	192		P2−P3	233		2	61	33	30	円		
		P4−P5	175	362	P5−P6	247	523	3	44	40	39	円		
					P6−P7	277		4	17	25	23	円		
								5	14	30	22	楕円		
								6	16	30	25	楕円		
								7	25	35	30	楕円		
		平　均	183.5	373.5		256	511.5		29	32	28.30			
2号 1間×3間	棟部	P1−P8	−	350	P1−P2	180		1	21	24	20	楕円	19.90	
		(P4−P5)	−	352	P2−P3	202	577	2	14	27	26	円		
					P3−P4	195		3	17	26	22	楕円		
					(P5−P6)	190		4	5	25	25	円		
					(P6−P7)	163	557	5	−	−	−	−		
					P7−P8	205		6	−	−	−	−		
								7	5	23	23	円		
								8	10	25	24	円		
		平　均	−	351		189.2	567		12	25	23.3			
3号 1間×2間	棟部	P1−P6	−	290	P1−P2	205	402	1	20	25	24	円	11.92	
		P3−P4	−	290	P2−P3	197		2	10	19	19	円		
					P4−P5	187	420	3	14	30	27	円		
					P5−P6	235		4	14	22	21	円		
								5	11	25	24	円		
								6	14	30	28	円		
		平　均	−	290		206	411		13.8	25.2	23.8			
4号 2間×2間	棟部	P1−P7	−	345	P1−P2	140	296	1	45	45	40	楕円	11.48	
		P3−P4	182		P2−P3	158		2	11	26	21	楕円		
		P4−P5	189	370	P5−P6	169	346	3	14	25	24	円		
					P6−P7	178		4	21	39	35	楕円		
								5	32	61	47	楕円		
								6	49	49	41	楕円		
								7	50	51	49	円		
		平　均	185.5	357.5		161.3	321		31.7	42.3	36.7			
5号 2間×3間	棟部	P1−P10	171	355	P1−P2	128		1	16	34	31	円	14.53	
		P10−P9	184		P2−P3	105	427	2	15	33	29	楕円		
		P4−P5	159	327	P3−P4	197		3	39	31	30	円		
		P5−P6	168		P6−P7	155		4	21	25	25	円		
					P7−P8	138	425	5	9	29	24	楕円		
					P8−P9	135		6	15	34	30	楕円		
								7	15	27	25	円		
								8	25	25	24	円		
								9	25	32	27	楕円		
								10	23	33	30	円		
		平　均	170.5	341		143	426		20.3	30.3	27.5			
6号 2間×3間	棟部	P1−P10	148	311	P1−P2	130		1	42	42	33	楕円	12.14	
		P10−P9	165		P2−P3	125	380	2	29	25	22	円		
		P4−P5	145	323	P3−P4	127		3	20	30	28	円		
		P5−P6	180		P6−P7	135		4	45	43	40	円		
					P7−P8	125	386	5	20	40	34	楕円		
					P8−P9	128		6	34	45	31	楕円		
								7	43	32	27	楕円		
								8	42	35	32	円		
								9	43	41	40	円		
								10	19	35	30	楕円		
		平　均	159.5	317		128.3	383		33.7	36.8	31.7			
7号 2間×2間	棟部	P1−P7	170		P1−P2	228	455	1	43	38	38	円	15.03	
		P7−P6	174	341	P2−P3	227		2	39	31	26	楕円		土器片
		P3−P4	−	313	P4−P5	243	464	3	35	29	29	円		炭化物
					P5−P6	221		4	28	35	28	楕円		
								5	37	32	28	楕円		
								6	17	34	35	円		
								7	34	33	29	楕円		
								8	42	30	21	楕円		
		平　均	172	327		229.8	459.5		34.4	32.8	29.3			

掘立柱建物跡観察表 2

掘立柱建物跡		柱穴番号	梁間柱間 (cm)	梁間 (cm)	柱穴番号	桁行柱間 (cm)	桁行 (cm)	Pit	深さ (cm)	長径 (cm)	短径 (cm)	掘り方	床面積 (㎡)	備考
		P1−P10	135		P1−P2	125		1	17	30	28	円		
		P10−P9	128	263	P2−P3	132	397	2	33	35	30	楕円		
		P4−P5	132		P3−P4	140		3	50	37	32	楕円		
		P5−P6	140	272	P6−P7	142		4	18	30	25	楕円		
					P7−P8	118	396	5	55	34	30	楕円		
8号 2間×3間	棟部				P8−P9	139		6	10	29	28	円	10.61	
								7	37	38	27	楕円		
								8	34	34	32	円		
								9	18	30	29	円		
								10	10	28	27	円		
		平　均	133.8	267.5		132.7	396.5	＼	28.2	32.5	28.8			
		P1−P6	−	366	P1−P2	270	520	1	30	38	29	楕円		
		P3−P4	−	357	P2−P3	251		2	51	34	22	楕円		
					P4−P5	260	514	3	36	27	27	円		
9号 1間×2間	棟部				P5−P6	254		4	37	26	26	円	18.69	
								5	36	34	29	楕円		
								6	30	30	30	円		
		平　均	−	361.5		258.8	517	＼	36.7	31.5	27.2			
		P1−P6	−	264	P1−P2	122	270	1	14	24	19	楕円		
		P3−P4	−	266	P2−P3	149		2	17	24	21	円		
					P4−P5	140	260	3	20	25	24	円		
10号 1間×2間	棟部				P5−P6	121		4	13	22	21	円	7.02	
								5	14	26	23	円		
								6	19	26	25	円		
		平　均	−	265		133	265	＼	16.2	24.5	22.2			
		P1−P9	136		P1−P2	322	547	1	36	20	20	円		
		P9−P8	188	322	P2−P3	225		2	32	26	20	楕円		
		P3−P4	164		P5−P6	210		3	37	21	21	円		
		P4−P5	177	342	P6−P7	209	582	4	12	25	22	円		
11号 2間×3間	棟部				P7−P8	164		5	23	24	23	円	18.74	
								6	26	26	21	楕円		
								7	25	22	22	円		
								8	19	20	20	円		
								9	22	18	16	円		
		平　均	166.3	332		226	564.5	＼	25.8	22.4	20.6			
		P1−P6	−	357	P1−P2	195	400	1	41	35	28	楕円		
		P3−P4	−	379	P2−P3	207		2	37	41	36	楕円		
					P4−P5	200	414	3	38	37	30	楕円		
	棟部				P5−P6	215		4	44	29	29	円	14.98	
								5	44	31	31	円		
								6	52	29	26	円		
								13	25	27	25	円		
12号 1間×2間		平　均	−	368		204.3	407		40.1	32.7	29			
		P9−P10	90		P7−P8	188	505	7	21	24	24	円	総床面積 (㎡)	
		P10−P11	174		P8−P9	317		8	20	27	26	円		
		P11−P12	195	457				9	31	35	23	楕円		
	底部							10	20	25	24	円		
								11	55	26	26	円	23.08	
								12	24	26	24	円		
		平　均	153	457		252.5	505	＼	29	27.2	24.5			

②溝状遺構と竪穴状遺構（第61～73図）

諏訪脇遺跡における溝状遺構は，多数検出されたので，15のグループに分けてまとめた。また，竪穴状遺構1基が溝状遺構と切り合って検出された。

溝状遺構1～6は，層や出土遺物により，古代の遺構の可能性が高い。

溝状遺構や竪穴状遺構の埋土からは，鉄滓が出土しており，溝状遺構が鍛冶工房に水を流す為のものか等，今後の検討課題である。

溝状遺構1（第61図）

A・B－8区にかけて南北方向にほぼ直線状に検出された。長さ約31.5ｍ，幅約1.5～3.0ｍ，深さ約13～26㎝である。遺構内遺物は，検出されなかった。

溝状遺構1土層断面A

1	明茶褐色土（1～2㎜のパミスがごく少量見られる）
2	黒褐色土

土層断面B

1	明茶褐色土
2	黒褐色土

土層断面C

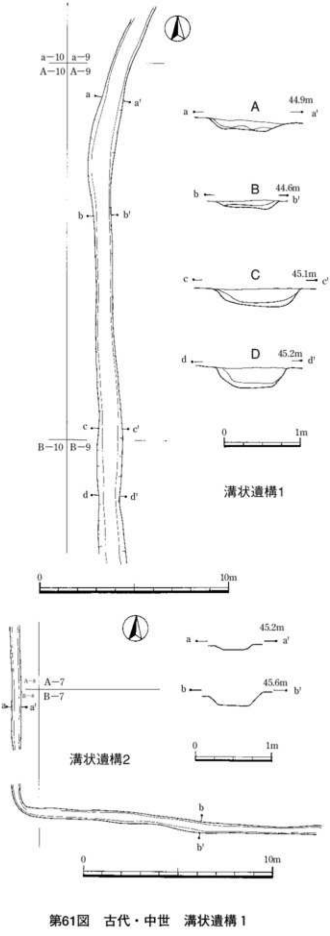
1	茶褐色土（1～2㎜のパミスがごく少量見られる）
2	明茶褐色土（下層のアカホヤがブロックで混ざったような感じ）

土層断面D

1	茶褐色土（1～2㎜のパミスがごく少量見られる）
2	明茶褐色土

溝状遺構2（第61図）

A－8区～B－7区にかけてほぼ直角にカーブして検出された。長さ約53ｍ，幅約0.9～1.3ｍ，深さ約5.5～15.2㎝である。遺構内遺物は，検出されなかった。



第61図　古代・中世　溝状遺構1

溝状遺構３（第62図）

a－３・４区にかけてほぼ直線状に検出された。長さ約22ｍ，幅約1.4～1.9ｍ，深さ約75～80㎝である。竪穴状遺構と切り合っている。時代は，切り合いの関係から竪穴状遺構の方が新しいと思われる。ａ－４区で，溝状遺構４とも切りあっている。遺構内遺物は，少なめであったが，土器は，須恵器，土師器，鉄滓などが出土した。中世の青磁も出土しているが，それ以外はほとんど古代の遺物であった。鉄滓は小さ目が多く，溝状遺構4で出土した鉄滓より古いと思われる。近隣に掘立柱建物跡4号が検出されている。

415～417は，須恵器の甕の胴部である。3点とも外面は格子目タタキ，内面は415と417が同心円タタキで，416が平行タタキが施されている。418～420は，土師器の甕の口縁部である。421は，13世紀中葉の青磁であり，口縁部はやや外反し，外面には鎬蓮弁を有するものである。博多でも同様のものが見受けられる。

溝状遺構４（第62図）

a－４区～C－３区にかけて北西～南東方向にほぼ直線状に検出された。長さ約58ｍ，幅約0.6～1.5ｍ，深さ約10～70㎝であるが，溝状遺構３と切りあっている所が深くなっており，落ち込みの可能性も考えられる。溝状遺構３とa－４区で切りあっているが，４の方がやや深い。遺構内遺物は，少なめであったが，遺物は，須恵器，土師器，瓦質土器，鉄滓などが出土した。鉄滓はやや大きめが多く，溝状遺構３で出土した鉄滓より新しいと思われる。

422～429は，須恵器の甕の胴部である。423・428は，内面が磨られており，硯に転用された可能性が考えられる。430は，内面が黒色の土師器椀の底部である。床面に近い層から出土した431は，胎土質から，身近な土を利用した瓦質土器と考えられる。熊本県荒尾市の樺番城窯跡に見られる中世須恵器（瓦器）に類似しており，13～14世紀のものと思われる。口縁部の注ぎ口と思われる部分や見込みの刷り目から擂鉢であることが分かるが，器形は当時の備前焼を模倣した感がある。

溝状遺構５（第62・63図）

B－５～２区にかけて東西方向にほぼ直線状に検出された。長さ約60ｍ，幅約0.5～1.6ｍ，深さ約10㎝（残存）である。B－３区で溝状遺構６と切り合っており，溝状遺構６の方が古い時期だと思われる。

溝状遺構６（第63図）

B－３・２区にかけて東西方向にほぼ直線状に検出された。長さ約13ｍ，幅約0.6～1.2ｍ，深さ約10㎝である。B－３区で溝状遺構５と切り合っており，溝状遺構５の方が新しい時期だと思われる。遺物は，須恵器，土師器，瓦質土器，鉄滓などが出土した。

432は，須恵器の甕の胴部である。433～438は，土師器である。433・434は，甕の口縁部である。口縁部から底部である435は，口径9.2㎝，底径7.8㎝を測る。底部の切り離しは糸切りによるものである。436～438は，内面が赤色の椀の底部である。436は，脚部分が磨滅している。439は，431と同じく胎土質から，身近な土を利用した瓦質土器と考えられる。口縁部の注ぎ口や見込みの刷り目から擂鉢であることが分かるが，器形は当時の備前焼を模倣した感がある。内面は，斜位及び横位の撫での後，右斜め上方に向けて１単位10条程の擂り目が施される。

古代・中世　溝状遺構内遺物観察表

挿図番号	番号	種別	器種	出土区	遺構	層位	部位	法量(㎝)			色調		胎土	焼成	外面	内面	備考
								口径	底径	高台高	内	外					
第65図	415	須恵器	甕	a－4	溝3	Ⅱ	胴部	－	－	－	暗灰黄	暗赤褐	精緻	良	格子目タタキ	同心円・平行タタキ	
	416	須恵器	甕	a－4		Ⅱ	胴部	－	－	－	灰オリーブ	灰	精緻	良	格子目タタキ	平行タタキ	
	417	須恵器	甕	a－4		Ⅱ	胴部	－	－	－	にぶい黄褐	黄褐	精緻	良	格子目タタキ	同心円タタキ	
	418	土師器	甕	B-3･4･5		－	口縁部	－	－	－	にぶい黄橙	にぶい褐	精緻	良	－	－	
	419	土師器	甕	a－4		Ⅱ	口縁部	28	－	－	浅黄橙	浅黄橙	精緻	良	－	－	
	420	土師器	甕	a-3･4		－	口縁部	－	－	－	明黄褐	明黄褐	精緻	良	－	－	
	421	青磁	碗	a－4		Ⅱ	口縁部	6.6	－	－	灰オリーブ	灰オリーブ	精緻	良	－	－	

溝状遺構 3　土層断面A

1	黒褐色土
2	淡黒褐色土（Ⅲ・Ⅳ層混入）
3	黒褐色土（Ⅲ・Ⅳ層混入）
4	淡黒色土（Ⅴ層混入）
5	黒色土
6	黒色土（Ⅴ層混入）

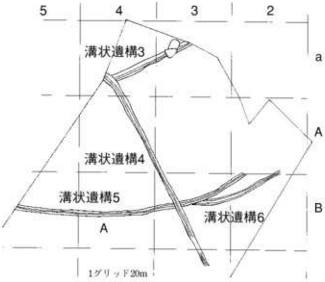
土層断面B

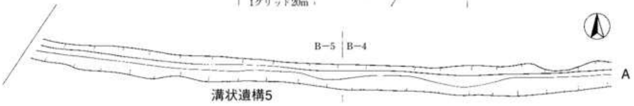
1	黒褐色土
2	淡黒褐色土（Ⅲ・Ⅳ層混入）
3	淡黒色土（Ⅴ層混入）
4	暗褐色土
5	黒色土
6	硬化面

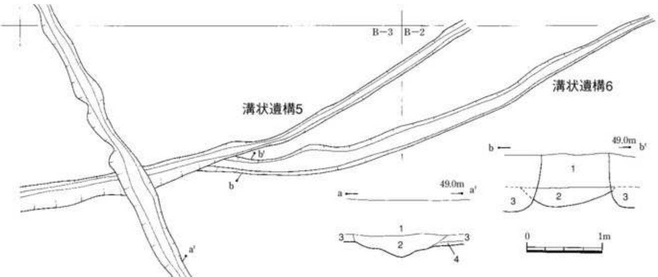
土層断面C（溝状遺構 3 ・ 4 合流地点）

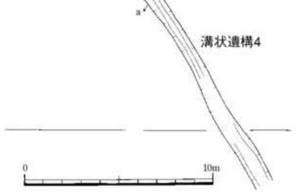
1	表層
2	黒色土（オレンジパミスを含む）
3	黒色土
4	黒色土と黄褐色土の混在（黒色土が強い）
5	黒色土と黄褐色土の混在（黄褐色土が強い）
6	にごった黒色土
7	Ⅴ層
8	硬化面

第62図　古代・中世　溝状遺構 2









溝状遺構４土層断面

1	Ⅰ層（表層）
2	Ⅱ層埋土（黒褐色土）
3	Ⅱ層
4	Ⅲ層

溝状遺構６土層断面

1	Ⅰ層（表層）
2	Ⅱ層埋土（黒褐色土）
3	芋穴かく乱

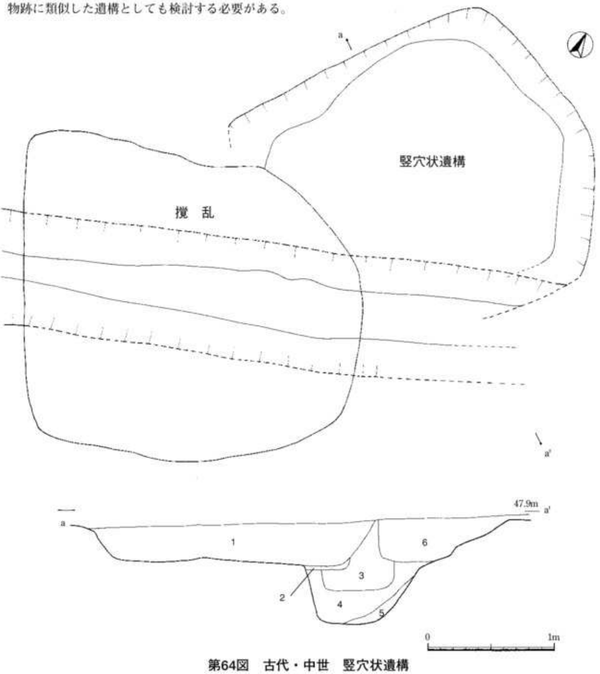
第63図　古代・中世　溝状遺構３

竪穴状遺構（第64図）

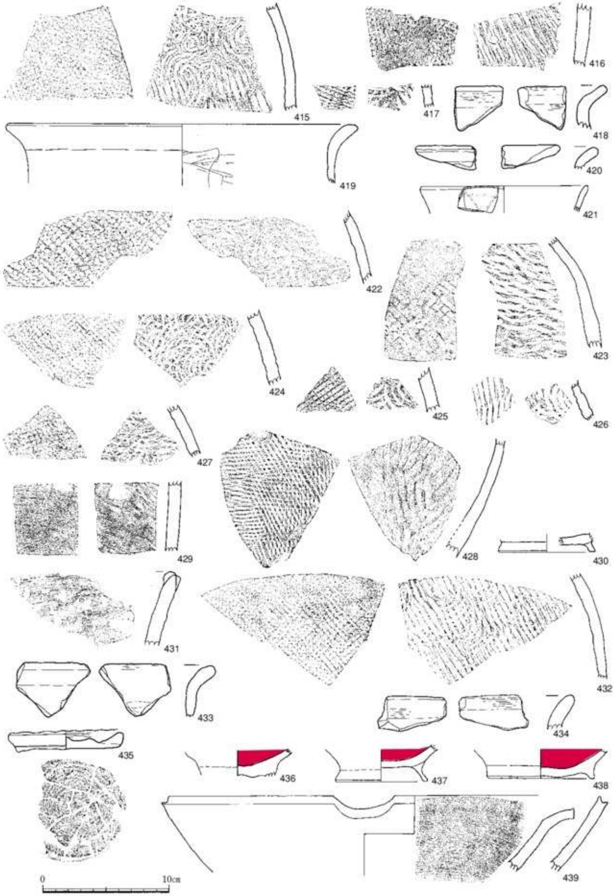
ａ－３区で，溝状遺構３と切り合って検出された中世の竪穴状遺構である。一部削平をうけていたが，残存部分より隅丸方形状と思われる。最初，２基の竪穴遺構と思われて検出されたが，埋土状況等により，１基は撹乱によるものと判断した。埋土から鉄滓が少量出土したが，溝状遺構３の埋土から出土した鉄滓と色や硬さなどほぼ同じ状態であった。竪穴状遺構が溝状遺構を切っている状態で検出されたため，時期差は竪穴状遺構の方が新しいと思われる。焼土跡や炭化物は検出されなかった。今後，竪穴建物跡に類似した遺構としても検討する必要がある。

竪穴状遺構　土層断面図

1	黄黒色明褐色パミス状土混入
2	黒色硬質土
3	黒褐色土
4	淡黒褐色土
5	黒色土
6	撹乱



第64図　古代・中世　竪穴状遺構



第65図　古代・中世　溝状遺構内遺物（1）

溝状遺構内出土遺物（第66図）

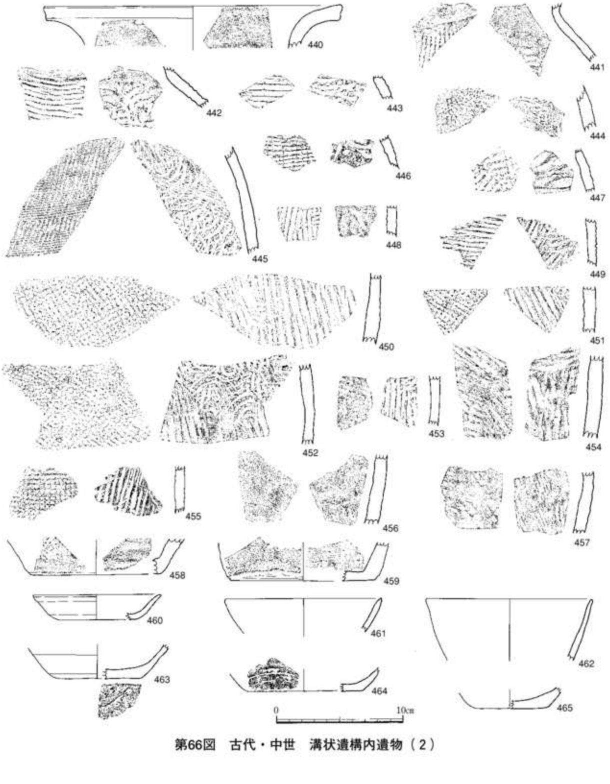
溝状遺構内一括遺物は，全て，溝状遺構３～６から出土したものである。

440～459は，古代の須恵器と思われる。440は，甕の口径23.6㎝の口縁～頸部である。内外面ともナデ調整が施されている。441・442は，甕の頸～胴部である。441は，外面が格子目タタキ，内面が同心円タタキとナデ調整を施し，442は，外面が平行タタキ,内面が同心円タタキとナデ調整を施している。443～457は甕の胴部である。外面は，格子目タタキが多く444～447・450～452・455・457，平行タタキが443・449・453・454，格子目・平行タタキが448である。内面は，同心円タタキが多く443～448，同心円・平行タタキが449・452・454・457，平行タタキが451・455，平行・格子目が450，格子目が453である。456は，内外面ともナデ調整が施されている。458・459は壺の底部である。458は，底径10.2㎝で外面が平行タタキ，内面がナデである。459は，底径11.2㎝で内外面ともナデである。

460～465は,古代の土師器である。460は,口径9.8㎝の皿の口縁～胴部である。461～465は，坏である。461は,内黒の口径12.2㎝を測る口縁部である。462は，内面に朱塗の口径13㎝を測る口縁～胴部である。463～465の底部は，糸切りによる切り離しだと思われる。

古代・中世　溝状遺構内遺物観察表

挿図番号	番号	種別	器種	出土区	遺構	層位	部位	法量(cm) 口径	底径	高台高	色調 内	外	胎土	焼成	外面	内面	備考
第65図	422	須恵器	甕	A−4	溝4	Ⅱ	胴部	−	−	−	灰	灰黄	精緻	良	格子目タタキ	同心円タタキ	
	423	須恵器	甕	B−3		Ⅱ	胴部	−	−	−	灰	灰	精緻	良	格子目タタキ	同心円タタキ	
	424	須恵器	甕	A−4		Ⅱ	胴部	−	−	−	褐灰	にぶい赤褐	精緻	良	格子目タタキ	同心円タタキ	
	425	須恵器	甕	a−4		Ⅱ	胴部	−	−	−	褐灰	にぶい赤褐	精緻	良	格子目タタキ	同心円タタキ	
	426	須恵器	甕	B−3		Ⅱ	胴部	−	−	−	褐灰	暗赤褐	精緻	良	平行タタキ	同心円タタキ	
	427	須恵器	甕	a−4		Ⅱ	胴部	−	−	−	黄灰	にぶい赤褐	精緻	良	格子目タタキ	同心円タタキ	
	428	須恵器	甕	A−4		Ⅱ	胴部	−	−	−	浅黄	にぶい黄橙	精緻	良	格子目タタキ	同心円タタキ	
	429	須恵器	甕	A−3		Ⅱ	胴部	−	−	−	黄灰	灰	精緻	良	格子目タタキ	平行タタキ	
	430	土師器	椀	a-3・4		−	底部	−	7.6	1.0	にぶい黄橙	橙	精緻	良	−	−	内黒
	431	瓦質土器	捏鉢	a−4		Ⅲ	口縁部	−	−	−	淡黄	淡黄	精緻	良	ろくろによるナデ	ろくろによるナデ	東播系
	432	須恵器	甕	B−2	溝6	Ⅱ	胴部	−	−	−	褐灰	浅黄	精緻	良	格子目タタキ	平行・同心円タタキ	
	433	土師器	甕	B-3・4・5		−	口縁部	−	−	−	橙	黒褐	精緻	良	−	−	
	434	土師器	甕	a-3,A・B-4		−	口縁部	−	−	−	橙	橙	精緻	良	−	−	
	435	土師器	皿	B−3		Ⅱ	完形	9.2	7.8	−	黄橙	にぶい橙	精緻	良	−	−	糸切り
	436	土師器	椀	B−3		Ⅱ	底部	−	−	−	橙	橙	精緻	良	−	−	内赤
	437	土師器	椀	B−3		Ⅱ	底部	−	7.3	1.1	浅黄橙	明黄褐	精緻	良	−	−	内赤
	438	土師器	椀	B−2		Ⅱ	底部	−	8.5	0.5	橙	浅黄橙	精緻	良	−	−	内赤
	439	瓦質土器	捏鉢	B−3		Ⅱ	口縁部	32	−	−	灰黄	黄灰	精緻	良	ナデ	ハケ目	東播系
第66図	440	須恵器	甕	一括			口縁～頸部	24	−		褐灰	黄灰	精緻	良	ナデ	ナデ	
	441	須恵器	甕	一括			頸部～胴部	−	−		褐	にぶい黄褐	精緻	良	格子目タタキ	同心円タタキ・ナデ	
	442	須恵器	甕	一括			頸部～胴部	−	−		暗赤褐	にぶい赤褐	精緻	良	平行タタキ	同心円タタキ・ナデ	
	443	須恵器	甕	一括			胴部	−	−		にぶい褐	にぶい赤褐	精緻	良	平行タタキ	同心円タタキ	
	444	須恵器	甕	一括			胴部	−	−		暗灰黄	褐	精緻	良	格子目タタキ	同心円タタキ	
	445	須恵器	甕	一括			胴部	−	−		黄灰	黄灰	精緻	良	格子目タタキ	同心円タタキ	
	446	須恵器	甕	一括			胴部	−	−		オリーブ黒	暗褐	精緻	良	格子目タタキ	同心円タタキ	
	447	須恵器	甕	一括			胴部	−	−		灰黄褐	褐灰	精緻	良	格子目タタキ	同心円タタキ	
	448	須恵器	甕	一括			胴部	−	−		にぶい黄褐	褐灰	精緻	良	格子目・平行タタキ	同心円タタキ	
	449	須恵器	甕	一括			胴部	−	−		にぶい黄褐	褐	精緻	良	平行タタキ	平行・同心円タタキ	
	450	須恵器	甕	一括			胴部	−	−		暗灰黄	黄灰	精緻	良	格子目タタキ	平行・格子目タタキ	
	451	須恵器	甕	一括			胴部	−	−		暗灰黄	黒褐	精緻	良	格子目タタキ	平行タタキ	
	452	須恵器	甕	一括			胴部	−	−		黄灰	にぶい赤褐	精緻	良	格子目タタキ	平行・同心円タタキ	
	453	須恵器	甕	一括			胴部	−	−		暗灰黄	黒褐	精緻	良	格子目タタキ	平行タタキ	
	454	須恵器	甕	一括			胴部	−	−		にぶい褐	にぶい褐	精緻	良	平行タタキ	平行・同心円タタキ	
	455	須恵器	甕	Ⅱ			胴部	−	−		灰黄褐	灰黄褐	精緻	良	格子目タタキ	平行タタキ	
	456	須恵器	甕	一括			胴部	−	−		灰黄	黄灰	精緻	良	ナデ	ナデ	
	457	須恵器	甕	一括			胴部	−	−		にぶい黄褐	にぶい褐	精緻	良	格子目タタキ	平行・同心円タタキ	
	458	須恵器	壺	一括			底部	−	10		にぶい褐	にぶい褐	精緻	良	平行タタキ	ナデ	
	459	須恵器	壺	一括			底部	−	11		褐灰	灰黄	精緻	良	ナデ	ナデ	



第66図　古代・中世　溝状遺構内遺物（２）

古代・中世　溝状遺構内遺物観察表（土師器）

挿図番号	番号	種別	層	器種	部位	法量(cm) 口径	底径	色調 内	外	胎土	焼成	外面	内面	備考
第66図	460	土師器	一括	皿	口縁～胴部	9.8	ー	にぶい橙	にぶい橙	精緻	良	ー	ー	
	461	土師器	一括	坏	口縁	12.2	ー	オリーブ黒	淡黄	精緻	良	ー	ー	内黒
	462	土師器	一括	坏	口縁～胴部	13	ー	黄橙	明赤褐	精緻	良	ー	ー	内朱塗
	463	土師器	一括	坏	底部	ー	9	橙	橙	精緻	良	ー	ー	
	464	土師器	一括	坏	底部	ー	6.6	赤黄褐	赤黄褐	精緻	良	ー	ー	
	465	土師器	一括	坏	底部	ー	5.4	にぶい橙	にぶい橙	精緻	良	ー	ー	

鉄滓（第67・68図）

鍛冶炉跡は確認することができなかったが，溝状遺構の埋土から鞴の羽口や鉄滓が出土したことから，鍛冶工房が存在した可能性も考えられる。また，農業開発総合センター遺跡群では，唯一のまとまった出土である。

竪穴状遺構とも切り合っている溝状遺構３で検出された鉄滓は，黒色のものが多く，溝状遺構４・５・６から検出された鉄滓は，溝状遺構３の鉄滓より明るい色のものが多かった。鉄滓の総重量は，14.2kgであった。

鉄滓等の色調は，錆のため変色も考えられるが，観察表に色調を記入した。やや黒色に近いものと明るいものに分けられ，受けた熱によるものか時代差によるかは検討が必要である。今回は，羽口や椀形滓の中でも残りのよいものを選び，図化した。

466～468は，羽口の先端部分付近である。466は，鉄滓が付着している。鉄滓の一部には炉床が付着し，羽口の表面は溶けガラス化している。467は，羽口の先端部付近に鉄塊が付着しており，外径12.5㎝に対し内径は2.2㎝と細めだと思われる。

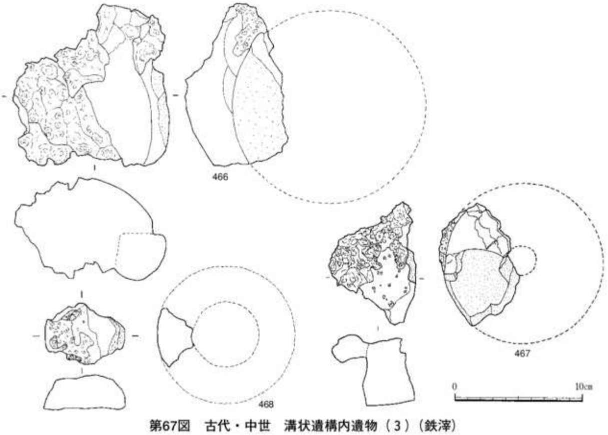
468は，右側が先端部となり，表面は鉄分が付着しているために赤茶けた部分がある。

鉄滓は，大きく２タイプに分けられた。黒色で小型，薄手，表面の凹凸，気泡が見られるＡタイプと茶色で大型が多いBタイプに分けた。

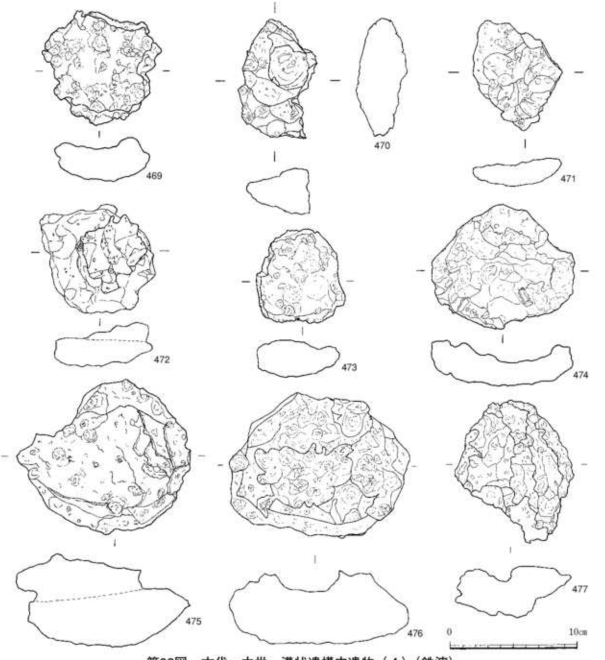
Ａタイプは，469～472である。469は，ほぼ円形で，上部がわずかに窪む。470は，椀形滓が破断したものと思われ，上部には膨らみがあり中は空洞となっている。471も，椀形滓が破断したものと思われ，やや薄手である。472は，やや小さ目の椀形滓の上部にガラス質滓が付着したと思われる。

Bタイプは，473～477である。473は，小さ目の椀形滓が一部破断したものである。上部がわずかに窪む。474は，上部がわずかに窪む。475は，ほぼ完形の円形で，2個の鉄滓が付着している。本遺跡の鉄滓の中で最も大きく，長さ11.4㎝，重さ1160gを測る。476は，平面形が楕円形を呈し，上部がわずかに窪む。1050ｇと他に比べ重い。477は，下部に炉床の土が付着したと思われる痕跡が見られる。

Bタイプには，磁石反応が強いものが多かった。



第67図　古代・中世　溝状遺構内遺物（３）（鉄滓）



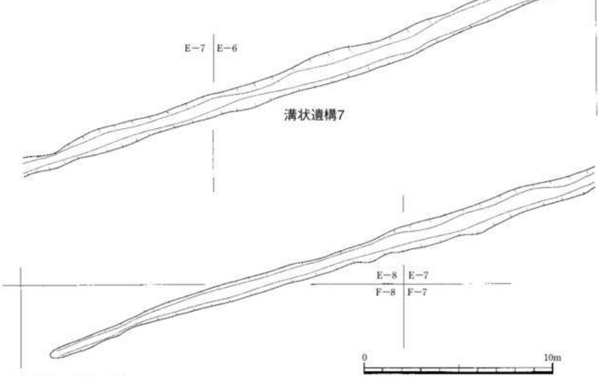
第68図　古代・中世　溝状遺構内遺物（４）（鉄滓）

鉄滓観察表

挿図番号	番号	器種	出土区	層位遺構	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重さ g	色調	磁石反応	羽口部(cm) 内径	羽口部(cm) 外径	備考
第67図	466	鉄滓,羽口	a−3･4	溝状遺構	12.1	11.8	7.9	830	浅黄橙	○	−	(15.3)	
	467	鉄滓,羽口	a−3･4	溝状遺構	7.5	6.4	5	200	浅黄橙	×	(2.2)	(12.5)	
	468	鉄滓,羽口	a−3･4	溝状遺構	4.6	6.3	2.5	50	浅黄橙	×	(5.2)	(10.6)	
第68図	469	椀形滓	a−3･4	溝状遺構3	8.6	7.3	2.4	350	黒褐	△	−	−	
	470	椀形滓	a−3･4	溝状遺構3	9.3	5	3.5	225	灰褐	×	−	−	
	471	椀形滓	a−3･4	溝状遺構4	7.7	7	1.8	145	黒褐	△	−	−	
	472	椀形滓	a−3･4	溝状遺構3	8.3	8.2	2.8	275	黒褐	△	−	−	ガラス質滓付着
	473	椀形滓	a−3･4	溝状遺構	7	6.4	2.7	195	橙	△	−	−	
	474	椀形滓	a−3･4	溝状遺構	9.7	11.1	1.9	410	にぶい橙	○	−	−	
	475	椀形滓	a−3･4	溝状遺構	11.4	13.8	6.7	1160	黄橙	○	−	−	
	476	椀形滓	a−3･4	溝状遺構	10.6	13.9	4.1	1050	黄橙	○	−	−	
	477	椀形滓	B−5	溝状遺構5	9.3	10.9	4	360	明褐	○	−	−	

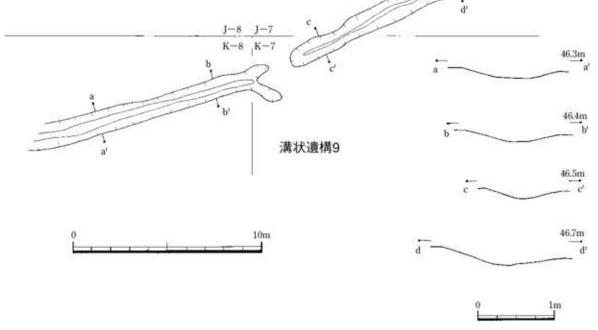
溝状遺構７（第69図）

Ｆ－８～Ｅ－６区にかけてほぼ直線状に検出された。長さ約62ｍ，幅約0.5～1.6ｍである。



溝状遺構９（第69図）

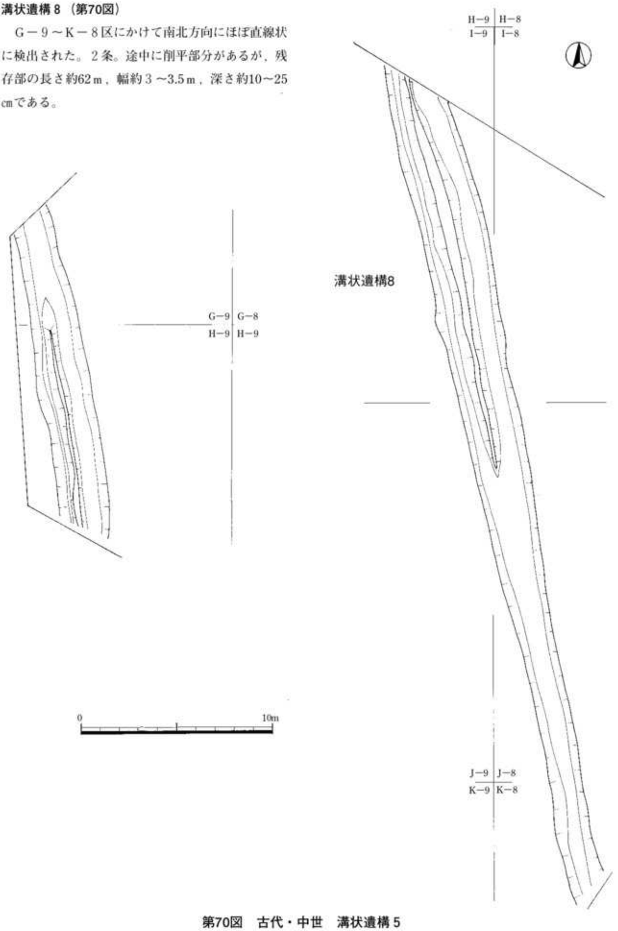
Ｋ―８～Ｊ－７区にかけて東西方向にほぼ直線状に検出された。長さ約27ｍ，幅約1.5～1.8ｍ，深さ約7.8～23.2㎝である。分岐点の部分が，削平等で未確認であるが，溝状遺構８からＫ―８で，分かれる可能性も考えられる。



第69図　古代・中世　溝状遺構４

溝状遺構８（第70図）

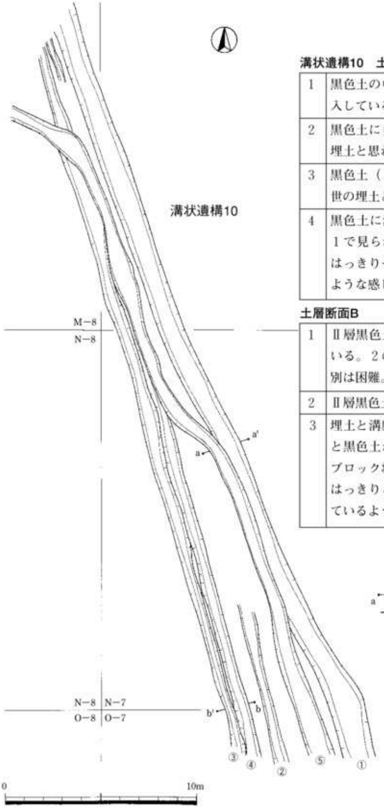
Ｇ－９～Ｋ－８区にかけて南北方向にほぼ直線状に検出された。２条。途中に削平部分があるが，残存部の長さ約62ｍ，幅約３～3.5ｍ，深さ約10～25㎝である。



第70図　古代・中世　溝状遺構５

溝状遺構10（第71図）

M－８～O－７区にかけてほぼ南北方向にほぼ直線状に５条検出された。溝状遺構８とつながると思われる。検出された５条は，切り合い関係や埋土などにより，時期の新しい方から①→②→③→④→⑤の順になると思われる。③～⑤は，ほぼ同時期と見られる。

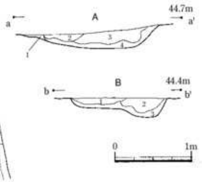


溝状遺構10　土層断面A

1	黒色土の中に溝底面の黄色土がブロック状に混入している。
2	黒色土に多量の白色パミスが混入。近世以降の埋土と思われる。
3	黒色土（Ⅱ層）パミスの混入は見られない。中世の埋土と思われる。
4	黒色土に溝床面の黄色土がブロック状に混入。１で見られる土よりも，黄色土のブロックは，はっきりせず，黒色土にじわじわと染みているような感じ。

土層断面B

1	Ⅱ層黒色土中に白色の細かいパミスが混入している。２の埋土よりもやや灰色を帯びるが，識別は困難。
2	Ⅱ層黒色土
3	埋土と溝底部の接する所であり，溝底の黄色土と黒色土が混ざっている。黒土中に黄色の土がブロック状に入っている。（黄色土ブロックは，はっきりとしたものではなく，じわじわと染みているような感じ）



第71図　古代・中世　溝状遺構６

溝状遺構11

L－13～K－12区にかけてほぼ直線状に検出された。途中の削平部分も含めると，長さ約26.5ｍ，幅約0.5～1.1ｍである。

溝状遺構12

N－4～M－2区にかけてほぼ東西方向に直線状に検出された。長さ約29ｍ，幅約0.7～0.8ｍ，深さ約23～30㎝である。埋土は，黒色土一層で，遺構内遺物は，出土しなかった。検出状況や埋土などにより，時代は中世と思われる。

溝状遺構13

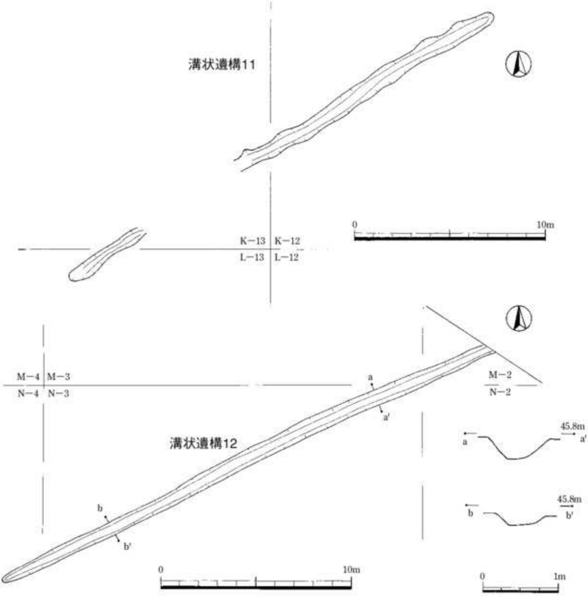
D－2～H－お区にかけて参道に平行して，ほぼ直線上に検出された。長さ約144ｍ，幅約0.9～1.6ｍ，深さ約20～45㎝である。

溝状遺構14

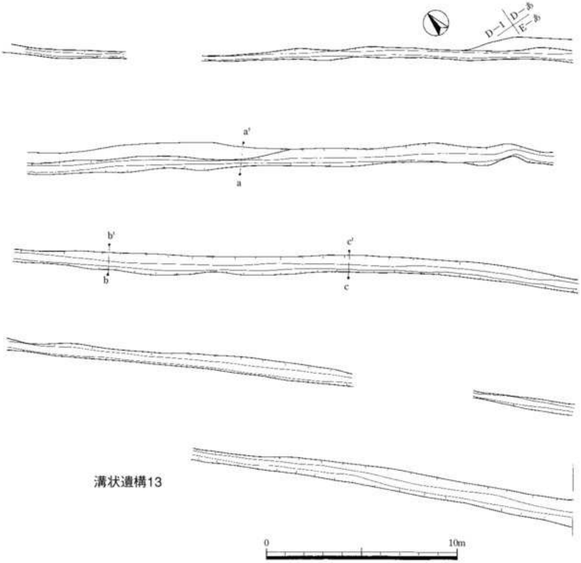
K－4～H－2区にかけてほぼ南北方向にやや波状に検出された。

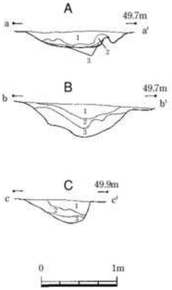
溝状遺構15

宗円掘遺跡の範囲内の中世と思われる溝状遺構である。K－15～L－14区にかけてほぼ直線状に検出された。長さ約25ｍ，幅約0.3～1.3ｍである。埋土は，黒色土一層で，遺構内遺物は，出土しなかった。



第72図　古代・中世　溝状遺構７





溝状遺構13　土層断面A

1	黒色土
2	色の薄い黒色土（パミス）
3	茶褐色土

土層断面B

1	黒色土（ザラザラしている）
2	黒色土（粘り気がある）
3	色の薄い黒色土（パミス）

土層断面C

1	黒色土（パミス少し）
2	黒色土（パミス多い）
3	茶褐色土

第73図　古代・中世　溝状遺構８

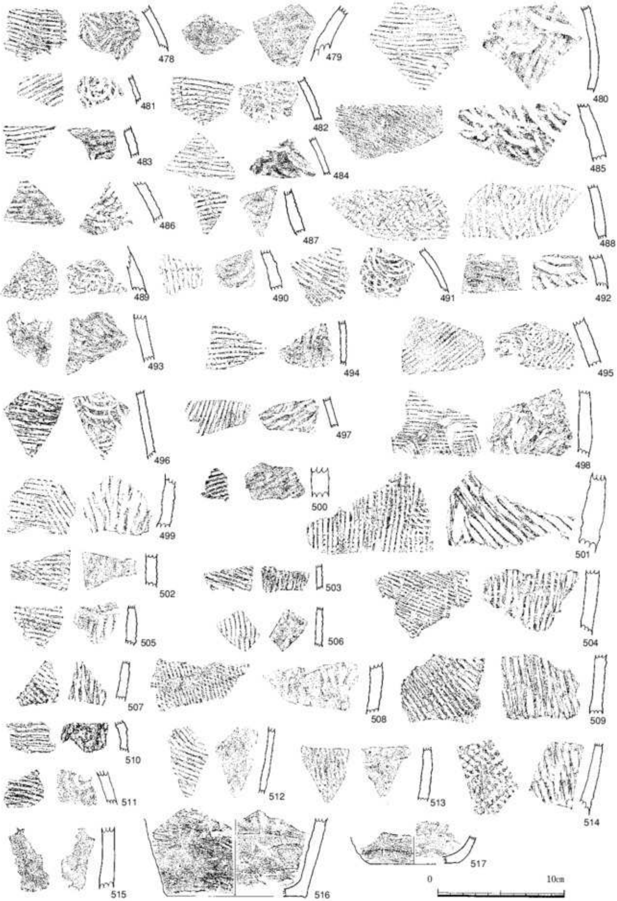
（2）遺物

①須恵器（第74図）

478～517は，須恵器である。478は，椀の胴部で，外面は平行タタキ，内面は放射状タタキである。479～514は，甕である。479は，内外面ともナデ調整の頸部である。他の甕は，胴部である。480は，外面が平行タタキで，内面が平行・同心円タタキ後ナデ調整を施している。他の甕の胴部の内面はほとんど平行タタキや格子目タタキで，外面はほとんど同心円タタキや平行タタキ調整を施している。515は，壺の胴部で，内外面ともナデ調整を施している。516は，壺の底径11㎝を測る底部で，内外面ともナデ調整を施している。517は，坏の底部で，内外面とも丁寧なナデ調整を施している。

古代・中世　遺物観察表（須恵器）

挿図番号	番号	出土区	層位	器種	部位	法量(cm)	色調		胎土	焼成	外面	内面	備考
						底径	内	外					
第74図	478	A−2	Ⅱ	椀	胴部	−	黄灰	黄灰	精緻	良	平行タタキ	放射状タタキ	
	479	a−4	Ⅲ	甕	頸部	−	灰黄褐	にぶい褐	精緻	良	ナデ	ナデ	
	480	−	−	甕	胴部	−	オリーブ褐	黄灰	精緻	良	平行タタキ	平行・同心円タタキ後ナデ	
	481	A−2	Ⅱ	甕	胴部	−	褐灰	灰褐	精緻	良	平行タタキ	同心円タタキ	
	482	−	Ⅱ	甕	胴部	−	にぶい黄褐	褐	精緻	良	平行タタキ	平行・同心円タタキ	
	483	−	−	甕	胴部	−	オリーブ褐	黄褐	精緻	良	格子目タタキ	同心円タタキ	
	484	−	−	甕	胴部	−	暗灰黄	黄灰	精緻	良	平行タタキ	同心円タタキ	
	485	−	−	甕	胴部	−	暗灰黄	暗灰黄	精緻	良	平行タタキ	同心円タタキ	
	486	A−3	Ⅱ	甕	胴部	−	灰白	灰白	精緻	良	平行タタキ	同心円タタキ	
	487	B−3	Ⅲ	甕	胴部	−	明灰黄	明灰黄	精緻	良	格子目タタキ	同心円タタキ	
	488	A−2	Ⅱ	甕	胴部	−	灰	灰	精緻	良	格子目タタキ	同心円・平行タタキ	
	489	−	I	甕	胴部	−	灰黄褐	にぶい赤褐	精緻	良	格子目タタキ	格子目・同心円タタキ	
	490	B−3	Ⅲ上	甕	胴部	−	にぶい褐	灰オリーブ	精緻	良	格子目タタキ	同心円タタキ	
	491	A−2	Ⅱ	甕	胴部	−	黄灰	褐	精緻	良	平行タタキ	同心円タタキ	
	492	−	−	甕	胴部	−	灰黄褐	黒褐	精緻	良	平行タタキ	平行・同心円タタキ	
	493	−	−	甕	胴部	−	灰オリーブ	暗赤褐	精緻	良	格子目タタキ	同心円タタキ	
	494	−	−	甕	胴部	−	黄褐	黄褐	精緻	良	格子目タタキ	平行タタキ	
	495	−	−	甕	胴部	−	灰黄褐	灰黄褐	精緻	良	平行タタキ	平行・同心円タタキ	
	496	−	Ⅱ	甕	胴部	−	にぶい赤褐	にぶい赤褐	精緻	良	格子目タタキ	同心円タタキ	
	497	A−4	Ⅱ	甕	胴部	−	にぶい黄褐	灰黄	精緻	良	平行タタキ	平行・同心円タタキ	
	498	−	−	甕	胴部	−	にぶい褐	にぶい黄褐	精緻	良	平行タタキ	同心円タタキ	
	499	−	I	甕	胴部	−	暗灰黄	にぶい黄褐	精緻	良	格子目タタキ	平行タタキ	
	500	B−4	Ⅲ	甕	胴部	−	灰褐	にぶい赤褐	精緻	良	平行タタキ	平行タタキ	
	501	−	−	甕	胴部	−	暗灰黄	褐	精緻	良	格子目タタキ	平行タタキ	
	502	−	I	甕	胴部	−	にぶい褐	暗褐	精緻	良	平行タタキ	平行タタキ後ナデ	
	503	−	−	甕	胴部	−	にぶい黄褐	灰黄褐	精緻	良	平行タタキ	同心円タタキ	
	504	−	−	甕	胴部	−	褐	灰黄褐	精緻	良	平行タタキ	平行タタキ	
	505	−	−	甕	胴部	−	暗灰黄	暗褐	精緻	良	格子目・平行タタキ	平行タタキ	
	506	−	−	甕	胴部	−	黄灰	暗灰黄	精緻	良	平行タタキ	ナデ	
	507	−	−	甕	胴部	−	褐灰	灰褐	精緻	良	格子目タタキ	平行タタキ	
	508	a−4	Ⅱ	甕	胴部	−	暗灰黄	暗灰黄	精緻	良	平行タタキ	同心円タタキ	
	509	−	−	甕	胴部	−	黄灰	灰褐	精緻	良	格子目・平行タタキ	平行タタキ	
	510	A−3	Ⅱ	甕	胴部	−	灰黄褐	褐灰	精緻	良	平行タタキ	同心円タタキ	
	511	−	−	甕	胴部	−	にぶい赤褐	にぶい赤褐	精緻	良	平行タタキ	同心円タタキ	
	512	B−3	Ⅳ	甕	胴部	−	褐灰	褐灰	精緻	良	平行タタキ	ナデ	
	513	A−3	Ⅲ	甕	胴部	−	暗赤褐	暗赤褐	精緻	良	格子目タタキ	ナデ	
	514	−	I	甕	胴部	−	にぶい褐	黄灰～黒褐	精緻	良	格子目タタキ	平行タタキ	
	515	−	I	壺	胴部	−	褐灰	褐灰	精緻	良	ナデ	ナデ	
	516	N−6	Ⅱ	壺	底部	11.0	暗灰黄	にぶい黄褐	精緻	良	ナデ	ナデ	
	517	A−2	Ⅱ	坏	底部	7.0	にぶい黄橙	にぶい橙	精緻	良	ナデ	ナデ	



第74図　古代・中世　遺物１（須恵器）

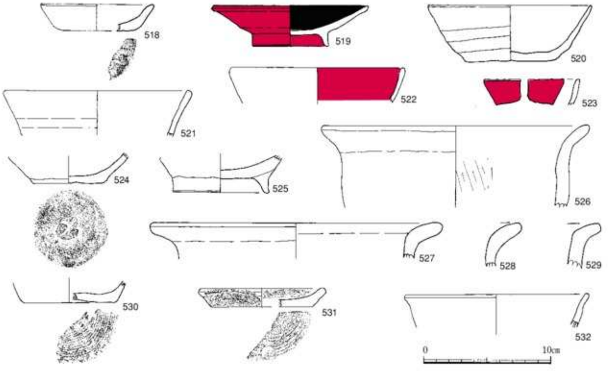
②土師器（第75図）

518は，口縁部から底部まで残る口径９㎝，器高2.2㎝を測る皿である。底部の切り離しは，糸切りによるものと考えられる。519は，口径12㎝，底径６㎝，器高3.2㎝を測る高台付皿である。口縁部から底部にかけて，ほぼ完形に近い状態で残る内黒土器で，外面には丹塗りが施されている。器形は，「ハの字状」に外側に広がった高台から，口縁部にかけて大きく直線的に立ち上がる浅いタイプである。520～523は精緻な坏で，520は完形，521～523は口縁部を残すのみである。522は内面に，523は内外面に丹塗りが確認できる。524は底径5.6㎝の皿で，底部の切り離しは，糸切りによるものである。

525は，高台付皿の底部であり，高台から口縁部にかけて内湾しながら立ち上がっていくアウトラインを描く。526～529は，どれも甕の口縁部である。526・527の口径はそれぞれ21㎝・23㎝とあまり大きなものではない。526は，口縁端部が薄く，緩やかに外反するのに対し，527～529は，耳朵状の肉厚タイプで急激に外反する。530は，切り離しが糸切りによる皿の底部である。531は，糸切りの坏の口縁部から底部である。表面は，煤に覆われたように黒ずんでいる。

③白磁（第75図）

532は，白磁の碗の口縁部で，口径7.3㎝を測る。14世紀頃の白磁と思われる。口縁部がわずかに外反し，外面に一箇所空気の抜け穴と思われるピンホールが確認できる。



第75図　古代・中世　遺物2（土師器、白磁）

古代・中世　遺物観察表（土師器・白磁）

挿図番号	番号	器種	出土区	層位	部位	法量(cm) 口径	底径	器高	高台高	色調 内	外	胎土	焼成	備考
第75図	518	皿	ー	Ⅰ	口縁～底部	9	ー	2.2	ー	にぶい黄	浅黄	精緻	良	
	519	高台付皿	B−3	Ⅱ	口縁～底部	12	6	3.2	ー	黒	明赤褐	精緻	良	内黒・外朱塗,ピット内?
	520	坏	ー	Ⅰ	完形	12.9	7	4.4	1	黄橙	橙	精緻	良	
	521	坏	ー	Ⅰ	口縁部	13	ー	ー	ー	浅黄橙	にぶい黄橙	精緻	良	
	522	坏	A−2	Ⅱ	口縁部	13.5	ー	ー	ー	朱塗り	橙	精緻	良	内朱塗
	523	坏	B−3	Ⅱ	口縁部	ー	ー	ー	ー	朱塗り	朱塗り	精緻	良	内外朱塗
	524	皿	ー	なし	底部	ー	5.6	ー	ー	浅黄	にぶい黄橙	精緻	良	
	525	高台付皿	B−3	Ⅱ	底部	ー	ー	ー	1.3	にぶい黄橙	橙	精緻	良	ピット内?
	526	甕	ー	Ⅰ	口縁部	21	ー	ー	ー	橙	橙	精緻	良	
	527	甕	ー	なし	口縁部	23	ー	ー	ー	灰黄褐	にぶい黄橙	精緻	良	
	528	甕	ー	なし	口縁部	ー	ー	ー	ー	浅黄橙	浅黄橙	精緻	良	
	529	甕	E−あ	Ⅲ	口縁部	ー	ー	ー	ー	オリーブ灰	浅黄	精緻	良	
	530	皿	D−え	Ⅱ下	底部	ー	7	ー	ー	浅黄橙	浅黄橙	精緻	良	糸切り,中世
	531	坏	a−4	Ⅱ	口縁～底部	ー	ー	ー	ー	灰黄褐	灰黄褐	精緻	良	中世
	532	白磁(碗)	F−1	Ⅱ	口縁部	7.3	ー	ー	ー	灰	灰	精緻	良	

第6節　小結

諏訪脇遺跡においては，縄文時代早期・中後期・晩期，弥生時代，古墳時代，古代から中世の各時代の遺構・遺物が出土している。

1　縄文時代早期

早期の遺構は，集石を4基検出されている。

遺物は，土器を7類に分類した。Ⅰ類を桑ノ丸，Ⅱ類を押型文，Ⅲ類を手向山，Ⅳ類を縄文，Ⅴ類を平栫，Ⅵ類を塞ノ神式に類するもの，Ⅶ類をその他の早期の土器とした。石器は，石鏃・異形石器・打製石斧・礫器・磨石・敲石・石皿等が出土した。類似した形態の異形石器は，接する諏訪牟田遺跡で1点出土している。他の農業センター遺跡群内の遺跡で出土した異形石器と違う点は，頭部にも入念な剥離が施され，刃部を形成している所である。

2　縄文時代中後期

中後期の遺構は検出できなかったが，土器は，Ⅷ類からⅪ類の4類に分類された。Ⅷ類は南福寺式系土器，Ⅸ類とⅩ類は岩崎上層式，Ⅺ類は市来式に類するものと思われる。なお，岩崎上層式は，口縁部下位に先端が二叉状の施文工具を使って凹線文を横位に施すものをⅨ類に，胴部の上部から下部にかけて波状の沈線文が2条施されるものをⅩ類に分類したが，今後細分される可能性を持つものである。

3　縄文時代晩期

晩期の遺構は，土坑が6基，掘立柱建物跡7棟，柱穴列が30列，埋設土器が2基検出されている。

土坑からは，完形に復元された上加世田式に相当するものが出土し，その中には，口縁部に沈線の施されているタイプと沈線の施されていないタイプと思われるものがあった。埋設土器は，諏訪牟田遺跡等隣接した遺跡で検出された埋設土器と同じく，2基とも入佐式土器に相当するものと思われる。

遺物のうち，土器は，粗製深鉢形土器と精製浅鉢形土器に形態分類できる。深鉢形土器は，Ⅻ類を上加世田式，ⅩⅢ類を入佐式の2つに大別した。なお，入佐式は，口縁部の端が直立するか外側にやや広がるもので，口縁部の幅は狭い旧タイプをa類に，口縁部の端が外側に広がり，a類より幅が広い新タイプをb類に分類した。浅鉢型土器は，一括してⅩⅢ類の入佐式として扱ったが，口縁部に施された沈線や頸部の短さ等から上加世田式の可能性の残るものもある。

石器は，石鏃・くさび形石器・管玉・スクレイパー・打製石斧・磨製石斧・磨石・敲石・耳飾・石皿等が出土している。

4　弥生・古墳時代

出土遺物は少なかったが，遺構は，竪穴状遺構が1軒検出されている。土器は，弥生時代のものと思われる壺型土器が2点，古墳時代のものと思われる甕型土器が3点，石器は，石包丁が1点出土している。

5　古代～中世

遺構は，掘立柱建物跡12棟，溝状遺構14条，竪穴状遺構1軒が検出された。特に溝状遺構からは，鉄滓が検出されており，農業開発総合センター遺跡群で唯一のまとまった出土である。遺物は，土師器・須恵器・青磁・白磁・瓦質土器等が出土している。

近代の参道と平行して溝状遺構が検出されているが，近隣遺跡で検出された溝状遺構等も含め，関連性があるか今後詳細な検討が必要である。

参考文献

1　鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（28）国分上野原テクノパーク第3工区造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書（Ⅱ）「上野原遺跡（第10地点）」第7・8分冊　2001年3月鹿児島県立埋蔵文化財センター　**異形石器**

2　熊本県文化財調査報告第148集　県営農業農村整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査「無田原遺跡」1995年3月熊本県教育委員会

3　熊本県大津町文化財調査報告「瀬田裏遺跡調査報告」1992年大津町教育委員会瀬田裏遺跡調査団，（株）阿蘇大津ゴルフ場

4　鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（69）九州新幹線鹿児島ルート建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅹ「大原野遺跡」2004年3月鹿児島県立埋蔵文化財センター　**石鏃**

5　喜界町埋蔵文化財発掘調査報告書（8）喜界島通信所整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書「城久遺跡群」山田中西遺跡Ⅰ　2006年3月喜界町教育委員会　**掘立柱建物跡**

6　鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（39）九州新幹線鹿児島ルート建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ「鍛冶屋馬場遺跡」2003年3月鹿児島県立埋蔵文化財センター　**鉄滓**

7　鹿児島県立埋蔵文化財センター発掘調査報告書（71）東九州自動車道建設（末吉財部IC～国分IC間）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ「踊場遺跡，高篠遺跡」2004年3月鹿児島県立埋蔵文化財センター

諏訪脇遺跡の植物珪酸体分析

株式会社 古環境研究所

1　はじめに　植物珪酸体は，植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸（SiO_2）が蓄積したものであり，植物が枯れたあとも微化石（プラント・オパール）となって土壌中に半永久的に残っている。植物珪酸体分析は，この微化石を遺跡土壌などから検出して同定・定量する方法であり，イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている（杉山，2000）。

2　試料　分析試料は，諏訪脇遺跡の1号土坑から採取されたものである。

3　分析法　植物珪酸体の抽出と定量は，プラント・オパール定量分析法（藤原，1976）をもとに，次の手順で行った。

（1）試料を105℃で24時間乾燥（絶乾）

（2）試料約1gに直径約40μmのガラスビーズを約0.02g添加（電子分析天秤で0.1㎎の精度で秤量）

（3）電気炉灰化法（550℃・6時間）による脱有機物処理

（4）超音波水中照射（300W・42KHz・10分間）による分散

（5）沈底法による20μm以下の微粒子除去

（6）封入剤（オイキット）中に分散してプレパラート作成

（7）検鏡・計数

同定は，イネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体をおもな対象とし，400倍の偏光顕微鏡下で行った。計数は，ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。試料1gあたりのガラスビーズ個数に，計数された植物珪酸体とガラスビーズ個数の比率をかけて，試料1g中の植物珪酸体個数を求めた。

また，おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位：10^{-5}g）をかけて，単位面積で層厚1㎝あたりの植物体生産量を算出した。ヨシ属（ヨシ）の換算係数は6.31，ススキ属（ススキ）は1.24，メダケ節は1.16，ネザサ節は0.48，クマザサ属（チシマザサ節・チマキザサ節）は0.75，ミヤコザサ節は0.30である。タケ亜科については，植物体生産量の推定値から各分類群の比率を求めた。

4　分析結果

（1）分類群　分析試料から検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。

［イネ科］キビ族型，ヨシ属，ススキ属型（おもにススキ属），ウシクサ族A（チガヤ属など），ウシクサ族B

［イネ科ータケ亜科］メダケ節型（メダケ属メダケ節・リュウキュウチク節，ヤダケ属），ネザサ節型（おもにメダケ属ネザサ節），クマザサ属型（チシマザサ節やチマキザサ節など），ミヤコザサ節型（おもにクマザサ属ミヤコザサ節），未分類等

［イネ科ーその他］表皮毛起源，棒状珪酸体（おもに結合組織細胞由来），未分類等

［樹木］ブナ科（シイ属），クスノキ科，その他

（2）植物珪酸体の検出状況　諏訪脇遺跡1号土坑の埋土底部（試料7）および埋土下部（試料4～6）について分析を行った。その結果，埋土底部（試料7）ではクスノキ科が多量に検出され，ミヤコザサ節型も比較的多く検出された。また，ウシクサ族A·メダケ節型·ネザサ節型·クマザサ属型およびブナ科（シイ属）なども検出された。埋土下部（試料4～6）では，クスノキ科が大幅に増加しており，試料4では密度が5万個/g以上にも達している。また，ブナ科（シイ属）もやや増加しているが，イネ科はあまり見られなくなっている。今回の分析では，イネ科栽培植物（イネ·ムギ類·ヒエ·アワ·キビなど）に由来する植物珪酸体の検出が期待されたが，これらの植物珪酸体はいずれの試料からも検出されなかった。

5　参考文献

杉山真二（1987）タケ亜科植物の機動細胞珪酸体．富士竹類植物園報告，第31号，p.70-83.

杉山真二（1999）植物珪酸体分析からみた九州南部の照葉樹林発達史．第四紀研究，38（2），p.109-123.

杉山真二（2000）植物珪酸体（プラント・オパール）．考古学と植物学．同成社，p.189-213.

藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究（1）ー数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法ー．考古学と自然科学，9，p.15-29.

室井綽（1969）竹・笹の話ーよみもの植物記ー，北隆館

宗　円　掘　遺　跡

第Ⅴ章　宗円掘遺跡の発掘調査成果

第１節　調査の経過

宗円堀遺跡は，平成12年度，14年度に本調査を実施した。本調査は幹線道路，研究畑部分に相当する範囲を対象とした。

１　日誌抄

（平成12年度）

10月　調査開始。環境整備。
　　O～R－10～12区Ⅱ～Ⅳ層掘り下げ。縄文時代晩期土器出土。柱列検出，写真撮影，図面実測。P－10・11，R－11・12トレンチ調査。土層断面実測。

11月　O～R－10～12区Ⅴ～Ⅹ層，シラス上面まで掘り下げ。P－10区，旧石器時代遺物出土。トータルステーションで取り上げ。

12月　O～P－10・11区，Ⅷ～Ⅹ層，シラス上面まで掘り下げ。幹線道路部分Ⅲ～Ⅷ層掘り下げ。
　　旧石器時代遺物出土。取り上げ。調査終了。

（平成14年度）

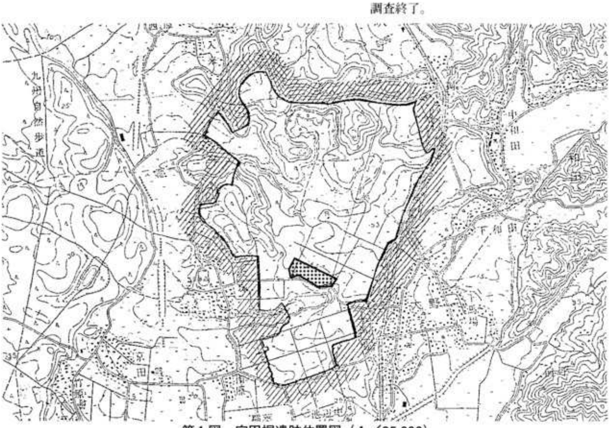
11月　調査開始。環境整備。
　　K～P－13～16区Ⅱ～Ⅷ層掘り下げ。縄文時代晩期土器出土，取り上げ。K～L－14・15溝状遺構検出。L－16区柱穴列検出。写真撮影，図面実測。

12月　J～N－16～20区Ⅲ～Ⅳ層掘り下げ。縄文時代晩期・早期遺物出土。平板遺物取り上げ。M－14，O－11トレンチ調査。土層断面実測。

１月　J～L－17～19区Ⅲ～Ⅳ層掘り下げ。遺物取り上げ。K－20区土坑検出。J－19区集石検出。写真撮影，図面実測。
　　O～Q－７～10区Ⅲ・Ⅳ層掘り下げ。

２月　J～L－18・19区Ⅲ～Ⅷ層掘り下げ。遺物取り上げ。空中写真撮影。
　　J・K－18・19区礫群検出，Q－10区柱列検出。写真撮影，図面実測。

３月　J・K－18～20区Ⅳ～Ⅷ層掘り下げ。遺物取り上げ。土層断面実測。K－17区礫群，P－９区柱列検出。写真撮影，図面実測。調査終了。



第１図　宗円掘遺跡位置図（１／25,000）

第２図　地形図及びグリッド配置図（１／2,000）